
2016年度

シラバス

ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください◆

【シラバスの見方】

1. 目次について

(1) シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合がありますので注意してください。

(2) 履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科	経： 経済学部	律： 法律学科
英： 英語学科	済： 経済学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科	営： 経営学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科	環： 国際環境経済学科	免： 2013年度以降入学の教職課程登録者
全： ドイツ語学科以外の全学部・全学科		

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

3. 注意事項

(1) 履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

(2) 定員

定員を設けている科目があります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

(3) 履修登録

学期ごとに第1回目の授業で選考または抽選を行う授業もあるので、必ずシラバスを参照してください。

— 目 次 —

ドイツ語学科授業科目（2009年度以降入学者用）

外国語科目	-----	2
演習科目、概論・専門講義・テキスト研究科目	-----	3
交流文化論	-----	6
外国語学部共通科目	-----	7
担当者別シラバス	-----	9

ドイツ語学科 授業科目(2009～2016年度入学者用)

外国語科目

科目名		担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
既 修	総合ドイツ語Ⅰ	M. ラインデル/堤 那美子	春	—	1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅱ	M. ラインデル/堤 那美子	秋	—	1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅲ	T. カーラー/黒子 葉子	春	—	1	2	全	10
	総合ドイツ語Ⅳ	T. カーラー/黒子 葉子	秋	—	1	2	全	10
	基礎ドイツ語Ⅰ	I. アルブレヒト	春	—	1	1	全	11
	基礎ドイツ語Ⅱ	I. アルブレヒト	秋	—	1	1	全	11
	応用ドイツ語Ⅰ	A. ヴェルナー	春	—	1	2	全	12
	応用ドイツ語Ⅱ	A. ヴェルナー	秋	—	1	2	全	12
未 修	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	1	全	13
	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	1	全	13
	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春	—	1	2	全	14
	総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋	—	1	2	全	14
	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	1	全	15
	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	1	全	15
	応用ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	2	全	16
	応用ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	2	全	16
レ ベル A	中級ドイツ語リーディング a	S. ヴィーク	春	火3	1	2		17
	中級ドイツ語リーディング b	S. ヴィーク	秋	火3	1	2		17
	中級ドイツ語ライティング a	H. W. ラーデケ	春	金4	1	2		18
	中級ドイツ語ライティング b	H. W. ラーデケ	秋	金4	1	2		18
	中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	月4	1	2		19
	中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	月4	1	2		19
	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	H. W. ラーデケ	春	火4	1	2		20
	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	H. W. ラーデケ	秋	火4	1	2		20
レ ベル B	中級ドイツ語リーディング a	R. ヘニング	春	月4	1	2		21
	中級ドイツ語リーディング b	R. ヘニング	秋	月4	1	2		21
	中級ドイツ語ライティング a	T. カーラー	春	木2	1	2		22
	中級ドイツ語ライティング b	T. カーラー	秋	木2	1	2		22
	中級ドイツ語スピーキング a	H. J. トロル	春	金1	1	2		23
	中級ドイツ語スピーキング b	H. J. トロル	秋	金1	1	2		23
	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	D. オルランド	春	木2	1	2		24
	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	D. オルランド	秋	木2	1	2		24
英語	M. J. クロフォード	春	金2	1	2		25	
英語	M. J. クロフォード	秋	金2	1	2		25	

外国語科目

科目名		担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
既修・ スーパ ー	総合ドイツ語Ⅴ	D. H. マッコイ	春	火3/木2	2	3		26
	総合ドイツ語Ⅵ	D. H. マッコイ	秋	火3/木2	2	3		26
	総合ドイツ語Ⅶ	M. ビティヒ	春	月4/水2	2	3		27
	総合ドイツ語Ⅷ	M. ビティヒ	秋	月4/水2	2	3		27
標準	総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春	—	2	3		28
	総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋	—	2	3		28
	総合ドイツ語Ⅶ	E. ビリック	春	火2/木1	2	3		29
	総合ドイツ語Ⅷ	E. ビリック	秋	火2/木1	2	3		29
上級ドイツ語リーディング a		R. ヘニング	春	金2	2	3		30
上級ドイツ語リーディング b		R. ヘニング	秋	金2	2	3		30
上級ドイツ語リーディング a		L. パウアー	春	金4	2	3		31
上級ドイツ語リーディング b		L. パウアー	秋	金4	2	3		31
上級ドイツ語ライティング a		A. ヴェルナー	春	金3	2	3		32
上級ドイツ語ライティング b		A. ヴェルナー	秋	金3	2	3		32
上級ドイツ語ライティング a		S. メルテンス	春	火2	2	3		33
上級ドイツ語ライティング b		S. メルテンス	秋	火2	2	3		33
上級ドイツ語ライティング a		L. パウアー	春	月2	2	3		34
上級ドイツ語ライティング b		L. パウアー	秋	月2	2	3		34
上級ドイツ語スピーキング a		H. W. ラーデケ	春	火2	2	3		35
上級ドイツ語スピーキング b		H. W. ラーデケ	秋	火2	2	3		35
上級ドイツ語スピーキング a		D. H. マッコイ	春	火4	2	3		36
上級ドイツ語スピーキング b		D. H. マッコイ	秋	火4	2	3		36
上級ドイツ語スピーキング a		R. メッツィング	春	金2	2	3		37
上級ドイツ語スピーキング b		R. メッツィング	秋	金2	2	3		37
上級ドイツ語リスニング(CAL) a		R. ヘニング	春	月2	2	3		38
上級ドイツ語リスニング(CAL) b		R. ヘニング	秋	月2	2	3		38
上級ドイツ語リスニング(CAL) a		S. メルテンス	春	木1	2	3		39
上級ドイツ語リスニング(CAL) b		S. メルテンス	秋	木1	2	3		39
中世ドイツ語 a		I. アルブレヒト	春	水2	2	3		40
中世ドイツ語 b		I. アルブレヒト	秋	水2	2	3		40
ビジネスドイツ語 a		D. H. マッコイ	春	火2	2	3		41
ビジネスドイツ語 b		D. H. マッコイ	秋	火2	2	3		41
上級ドイツ語特殊演習		V. シュタンツェル	秋	金2	2	3		42
上級英語		辻田 麻里	春	金2	2	3		43
上級英語		辻田 麻里	秋	金2	2	3		43

09～16年度入学者用

演習科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏入門Ⅰ	黒子 葉子	春	水3	2	1	全	44
ドイツ語圏入門Ⅱ	黒子 葉子	秋	水3	2	1	全	44
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春	水2	2	2	全	45
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋	水2	2	2	全	45
通訳特殊演習	中山 純	春	水3	2	3		46
通訳特殊演習	中山 純	秋	水3	2	3		46
翻訳特殊演習	上田 浩二	春	木3	2	3		47
インターンシップ特殊演習	A. ヴェルナー	春	木5	2	3		48
留学準備特殊演習	柿沼 義孝	春	金3	2	3		49
外国語教育特殊演習	M. ラインデル	春	月5	2	3		50
外国語教育特殊演習	M. ラインデル	秋	月5	2	3		50
外国語教育特殊演習	上田 浩二	秋	木3	2	3		51

概論・専門講義・テキスト研究科目

語学・文学・思想研究コース

09～16年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語概論 a	金井 満	春	火4	2	1	交	52
ドイツ語概論 b	金井 満	秋	火4	2	1	交	52
ドイツ語圏文学・思想概論 a	渡部 重美	春	木4	2	1	交	53
ドイツ語圏文学・思想概論 b	渡部 重美	秋	木4	2	1	交	53
ドイツ語圏の言語 a	黒子 葉子	春	金4	2	2		54
ドイツ語圏の言語 b	黒子 葉子	秋	金4	2	2		54
ドイツ語圏の文学 a	高橋 輝暁	春	火2	2	2		55
ドイツ語圏の文学 b	高橋 輝暁	秋	火2	2	2		55
ドイツ語圏の思想 a	工藤 達也	春	月3	2	2		56
ドイツ語圏の思想 b	工藤 達也	秋	月3	2	2		56
テキスト研究(語学・文学・思想) b	A. ヴェルナー	秋	木5	2	3		57
テキスト研究(語学・文学・思想) a	M. ビティヒ	春	水1	2	3		58
テキスト研究(語学・文学・思想) a	M. ラインデル	春	水2	2	3		59
テキスト研究(語学・文学・思想) b	M. ラインデル	秋	水2	2	3		59
テキスト研究(語学・文学・思想) a	高橋 輝暁	春	火3	2	3		60
テキスト研究(語学・文学・思想) b	高橋 輝暁	秋	火3	2	3		60
テキスト研究(語学・文学・思想) a	高橋 輝暁	春	水2	2	3		61
テキスト研究(語学・文学・思想) b	高橋 輝暁	秋	水2	2	3		61
テキスト研究(語学・文学・思想) a	中山 純	春	水4	2	3		62
テキスト研究(語学・文学・思想) b	中山 純	秋	水4	2	3		62
テキスト研究(語学・文学・思想) a	本橋 右京	春	木2	2	3		63
テキスト研究(語学・文学・思想) b	本橋 右京	秋	木2	2	3		63

芸術・文化研究コース

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本 淳	春	木1	2	1	交	64
ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本 淳	秋	木1	2	1	交	64
ドイツ語圏の美術 a	青山 愛香	春	月3	2	2		65
ドイツ語圏の美術 b	青山 愛香	秋	月3	2	2		65
ドイツ語圏の音楽 a	木村 佐千子	春	金2	2	2		66
ドイツ語圏の音楽 b	木村 佐千子	秋	金2	2	2		66
ドイツ語圏の演劇 a	上田 浩二	春	木4	2	2		67
ドイツ語圏の演劇 b	上田 浩二	秋	木4	2	2		67
ドイツ語圏のメディア文化 a	秋野 有紀	春	木4	2	2	全	68
ドイツ語圏のメディア文化 b	秋野 有紀	秋	木4	2	2	全	68
テキスト研究(芸術・文化) a	I. アルブレヒト	春	木1	2	3		69
テキスト研究(芸術・文化) b	I. アルブレヒト	秋	木1	2	3		69
テキスト研究(芸術・文化) b	青山 愛香	秋	木3	2	3		70
テキスト研究(芸術・文化) b	柿沼 義孝	秋	金3	2	3		71
テキスト研究(芸術・文化) a	木村 佐千子	春	水2	2	3		72
テキスト研究(芸術・文化) a	高橋 輝暁	春	水3	2	3		73
テキスト研究(芸術・文化) b	高橋 輝暁	秋	水3	2	3		73
テキスト研究(芸術・文化) a	辻本 勝好	春	金3	2	3		74
テキスト研究(芸術・文化) b	辻本 勝好	秋	金3	2	3		74
テキスト研究(芸術・文化) a	前田 智	春	木4	2	3		75
テキスト研究(芸術・文化) b	前田 智	秋	木4	2	3		75
テキスト研究(芸術・文化) a	矢羽々 崇	春	金3	2	3		76

概論・専門講義・テキスト研究科目

現代社会・歴史研究コース

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏現代社会概論 a	岡村 りら	春	水2	2	1		77
ドイツ語圏現代社会概論 b	岡村 りら	秋	水2	2	1		77
ドイツ語圏歴史概論 a	上村 敏郎	春	火1	2	1	交	78
ドイツ語圏歴史概論 b	上村 敏郎	秋	火1	2	1	交	78
ドイツ語圏の政治・経済 a	大重 光太郎	春	木3	2	2		79
ドイツ語圏の政治・経済 b	大重 光太郎	秋	木3	2	2		79
ドイツ語圏の歴史 a	古田 善文	春	火3	2	2		80
ドイツ語圏の歴史 b	古田 善文	秋	火3	2	2		80
ドイツ語圏の地域・環境問題 a	岡村 りら	春	火2	2	2		81
ドイツ語圏の地域・環境問題 b	岡村 りら	秋	火2	2	2		81
ドイツ語圏とEU a	伊豆田 俊輔	春	月2	2	2	全	82
ドイツ語圏とEU b	伊豆田 俊輔	秋	月2	2	2	全	82
ドイツ語圏現代社会・歴史特殊講義	V. シュタンツェル	秋	水3	2	2		83
テキスト研究(現代社会・歴史) a	H. W. ラーデケ	春	金2	2	3		84
テキスト研究(現代社会・歴史) b	H. W. ラーデケ	秋	金2	2	3		84
テキスト研究(現代社会・歴史) b	S. ヴィーク	秋	木4	2	3		85
テキスト研究(現代社会・歴史) a	T. カーラー	春	火2	2	3		86
テキスト研究(現代社会・歴史) b	T. カーラー	秋	火2	2	3		86
テキスト研究(現代社会・歴史) a	T. マイヤー	春	火4	2	3		87
テキスト研究(現代社会・歴史) b	T. マイヤー	秋	火4	2	3		87
テキスト研究(現代社会・歴史) a	秋山 大輔	春	金5	2	3		88
テキスト研究(現代社会・歴史) b	秋山 大輔	秋	金5	2	3		88
テキスト研究(現代社会・歴史) a	伊豆田 俊輔	春	月3	2	3		89
テキスト研究(現代社会・歴史) a	岡村 りら	春	月1	2	3		90
テキスト研究(現代社会・歴史) b	岡村 りら	秋	月1	2	3		90
テキスト研究(現代社会・歴史) a	工藤 達也	春	火3	2	3		91
テキスト研究(現代社会・歴史) b	工藤 達也	秋	火3	2	3		91
テキスト研究(現代社会・歴史) a	中川 純子	春	木2	2	3		92
テキスト研究(現代社会・歴史) b	中川 純子	秋	木2	2	3		92
テキスト研究(現代社会・歴史) a	宮村 重徳	春	金2	2	3		93
テキスト研究(現代社会・歴史) b	宮村 重徳	秋	金2	2	3		93
テキスト特殊研究(現代社会・歴史)	V. シュタンツェル	秋	金1	2	3		94

交流文化論(09年度以降入学者)

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位 数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	月2	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	100
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	101
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	102
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	103
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	火1	2	2	交・養・経・法	104
交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】	北野 収	秋	火2	2	2	交・養・経・法	105
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	106
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	107
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	108
交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	109
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	110

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	阿部 明日香	春	水3	2	1	養・経・法	111
総合講座	廣田 愛理	秋	水3	2	1	養・経・法	111
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	112
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	112
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	113
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						114~116
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						117~120
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	休講						
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	
(HTML)情報科学各論	各担当教員						121~122
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	
経済原論a	野村 容康	春	木3	2	2	養・経・法	123
経済原論b	野村 容康	秋	木3	2	2	養・経・法	123
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	124
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	124

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

ドイツ語学科科目シラバス

09年度以降	総合ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	M. ラインデル 堤 那美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 1-4</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B1+ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅰの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅱへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	M. ラインデル 堤 那美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 5-8</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B1+ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅱの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅲへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅲ（既修）	担当者	T. カーラー 黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 5-8</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅳ（既修）	担当者	T. カーラー 黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 5-8</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴ～Ⅷへ進めません。		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Unterricht hat - durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung - die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).		Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Verben, Präsens 1 2. Verben, Präsens 2 3. Verben, Perfekt 1 4. Verben, Perfekt 2 5. Partizip II als Adjektiv 1 6. Partizip II als Adjektiv 2 7. Adjektivdeklination 1 8. Adjektivdeklination 2 9. Adjektivdeklination 3 10. Artikel und Artikelwörter 1 11. Artikel und Artikelwörter 2 12. Passiv 1 13. Passiv 2 14. Passiv 3 15. Wiederholung	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung (ca. 90 Minuten) Wiederholung und Hausaufgaben (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, schriftliche Tests		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Unterricht hat die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).		Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Präteritum 1 2. Präteritum 2 3. Präteritum 3 4. Pronomina 1 5. Pronomina 2 6. Pronomina 3 7. Konjunktiv II (1) 8. Konjunktiv II (2) 9. Konjunktiv II (3) 10. Präpositionen 1 11. Präpositionen 2 12. Konjunktiv I 13. Indirekte Rede 1 14. Indirekte Rede 2 15. Wiederholung	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung (ca. 90 Minuten) Wiederholung und Hausaufgaben (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, schriftliche Tests		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentation mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Diese werden in allen 4 Fertigkeiten Lesen, Hören, Schreiben und Sprechen geübt.</p> <p>Dabei werden bei der Progression des Semesters die Bedarfe der Teilnehmenden berücksichtigt.</p> <p>Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit ist nötig.</p> <p>Die Inhalte des Unterrichts richten sich nach dem Wissen und den Kompetenzen der Teilnehmenden, die sprachlichen Anforderungen liegen auf dem Niveau B2 (Europäischer Referenzrahmen CEFR).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung des Semesters und Kennenlernen 2. Grammatische Übungen 3. Grammatik, z.B. Präpositionen 2 4. Konnektoren 2 5. Konnektoren 2 6. Modalverben 2 7. Modalpartikeln 2 8. Übungen 9. Sprachmittel verschiedener Sprachanlässe, z.B. 10. Entschuldigung 11. Ablehnung-Annahme 12. Einladung-Dank 13. Übungen 14. Übungen 15. Abschlussbesprechung, Evaluation 	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	テスト 50%、プレゼンテーション、授業への参加度 50%。		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentationen mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Diese werden in allen 4 Fertigkeiten Lesen, Hören, Schreiben und Sprechen geübt.</p> <p>Der Schwerpunkt verlagert sich vom Alltagsdeutsch auf fachliche wissenschaftliche Deutschkompetenzen.</p> <p>Dabei werden bei der Progression des Semesters die Bedarfe der Teilnehmenden berücksichtigt.</p> <p>Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit ist nötig.</p> <p>Die Inhalte des Unterrichts richten sich nach dem Wissen und den Kompetenzen der Teilnehmenden, die sprachlichen Anforderungen liegen auf dem Niveau B2 (Europäischer Referenzrahmen CEFR).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung des Semesters 2. Sprachliche Mittel für Mündliches Berichten 3. Präsentationen 4. Schriftliches Arbeiten 5. Schriftliche Präsentationen, usw. 6. Übungen 7. Übungen 8. Wissenschaftliches Arbeiten 9. Aufbau einer wissenschaftlichen Arbeit 10. Argumentationen mündlich 11. Argumentationen schriftlich 12. Interkulturelle Übungen 13. Interkulturelle Übungen 14. Erklärungen der eigenen Kultur 15. Abschlussbesprechung, Evaluation 	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	テスト 50%、プレゼンテーション、授業への参加度 50%。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅰ、Ⅱの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1～7課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅰの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅱへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅰ、Ⅱの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの8～14課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 2 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅱの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅲへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅲ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの 1～7 課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の 4 つの能力を 1 年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 3 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）> 初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅳ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの 8～14 課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の 4 つの能力を 1 年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 4 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）> 初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴ～Ⅷへ進めません。		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><未修クラス（2～7組）> 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で、ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み、基本語彙、基本表現など）をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。 詳細（授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等）については、初回授業時に説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">文字と発音について 教科書の1～10課</p>	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業以外の学修、特に復習には積極的に取り組んでください。		
テキスト、参考文献	矢羽々(他)：『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009		
評価方法	小テストを含む平常点と学期末統一試験の結果によって評価		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><未修クラス（2～7組）> 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で、ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み、基本語彙、基本表現など）をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">教科書の11～20課</p>	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業以外の学修、特に復習には積極的に取り組んでください。		
テキスト、参考文献	矢羽々(他)：『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009		
評価方法	小テストを含む平常点と学期末統一試験の結果によって評価		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><目的>「基礎ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で習得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「応用ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」を終えた時点でGoethe-Zertifikat B1または独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p><概要>ドイツ語圏の文化をテーマとしたドイツ語のテキストを読みながら、文法・語法・表現などを総合的に習得するための応用的なトレーニングを行います。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p><注意事項>効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまいますし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。</p>		<p>第1週 授業の概要説明/Kapitel 1 第2週 Kapitel 1 第3週 Kapitel 2 第4週 Kapitel 2/小テスト 第5週 Kapitel 3 第6週 Kapitel 3/Kapitel 4 第7週 Kapitel 4 第8週 小テスト/Kapitel 5 第9週 Kapitel 5 第10週 Kapitel 6 第11週 Kapitel 6/小テスト 第12週 Kapitel 7 第13週 Kapitel 7/Kapitel 8 第14週 Kapitel 8 第15週 小テスト/授業のまとめ 備考：1週に2回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p>	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指定されたテキストを精読し、練習問題も解いておいてください。また、授業で学習した文法・語法・表現などが定着するよう、しっかり復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	<テキスト>Schmidt/Duppel-Takayama/三ツ石/和泉『ファウストとメフィストと学ぶ ドイツ文化 8章 プラス・エクストラ (kennzeichen.de Faust und Mephisto)』(三修社) 2016年 <参考文献>適宜指示します。		
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20% （定期試験は全クラス共通の統一試験で、学期中の規定欠席回数を超えると受験できません。）		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><目的>「基礎ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で習得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「応用ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」を終えた時点でGoethe-Zertifikat B1または独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p><概要>時事的なテーマを扱ったドイツ語のテキストを読みながら、文法・語法・表現などを総合的に習得するための応用的なトレーニングを行います。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p><注意事項>効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまいますし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。</p>		<p>第1週 授業の概要説明/テキスト その① 第2週 テキスト その① 第3週 テキスト その② 第4週 テキスト その②/小テスト 第5週 テキスト その③ 第6週 テキスト その③/テキスト その④ 第7週 テキスト その④ 第8週 小テスト/テキスト その⑤ 第9週 テキスト その⑤ 第10週 テキスト その⑥ 第11週 テキスト その⑥/小テスト 第12週 テキスト その⑦ 第13週 テキスト その⑦/テキスト その⑧ 第14週 テキスト その⑧ 第15週 小テスト/授業のまとめ 備考：1週に2回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。扱うテキストは、初回の授業で指示します。</p>	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指定されたテキストを精読し、練習問題も解いておいてください。また、授業で学習した文法・語法・表現などが定着するよう、しっかり復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	<テキスト>Raab/石井『時事ドイツ語 2016年版』(朝日出版社) 2016年 <参考文献>適宜指示します。		
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20% （定期試験は全クラス共通の統一試験で、学期中の規定欠席回数を超えると受験できません。）		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Deutsche Texte lesen und verstehen. Alle Erklärungen möglichst auf Deutsch! Ab und zu singen wir.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Wir stellen uns vor. Buch Kapitel 0 S.6+7 2. Kapitel 1, lesen und hören S.10+11 3. Kap. 1, S.12+13 Übungen. 4. Kap. 1, S.14+15 lesen+Textverständnis 5. Kap. 1, S.16+17 6. Kap. 2, S.18+19 7. Kap. 2, S.20+21 8. Kap. 2, S.22+23 9. Kap. 2, S.24+25 10. Kap. 3, S.26+27 11. Kap. 3, S.28+29 12. Kap. 3, S.30+31 13. Kap. 3, S.32+33 14. Kap. 4, S.34+35 15. Mündliche Vorträge zu frei gewählten Themen 	
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Nicht übersetzen, sondern durch Fragen auf Deutsch das Verständnis vertiefen ist unser Ziel, und wir behelfen uns mit Gestik, Mimik, Filmen...		
テキスト、参考文献	強い女たちのメルヘン。ISBN 4-8102-0662-9		
評価方法	Unterrichtsmitarbeit, Referat vor der Klasse, schriftliche Hausaufgaben		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Deutsche Texte lesen und verstehen. Alle Erklärungen möglichst auf Deutsch! Ab und zu singen wir.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Sprechen über die Sommerferien, Wdh. Kap. 4, S.34+35 2. S.36+37 3. S.38+39 4. S.40+41 5. Kap. 5, S.42+43 6. S.44+45 7. S.46+47 8. S.48+49 9. Kap. 6, S.50+51 10. S.52+53 11. S.54+55 12. S.56+57 13. Kap. 7 S.58+59 14. S.60+61 15. Mündliche Vorträge / Referate zu freien Themen 	
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Nicht übersetzen, sondern auf Deutsch erklären ist unser Ziel. Filme zu Themen im Buch.		
テキスト、参考文献	強い女たちのメルヘン。ISBN 4-8102-0662-9		
評価方法	Unterrichtsmitarbeit, Referat vor der Klasse, schriftliche Hausaufgaben		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Die Studierenden sollen lernen, sich zu verschiedenen Anlässen und in möglichst vielen unterschiedlichen Textsorten sorgfältig und korrekt auszudrücken. Dabei werden neben dem Inhalt vor allem auch Aspekte wie Satzbau, Formen und Stil berücksichtigt.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Besprechung des Kursinhalts 2. Übung 1 + evtl.Fortsetzung von 1. 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	手紙や E メール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben, zu einem großen Teil schriftlich, in verschiedenem Umfang, entsprechend den jeweiligen Kursinhalten.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein schriftlicher Test.		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des schriftlichen Ausdrucks. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten und Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft. Ziel ist es, die schriftlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Besprechung des Kursinhalts 2. Übung 1 + evtl.Fortsetzung von 1. 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	手紙や E メール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben, zu einem großen Teil schriftlich, in verschiedenem Umfang, entsprechend den jeweiligen Kursinhalten.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein schriftlicher Test.		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs bietet viel Gelegenheit zum Sprechen in der Form von Dialogen nach vorgegebenen Mustern, aber auch über Themen, deren Auswahl den Studierenden selbst obliegt. Wir arbeiten meist in kleinen Gruppen, deren Zusammensetzung neben dem sprachlichen Niveau der einzelnen Teilnehmer vor allem an ihren thematischen Interessen orientiert ist. Die Gruppeneinteilung dient der Optimierung des Informationsaustausches und erfährt mehrere Rochaden im Laufe des Kurses.</p> <p>Zum Sprechen gehört naturgemäß auch das Zuhören, als Voraussetzung für gezielte Reaktionen auf diverse Meinungsäußerungen im Alltag, sei es bei zufälligen Zusammentreffen an, beim Schwärmen über das schöne Wochenende, bei einem Wiedersehen, wo man sich viel zu erzählen hat, oder bei zweckorientierten Meetings im Rahmen des Studentenlebens.</p> <p>„Bausteine“ für ausgedehntere Gespräche werden in Form von Fotokopien, audio-visuellen Materialien oder Live-Vorführungen zur Verfügung gestellt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Auswahl der Themenkreise für das 1. Semester 2. Thema 1: Gruppenbildung und Vorarbeit 3. Thema 1: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 4. Thema 2: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit 5. Thema 2: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 6. Thema 3: Gruppenbildung und Vorarbeit 7. Thema 3: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 8. Thema 4: Gruppenbildung und Vorarbeit 9. Thema 4: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 10. Thema 5: Gruppenbildung und Vorarbeit 11. Thema 5: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 12. Thema 6: Gruppenbildung und Vorarbeit 13. Thema 6: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 14. Rückblickende Übung und Absprache in Gruppen von mehr als zwei Teilnehmern. 15. Evaluatives Interview im Paar-Format zu allen im Semester behandelten Themen. 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>			
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Als Vorbereitung für den nächsten Unterricht wird das Sammeln von relevanten Informationen aus verschiedenen Quellen erwartet. Zusammenfassende Protokolle werden als Nachbereitung verlangt.		
テキスト、参考文献	Für jeden Unterricht werden entweder Fotokopien ausgehändigt oder Videoaufnahmen vorgespielt.		
評価方法	Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht; mündlicher Test am Ende des Semesters.		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Anknüpfend an die Dialog- bzw. Diskussionsarbeit des Sommersemesters orientiert sich die Themenauswahl stärker an individuellen und Gruppen-Präferenzen. Neuen Teilnehmern soll der Einstieg durch gezielte Gruppenzuweisung erleichtert werden.</p> <p>Wir üben vor rasches verbales Reagieren – beim Plaudern und auch in ernsteren Gesprächen – auf erwartete und oft unerwartete Fragen, das Initiieren und Antworten in verschiedenen Umständen. Von großem Wert für eine erfolgreiche Teilnahme ist ein aktives Interesse an der Erweiterung des eigenen Wortschatzes.</p> <p>Neben einem bereicherten Wortschatz gehören auch Strategien zum Themenwechsel und zum Beenden des Gesprächs auf höfliche Weise zum guten Gelingen des kommunikativen Unterfangens.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Auswahl der Themenkreise für das 2. Semester 2. Thema 7: Gruppenbildung und Vorarbeit 3. Thema 7: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 4. Thema 8: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit 5. Thema 8: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 6. Thema 9: Gruppenbildung und Vorarbeit 7. Thema 9: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 8. Thema 10: Gruppenbildung und Vorarbeit 9. Thema 10: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 10. Thema 11: Gruppenbildung und Vorarbeit 11. Thema 11: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 12. Thema 12: Gruppenbildung und Vorarbeit 13. Thema 12: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 14. Rückblickende Übung und Absprache in Gruppen. 15. Evaluatives Interview im Paar-Format zu allen im Semester behandelten Themen. 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>			
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Als Vorbereitung für den nächsten Unterricht wird das Sammeln von relevanten Informationen aus verschiedenen Quellen erwartet. Zusammenfassende Protokolle werden als Nachbereitung verlangt.		
テキスト、参考文献	Für jeden Unterricht werden entweder Fotokopien ausgehändigt oder Videoaufnahmen vorgespielt.		
評価方法	Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht; mündlicher Test am Ende des Semesters.		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des Hörverstehens anhand praktischer Beispiele. Dabei verwenden wir Hörtexte aus typischen Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen. Auch Hörbücher oder Hörspiele können eingesetzt werden.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, diese Hörtexte zu verstehen, sowie damit verbundene Aufgaben lösen. Dadurch werden sie in die Lage versetzt, sich nach und nach in einem deutschen Sprachumfeld besser zu orientieren.</p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer; wenn nötig und möglich, mit Binnendifferenzierung.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Keine Hausaufgaben oder Vorbereitung außerhalb des Unterrichts		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Impressionsnote (20%) – Test 1 (40%) – Test 2 (40%) – Auch bei den Tests ggf. mit Binnendifferenzierung.		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Hörverstehens. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, das Hörverstehen der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere Hörtexte und sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer; wenn nötig und möglich, mit Binnendifferenzierung.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Keine Hausaufgaben oder Vorbereitung außerhalb des Unterrichts		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Impressionsnote (20%) – Test 1 (40%) – Test 2 (40%) – Auch bei den Tests ggf. mit Binnendifferenzierung.		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen gemeinsam Texte zu allgemeinen Themen. Global und Detailverständnis werden durch gezielt vom KL formulierte Aufgaben gesteuert.</p> <p>Durch begleitende Übungen wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) soll das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut werden.</p> <p>Inhalte und Progression richten sich nach dem durchschnittlichen Niveau der KursteilnehmerInnen.</p> <p>Das Niveau der Texte ist A1-A1+.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
<p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p>			
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回復習すること		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt 授業の始めに配布する独自の教材のプリント (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 授業中に行われる小テスト 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 授業に臨む姿勢 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen gemeinsam Texte zu allgemeinen Themen. Durch begleitende Übungen wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) soll das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut werden.</p> <p>Inhalte und Progression richten sich nach dem durchschnittlichen Niveau der KursteilnehmerInnen.</p> <p>Das Niveau der Texte ist A1+-A2.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
<p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p>			
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回復習すること		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt 授業の始めに配布する独自の教材のプリント (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 授業中に行われる小テスト 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 授業に臨む姿勢 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Unterricht werden wir abwechslungsweise schreiben und im anschließenden Unterricht Grammatik vertiefen und Übungen machen. Als Vorlage dienen einerseits bekannte Bilder, zu denen eine Reihe von Fragen beantwortet werden sollen. Andererseits sollen die Studierenden auch sinnvoll Zitate interpretieren können und vernünftige Kommentare dazu abgeben. Die Studierenden sollten sich ausserdem einen Ordner zulegen, worin sie genau festhalten, in welchen Bereichen des Schreibunterrichts welche Fortschritte erzielt worden sind. In der Mitte des Semesters werde ich in Einzelgesprächen alle Studierende auffordern, mir einen Zwischenbericht über den bisherigen Verlauf des Semesters zu geben.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>		1 Erklärung des Semesterablaufs 2 Schreiben 3 Erklärungen 4 Schreiben 5 Erklärungen 6 Schreiben 7 Erklärungen 8 Schreiben 9 Erklärungen 10 Schreiben 11 Erklärungen 12 Schreiben 13 Erklärungen 14 Schreiben 15 Erklärungen	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor dem Unterricht ist es wichtig, sich ein Ziel zu stecken für den Unterricht. Nach dem Unterricht sollen Fortschritte in dem oben erwähnten Ordner systemtisch festgehalten werden.		
テキスト、参考文献	Kopien werden verteilt		
評価方法	50% Mitarbeit im Unterricht 50% Semesterendtest		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Unterricht werden wir abwechslungsweise schreiben und im anschließenden Unterricht Grammatik vertiefen und Übungen machen. Als Vorlage dienen einerseits bekannte Bilder, zu denen eine Reihe von Fragen beantwortet werden sollen. Andererseits sollen die Studierenden auch sinnvoll Zitate interpretieren können und vernünftige Kommentare dazu abgeben. Die Studierenden sollten sich ausserdem einen Ordner zulegen, worin sie genau festhalten, in welchen Bereichen des Schreibunterrichts welche Fortschritte erzielt worden sind. In der Mitte des Semesters werde ich in Einzelgesprächen alle Studierende auffordern, mir einen Zwischenbericht über den bisherigen Verlauf des Semesters zu geben.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>		1 Erklärung des Semesterablaufs 2 Schreiben 3 Erklärungen 4 Schreiben 5 Erklärungen 6 Schreiben 7 Erklärungen 8 Schreiben 9 Erklärungen 10 Schreiben 11 Erklärungen 12 Schreiben 13 Erklärungen 14 Schreiben 15 Erklärungen	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor dem Unterricht ist es wichtig, sich ein Ziel zu stecken für den Unterricht. Nach dem Unterricht sollen Fortschritte in dem oben erwähnten Ordner systemtisch festgehalten werden.		
テキスト、参考文献	Kopien werden verteilt		
評価方法	50% Mitarbeit im Unterricht 50% Semesterendtest		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir beginnen einfach, mit langsamen Fortschritt. Aktive und stetige Mitarbeit ist erforderlich für einen erfolgreichen Abschluss. Die Grundlage für Kommunikation und Tests ist das Lehrbuch.</p> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Wiederholungen aller Art 3. Deutschlandkunde 4. Lektion 1 5. Lektion 2 a 6. Lektion 2b 7. Kleiner Test und Video 8. Lektion 3a 9. Lektion 3b 10. Lektion 4a 11. Lektion 4b 12. Kleiner Test und Video 13. Lektion 5a 14. Lektion 5b 15. Zusammenfassung 	
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung des besprochenen Stoffes: 30 Minuten Vorbereitung der Aufgaben: 30 Minuten		
テキスト、参考文献	Szenen 2 (ISBN978-4-384-13089-8) Sanshusha		
評価方法	Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Gleiche wie oben wird angewandt.</p> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Wiederholungen aus dem ersten Semester 3. Lektion 6a 4. Lektion 6b 5. Lektion 7a 6. Lektion 7b 7. Lektion 8a 8. Lektion 8b 9. Kleiner Test und Video 10. Lektion 9a 11. Lektion 9b 12. Lektion 10a 13. Lektion 10b 14. Kleiner Test und Video 15. Zusammenfassung/Abschluss 	
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung des besprochenen Stoffes: 30 Minuten Vorbereitung der Aufgaben: 30 Minuten		
テキスト、参考文献	Lehrbuch wie oben: Szenen 2 (ISBN978-4-384-13089-8) Sanshusha		
評価方法	Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden wir das Hörverständnis sowie die Sprach- und Lesefertigkeiten erweitern. Wir werden verschiedene Hörübungen behandeln, durch die wir auch Informationen zu bestimmten Jugendthemen bekommen werden oder die sich mit aktuellen Themen beschäftigen.</p> <p>Neben diesen Übungen gibt es ebenfalls Hörübungen zu Texten, die von den Studierenden selbst geschrieben und vorgelesen werden.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Hörstrategien. 2. Tagesablauf eines Jugendlichen. 3. Jugend und Jobs. 4. Jugend und Praktikum. 5. Jugend und soziale Netzwerke. 6. Studententexte (1). 7. Liedanalyse (1). 8. Liedanalyse (2). 9. Studententexte (2). 10. Hörübungstest (1). 11. Neuigkeiten aus Deutschland (1). 12. Neuigkeiten aus Deutschland (2). 13. Neuigkeiten aus Deutschland (3). 14. Hörübungstest (2). 15. Studententexte (3). 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Eine Vor- und Nachbearbeitung des Unterrichtsstoffs wird vorausgesetzt. Transkriptionen der Hörtexte werden eine Woche vor der jeweiligen Unterrichtseinheit ausgehändigt und sollen zu Hause bearbeitet werden. Der behandelte Unterrichtsstoff soll anhand Übungsaufgaben zu Hause nachbearbeitet werden.		
テキスト、参考文献	Transkriptionen und Aufgabenblätter werden ausgehändigt.		
評価方法	Aktive Teilnahme, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. Es werden zwei Tests geschrieben. Zudem soll jeder Teilnehmer einen eigenen Text verfassen, diesen vorlesen und entsprechende Übungsaufgaben herstellen.		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Verschiedene Sequenzen aus Hörbüchern, Fotonovelas oder Sendungen sowie Podcasts zum Deutschlernen werden in diesem Semester behandelt. Die Themen behandeln alltagsspezifische Fragen, wie Liebe, Landflucht, Deutschlernen oder erste Wohnung. Neben diesen Übungen gibt es auch Hörübungen zu Start Deutsch 2 oder aus diversen Lehrbüchern.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Was ist eine Fotonovela? 2. Schlaflose Nacht. 3. Erinnerungen. 4. Ein ideales Paar. 5. Hörübungstest (1). 6. Ein Amerikaner in Deutschland. 7. Partnersuche. 8. Einkaufen. 9. Hörübungstest (2). 10. Berlin, Berlin. Landfluch. 11. Liedtext zu Berlin, Berlin. 12. Generationenkonflikt. 13. Hörübungstest (3). 14. Übungen zu Start Deutsch 2. 15. Übungen zu Start Deutsch 2. 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Eine Vor- und Nachbearbeitung des Unterrichtsstoffs wird vorausgesetzt. Transkriptionen der Hörtexte werden jeweils eine Woche vor der jeweiligen Unterrichtseinheit ausgehändigt und sollen zu Hause bearbeitet werden. Der behandelte Unterrichtsstoff soll anhand Übungsaufgaben zu Hause nachbearbeitet werden.		
テキスト、参考文献	Transkriptionen und Aufgabenblätter werden ausgehändigt.		
評価方法	Aktive Teilnahme, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. Es werden drei Tests geschrieben.		

09年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course aims to 1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p>Presentations: Students will give two presentations in this class. For the first presentation, students will work in small groups and do research on a topic or topics of their choice. They will then present the results of their research to their classmates. The process will be the same for the second presentation, but students will work on their own and give presentations individually. <i>Minimum TOEIC score required: 450</i></p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 Week 3: Listening passage 1, planning session 1 Week 4: Reading passage 2, planning session 2 Week 5: Listening passage 2, planning session 3 Week 6: Group presentations Week 7: Group presentations Week 8: Reading passage 3 Week 9: Listening passage 3 Week 10: Reading passage 4 Week 11: Listening passage 4 Week 12: Listening passage 5 Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations</p>	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students' primary responsibility outside of class will be preparing for their presentations. This will require several hours of concentrated work. There will also be other assignments such as summaries.		
テキスト、参考文献	Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		
評価方法	Class participation (20%), short reports (20%), presentations (30% x 2 = 60%)		

09年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course aims to 1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p>Presentations: Students will give two presentations in this class. For the first presentation, students will work in small groups and do research on a topic or topics of their choice. They will then present the results of their research to their classmates. The process will be the same for the second presentation, but students will work on their own and give presentations individually.. <i>Minimum TOEIC score required: 450</i></p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 Week 3: Listening passage 1, planning session 1 Week 4: Reading passage 2, planning session 2 Week 5: Listening passage 2, planning session 3 Week 6: Group presentations Week 7: Group presentations Week 8: Reading passage 3 Week 9: Listening passage 3 Week 10: Reading passage 4 Week 11: Listening passage 4 Week 12: Listening passage 5 Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations</p>	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students' primary responsibility outside of class will be preparing for their presentations. This will require several hours of concentrated work. There will also be other assignments such as summaries.		
テキスト、参考文献	Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		
評価方法	Class participation (20%), short reports (20%), presentations (30% x 2 = 60%)		

09年度以降	総合ドイツ語V (既修)	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} Lehrbuch-Lektionen 9-12</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語VI (既修)	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} Lehrbuch-Lektionen 13-16</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ (スーパー)	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, gezielt an Ihren Schwächen zu arbeiten. Dabei werden grundsätzlich alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, den Teilnehmenden individuell angemessene Unterstützung beim Aufbau auf ihr hohes Sprachniveau zu bieten.</p> <p>Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen – grundsätzlich können aktuelle Themen aus Politik, Wirtschaft und Gesellschaft, Themen aus Kultur und Wissenschaft, sowie Ihre jeweiligen Forschungsthemen Gegenstand des Unterrichtsgesprächs werden.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Gesellschaft (1) 3. Gesellschaft (2) 4. Politik (1) 5. Politik (2) 6. Wirtschaft (1) 7. Wirtschaft (2) 8. Kultur (1) 9. Kultur (2) 10. Wissenschaft (1) 11. Wissenschaft (2) 12. Ihre Forschungsthemen (1) 13. Ihre Forschungsthemen (2) 14. Ihre Forschungsthemen (3) 15. Evaluation, Kursfazit 	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Das Lernmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht, mindestens eine Präsentation, schriftliche Hausarbeiten sowie schriftliche und mündliche Tests.		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ (スーパー)	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, gezielt an Ihren Schwächen zu arbeiten. Dabei werden grundsätzlich alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, den Teilnehmenden individuell angemessene Unterstützung beim Aufbau auf ihr hohes Sprachniveau zu bieten.</p> <p>Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen – grundsätzlich können aktuelle Themen aus Politik, Wirtschaft und Gesellschaft, Themen aus Kunst und Wissenschaft, sowie Ihre jeweiligen Forschungsthemen Gegenstand des Unterrichtsgesprächs werden.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Gesellschaft (3) 3. Gesellschaft (4) 4. Politik (3) 5. Politik (4) 6. Wirtschaft (3) 7. Wirtschaft (4) 8. Kultur (3) 9. Kultur (4) 10. Wissenschaft (3) 11. Wissenschaft (4) 12. Ihre Forschungsthemen (4) 13. Ihre Forschungsthemen (5) 14. Ihre Forschungsthemen (6) 15. Evaluation, Kursfazit 	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Das Lernmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht, mindestens eine Präsentation, schriftliche Hausarbeiten sowie schriftliche und mündliche Tests.		

09年度以降	総合ドイツ語V (標準)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業 (週 2 コマ) により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 未修クラスの学生用には、A クラス (総合ドイツ語IVの成績が A 以上の学生用) と B クラス (同、B 以下の学生用) が開設されます。既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語V」(既修クラス用) を受講してください。詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの 1～7 課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 5 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時まで購入		
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語VI (標準)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業 (週 2 コマ) により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 未修クラスの学生用には、A クラス (総合ドイツ語Vの成績が A 以上の学生用) と B クラス (同、B 以下の学生用) が開設されます。既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語VI」(既修クラス用) を必ず受講してください。詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの 8～14 課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 6 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時まで購入		
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ（標準）	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 「総合ドイツ語Ⅶ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、「総合ドイツ語Ⅶ(Super-Deutsch)」（スーパー）を必ず受講してください。 詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p>テキストの1～4課 各教員が追加教材を適宜準備する</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）初回授業時までに購入。 （総合ドイツ語Ⅶ,Ⅷでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。）		
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ（標準）	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 「総合ドイツ語Ⅷ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、「総合ドイツ語Ⅷ (Super-Deutsch)」（スーパー）を必ず受講してください。 詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p>テキストの5～8課 各教員が追加教材を適宜準備する</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber） （総合ドイツ語Ⅶ,Ⅷでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。）		
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Mittelpunkt steht die kursorische Lektüre von Texten zu verschiedenen Themen zur Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Erörterung des Inhalts liegt der Schwerpunkt auf kulturvergleichenden Aspekten Japan-Deutschland. Globalverstehen wie Detailverstehen werden durch vom Kursleiter vorbereitete gezielt formulierte Aufgaben zum Text gesteuert. MP4-Dateien und Zusatzmaterialien aus diversen Medien dienen ergänzend zur Illustration des im Text vermittelten Inhalts.</p> <p>Durch begleitende Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) dienen der Wiederholung zentraler grammatischer Aspekte des in bisherigen Kursen wie den Sogo-Kursen erarbeiteten Stoffes. Das Niveau der Texte reicht von A2 bis B1.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Mittelpunkt steht die kursorische Lektüre von Texten zu verschiedenen Themen zur Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Erörterung des Inhalts liegt der Schwerpunkt auf kulturvergleichenden Aspekten Japan-Deutschland. Globalverstehen wie Detailverstehen werden durch vom Kursleiter vorbereitete gezielt formulierte Aufgaben zum Text gesteuert. MP4-Dateien und Zusatzmaterialien aus diversen Medien dienen ergänzend zur Illustration des im Text vermittelten Inhalts.</p> <p>Durch begleitende Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) dienen der Wiederholung zentraler grammatischer Aspekte des in bisherigen Kursen wie den Sogo-Kursen erarbeiteten Stoffes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	L. バウアー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Beginnend mit klassischen Leseübungen soll das Leseverständnis der Studenten verbessert werden, wobei eine stetige Steigerung der Schwierigkeit und Authentizität der Lesetexte beabsichtigt ist. Es sollen jeweils die Fähigkeiten des globalen und selektiven Lesens sowie auch das Detailverständnis geübt werden. Der thematische Fokus liegt auf Alltagsthemen sowie aktuellen Ereignissen in Deutschland und Japan, die ggf. durch entsprechende Zusatzmedien ergänzend veranschaulicht werden.</p> <p>Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit werden vorausgesetzt. Schwierigkeitsgrad, Progression und Inhalte können je nach durchschnittlichem Niveau der Lernenden variieren. Themenvorschläge sind willkommen und werden wenn möglich berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Orientierung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Test 1 9. Thema 5 10. Thema 6 11. Thema 7 12. Thema 8 13. Thema 9 14. Test 2 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung von Lesetexten, ggf. Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	regelmäßige aktive Teilnahme 30%; Tests 70%		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	L. バウアー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Anschluss an das Sommersemester wird vermehrt Wert auf das Lesen von authentischen Texten gelegt, die im entsprechenden Kontext der modernen Medienlandschaft Deutschlands behandelt werden. Eine Steigerung der Schwierigkeit im Laufe des Semesters ist vorgesehen. Es sollen abwechslungsreiche Texte verschiedener Textformen gelesen werden, um das Spektrum des Leseverständnisses der Lernenden dementsprechend zu erweitern.</p> <p>Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit werden vorausgesetzt. Schwierigkeitsgrad, Progression und Inhalte können je nach durchschnittlichem Niveau der Lernenden variieren. Themenvorschläge sind willkommen und werden wenn möglich berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Orientierung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Test 1 9. Thema 5 10. Thema 6 11. Thema 7 12. Thema 8 13. Thema 9 14. Test 2 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung von Lesetexten, ggf. Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	regelmäßige aktive Teilnahme 30%; Tests 70%		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schreiben auf Deutsch soll an verschiedenen Textsorten geübt werden.</p> <p>Wir machen Bildbeschreibungen, narrative Texte, Zusammenfassungen, aktuelle Berichte und Filme nacherzählen und zusammenfassen, Protokolle, kurze wissenschaftliche Texte, u.a.</p> <p>Je nach Teilnehmern kann auch kreatives Schreiben, alleine oder in einer kleinen Gruppe angeboten werden.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Motivation sind nötig.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Semesterplan und -inhalt besprechen 2. Bildbeschreibung 1. Übung 3. 2. Übung 4. 3. Übung 5. Besprechung der Übungen 6. Einen Vorgang beschreiben 1. Übung 7. 2. Übung 8. 3. Übung 9. Besprechung der Übungen 10. Eine Geschichte erzählen 1. Übung 11. 2. Übung 12. 3. Übung 13. 4. Übung 14. Besprechung der Übungen 15. Zusammenfassung, Evaluation des Semesters 	
到達目標	手紙や E メール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	テスト 50%、授業への参加度、提出 50%。		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schreiben auf Deutsch soll an verschiedenen Textsorten geübt werden.</p> <p>Wir machen schreiben narrative Texte, Zusammenfassungen, aktuelle Berichte und Filme nacherzählen, zusammenfassen und bewerten, für andere Personen Unbekanntes (z.B. kulturelle japanische Charakteristika) erklären, Protokolle, kurze wissenschaftliche Texte, u.a.</p> <p>Je nach Teilnehmern kann auch kreatives Schreiben, alleine oder in einer kleinen Gruppe angeboten werden.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Motivation, sowie Bereitschaft zur Gruppenarbeit sind nötig.</p> <p>Eigene Vorschläge für Übungen sind willkommen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Semesterplan und -inhalt besprechen 2. Zusammenfassung eines Inhalts 1. Übung 3. oder Vorgangs 2. Übung 4. 3. Übung 5. Besprechung der Übungen 6. Filme und Videos beschreiben 1. Übung 7. 2. Übung 8. 3. Übung 9. Besprechung der Übungen 10. Protokolle, wissenschaftliche Texte 1. Übung 11. 2. Übung 12. 3. Übung 13. 4. Übung 14. Besprechung der Übungen 15. Zusammenfassung, Evaluation des Semesters 	
到達目標	手紙や E メール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	テスト 50%、授業への参加度、提出 50%。		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks. In der ersten Hälfte des Semesters sollen Bilder bzw. Fotos genau beschrieben werden. Diesem Teil voran gehen Übungen zum Gebrauch des bestimmten und unbestimmten Artikels sowie zur Ortsangabe und Richtungsangabe. In der zweiten Hälfte des Semesters wird zunächst das Schreiben von privaten Briefen und geschäftlichen E-Mails geübt. Dem schließt sich die Abfassung eines Lebenslaufs und eines Anschreibens für eine Bewerbung an. Die Teilnehmer am Kurs müssen grundsätzlich ihr Schreibmaterial (A4-Papier, Stift) sowie ein Wörterbuch (Kein Smartphone!) dabei haben. Je nach Auftrag sind Arbeiten am Ende des Unterrichts oder zu Beginn der nächsten Stunde einzureichen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung: Ablauf und Programm des Semesters 2. Grammatik (1): - (un)bestimmter Artikel - Adjektivendungen 3. Grammatik (2): - Orts- und Richtungsangabe 4. Beschreibung (a): Bild 5. Beschreibung (b): Bild 6. Beschreibung (c): Foto 7. Grammatik (3): Haupt- und Nebensätze 8. Kurzttest (I) Thema: Beschreibung Bild / Foto 9. Privater Brief 10. Geschäftliche E-Mail 11. Lebenslauf 12. Anschreiben für Bewerbung (a) 13. Anschreiben für Bewerbung (b) 14. Kurzttest (II) Thema: Brief / Mail / Bewerbung 15. Rückblick auf das und Evaluation des Semesters 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Unterrichtseinheiten sollen durch Hausaufgaben nachgearbeitet bzw. vorbereitet werden.		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden als Kopie in der Veranstaltung verteilt.		
評価方法	zwei kleine Zwischentests (60%), aktive Mitarbeit im Unterricht inkl. Hausaufgaben (40%)		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks. Im ersten Drittel des Semesters wird das Schreiben von Berichten über verschiedene Themen geübt. Diesem Teil voran gehen einleitende grammatische Übungen. Im zweiten Drittel des Semesters sollen die Teilnehmer ihre Meinung zu bestimmten strittigen Themen schriftlich darlegen. Im letzten Teil des Semesters soll jeder Teilnehmer in „freiem“ kreatives Schreiben eine Kurzgeschichte abfassen. Die Teilnehmer erhalten am Ende einen Band mit den Kurzgeschichten. Die Teilnehmer am Kurs müssen grundsätzlich ihr Schreibmaterial (A4-Papier, Stift) sowie ein Wörterbuch (Kein Smartphone!) dabei haben. Je nach Auftrag sind Arbeiten am Ende des Unterrichts oder zu Beginn der nächsten Stunde einzureichen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung: Ablauf und Programm des Semesters 2. Grammatik (1): Perfekt, Präteritum und Plusquamperfekt 3. Grammatik (2): Nebensätze (als, nachdem ...) 4. Bericht (a): „Mein letzter Sonntag“ 5. Bericht (b): „Meine schönste Reise“ 6. Bericht (c): „Mein seltsamstes Erlebnis“ 7. Grammatik (3): Relativsätze / Meinungsäußerung 8. Kurzttest – Thema: Bericht 9. Erörterung (a) 10. Erörterung (b) 11. Erörterung (c) 12. Kreatives Schreiben (a,1) Fiktive Kurzgeschichte 13. Kreatives Schreiben (a,2) Fiktive Kurzgeschichte 14. Kreatives Schreiben (a,3) Fiktive Kurzgeschichte 15. Rückblick auf das und Evaluation des Semesters 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Unterrichtseinheiten sollen durch Hausaufgaben nachgearbeitet bzw. vorbereitet werden.		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden als Kopie in der Veranstaltung verteilt.		
評価方法	ein kleiner Zwischentest (30%), ein Report im Rahmen des Unterrichts (30%), aktive Mitarbeit im Unterricht inkl. Hausaufgaben (40%)		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	L. バウアー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist es die Fertigkeit Schreiben der Lernenden zu trainieren und zu verbessern. Zu Beginn sollen die Studenten mithilfe gesteuerter Übungen und dem Schreiben von Texten mit Formatvorgaben an das Schreiben herangeführt werden, um im späteren Verlauf des Unterrichts sich am kreativen Schreiben üben zu können. Die jeweiligen Textsorten werden im Plenum analysiert, um gemeinsam Merkmale herauszufiltern und die eigene Schreibarbeit vorzubereiten. Aus diesem Grund werden zur Unterstützung der Fertigkeit Schreiben auch andere Fertigkeiten wie Lesen und Sprechen vorausgesetzt.</p> <p>Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit werden vorausgesetzt. Schwierigkeitsgrad, Progression und Inhalte können je nach durchschnittlichem Niveau der Lernenden variieren. Themenvorschläge sind willkommen und werden wenn möglich berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Orientierung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1.1 5. Thema 1.2 6. Thema 1.3 7. Thema 2.1 8. Thema 2.2 9. Thema 2.3 10. Thema 3.1 (kreatives Schreiben) 11. Thema 3.2 (kreatives Schreiben) 12. Thema 3.3 (kreatives Schreiben) 13. Thema 3.4 (kreatives Schreiben) 14. Thema 3.5 (kreatives Schreiben) 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung von geschriebenen Texten, ggf. Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	regelmäßige aktive Teilnahme 30%; Zwischentests, schriftliche Arbeiten 70%		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	L. バウアー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Inhalte des Sommersemesters sollen die Schreibfähigkeiten der Lernenden vertieft und ausgebaut werden. Neben klassischen Textsorten sollen im Unterricht auch moderne Textformen behandelt werden, wie sie zum Beispiel im Internet auftreten. Das kreative Schreiben wird einen Großteil des Unterrichts bestimmen. Die jeweiligen Textsorten werden im Plenum analysiert, um gemeinsam Merkmale herauszufiltern und die eigene Schreibarbeit vorzubereiten. Aus diesem Grund werden zur Unterstützung der Fertigkeit Schreiben auch andere Fertigkeiten wie Lesen und Sprechen vorausgesetzt.</p> <p>Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit werden vorausgesetzt. Schwierigkeitsgrad, Progression und Inhalte können je nach durchschnittlichem Niveau der Lernenden variieren. Themenvorschläge sind willkommen und werden wenn möglich berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Orientierung 2. Einstiegsübungen 1 3. Thema 1.1 4. Thema 1.2 5. Thema 1.3 6. Thema 2.1 7. Thema 2.2 8. Thema 2.3 9. Thema 3.1 (kreatives Schreiben) 10. Thema 3.2 (kreatives Schreiben) 11. Thema 3.3 (kreatives Schreiben) 12. Thema 4.1 (kreatives Schreiben) 13. Thema 4.2 (kreatives Schreiben) 14. Thema 4.3 (kreatives Schreiben) 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung von geschriebenen Texten, ggf. Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	regelmäßige aktive Teilnahme 30%; Zwischentests, schriftliche Arbeiten 70%		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des mündlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Wir behandeln typische Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, sich zu verschiedenen Sprechansätzen korrekt und klar verständlich zu äußern. Dabei werden neben grammatischen Aspekten auch Intonation (Betonung/Satzmelodie) und Phonetik (Aussprache) trainiert.</p> <p>Zur Unterstützung des mündlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Lesen, Hören oder Schreiben einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Besprechung des Kursinhalts 2. Übung 1 + evtl. Fortsetzung von 1. 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben, Umfang abhängig vom Inhalt der jeweiligen Unterrichtsstunde. Zum Beispiel Vorbereitung von Redemitteln, Diskussionsmaterial oder einer Präsentation.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses. Je nach dem aktuellen Kursinhalt gegebenenfalls eine Präsentation oder ein mündlicher Test.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des mündlichen Ausdrucks. Je nach Bedarf werden neue Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, die mündlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Anforderungen bewältigen können.</p> <p>Zur Unterstützung des mündlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Lesen, Hören oder Schreiben einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Besprechung des Kursinhalts 2. Übung 1 + evtl. Fortsetzung von 1. 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben, Umfang abhängig vom Inhalt der jeweiligen Unterrichtsstunde. Zum Beispiel Vorbereitung von Redemitteln, Diskussionsmaterial oder einer Präsentation.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses. Je nach dem aktuellen Kursinhalt gegebenenfalls eine Präsentation oder ein mündlicher Test.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Unterrichts ist es, Studenten auf verschiedene Kommunikationssituationen im Alltag und im Studium vorzubereiten.</p> <p>Wortschatz und Sprachmittel leiten jede Unterrichtseinheit ein. Durch Hörverstehen, Diktate, und Paargespräche werden schrittweise die richtige Aussprache, Intonation, und Sprachmelodie eingeübt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Ich bin ... 3. Partnergespräch 4. Studium 5. Universität 6. Länder 7. Reisen 8. Essen & Trinken 9. Gesundheit 10. Sport 11. Hobbys/Freizeit 12. Musik 13. Sommer 14. Gruppendiskussion 15. Evaluation 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：テキストの指示された部分の予習（単語調べ、翻訳、内容理解等） 授業後：授業の復習および宿題/課題		
テキスト、参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt.		
評価方法	授業への積極的な参加と作文によって評価します		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Unterrichts im zweiten Semester ist es, Spontanität und Redefluss zu verbessern. Die Themen und Kommunikationssituationen werden komplexer, und vermehrt Multimediabeiträge eingesetzt.</p> <p>Wortschatz und Sprachmittel leiten jede Unterrichtseinheit ein. Durch Hörverstehen, Diktate, und Paargespräche werden schrittweise die richtige Aussprache, Intonation, und Sprachmelodie eingeübt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Deutschland 3. Japan 4. Politik 5. Wirtschaft 6. Interview 7. Funk & Fernsehen 8. Film 9. Partnergespräche 10. Gesprächsanalyse 11. Präsentationsvorbereitung 12. Präsentationen 13. Präsentationen 14. Gruppendiskussion 15. Evaluation 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：テキストの指示された部分の予習（単語調べ、翻訳、内容理解等） 授業後：授業の復習および宿題/課題		
テキスト、参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt.		
評価方法	授業への積極的な参加と作文によって評価します		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs soll das Sprechen gefördert werden. Hierzu werden Hörtexte gehört und Aufgaben dazu zum Sprechen bearbeitet. Die Fertigkeiten Hören und Sprechen werden auf dem Niveau A2 trainiert. Die abwechslungsreichen Hörverständnis- und Sprechübungen beinhalten Alltagsthemen und den notwendigen A2-Niveau- Wortschatz. Die Texte und Dialoge sind nach den Autoren des Buches so authentisch wie möglich gehalten. Die meisten Texte werden aus dem Buch: Deutsch, Hören und Sprechen A2, Hueber-Verlag genommen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Was machst du am Wochenende? 2. Eine große Familie. 3. Max und Lena wollen ausgehen 4. Auf Wohnungssuche 5. Beim Umzug 6. Die lieben Nachbarn 7. Einladung zum Besuch 8. Wie ist das bei euch? 9. Sie sind herzlich eingeladen 10. Alte Schulfreunde 11. Gefühle 12. Wie viel kostet das bitte? 13. Das neue Sofa 14. Test 15. Was darf ich Ihnen mitbringen? 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Es gibt Hausaufgaben zum Lesen und Sprechen.		
テキスト、参考文献	Es werden Kopien im Unterricht benutzt.		
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 30%, die Tests mit 70% bewertet.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Wintersemester wird auch das Hör- und Sprechverständnis geübt werden. Hierzu werden Alltagsdialoge gehört und mit Sprechübungen versehen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Der nächste, bitte! 2. Ein Sport-Fan 3. Das schaffe ich nicht alleine! 4. Bewerbungsgespräch 5. Am Telefon 6. Termine, Termine, Termine 7. Wege, Straßen, Plätze 8. Einfach oder hin und zurück? 9. Urlaubspläne 10. Eine Reise buchen 11. Was kommt heute im Fernsehen? 12. Der Wetterbericht 13. Weihnachten 14. Test 15. Unterwegs auf der Straße 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Es gibt Hausaufgaben zum Lesen und Sprechen.		
テキスト、参考文献	Es werden Kopien im Unterricht benutzt.		
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 30%, die Texts mit 70% bewertet.		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Unterrichtsstruktur</i> Bewusstmachung des Themas, Vorabsammlung von Vokabular (Assoziogramm) Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien. Nach Bearbeitung jeweils eines Aufgabenblockes werden die Lösungen sowie der folgende Aufgabenblock verteilt. Die Inhalte und die Progression bestimmen sich aus dem durchschnittlichen Niveau der Teilnehmer.</p> <p><i>Themen (Auswahl)</i> Verwendet werden vom Kursleiter didaktisierte Materialien (MP3- / MP4-Dateien)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Telenovela Jojo 1 (33 Folgen): MP4 2. Liebe und Beziehungen (1): MP4 – Popsong 3. Liebe und Beziehungen (2): MP4 – Lorient-Sketch 1 4. Liebe und Beziehungen (3): MP4 – Lorient-Sketch 2 5. Liebe und Beziehungen (4): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 1 6. Liebe und Beziehungen (5): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 2 7. Heimat und Erfahrung von Fremde (1): MP3/4 – Interview 8. Heimat und Erfahrung von Fremde (2): MP3/4 – Interview 9. Deutsche Kultur: MP3 – Radio-Interview 10. Japaner in Deutschland: MP4 – Fernsehbericht 11. Urlaub in Deutschland: MP3/MP4 – Fernsehbericht/Interviews 12. Deutsche Geschichte: Wiedervereinigung: MP4 – kritischer Popsong 13. Weihnachten in Deutschland (1): MP4 – Fernsehbericht 14. Weihnachten in Deutschland (2): MP4 – Lorient-Sketch 15. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (1) 16. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (2) 17. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (3) <p><i>Niveau</i> Das Niveau der vom Kursleiter zu den Materialien erstellten Aufgaben umfasst die Stufen A2 bis C1. Die Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas / Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung, Schütteltext etc.) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen: Fragen zum Vokabular, Lückentext, Diktat etc.).</p> <p><i>Arbeitsformen</i> Themenvorbereitung durch Diskussion in Plenum Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Zwischentest I 5. Thema 3 6. Thema 4 7. Thema 5 8. Zwischentest II 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Zwischentest III 13. Thema 9 14. Thema 10 15. Zwischentest IV 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Unterrichtsstruktur</i> Bewusstmachung des Themas, Vorabsammlung von Vokabular (Assoziogramm) Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien. Nach Bearbeitung jeweils eines Aufgabenblockes werden die Lösungen sowie der folgende Aufgabenblock verteilt. Die Inhalte und die Progression bestimmen sich aus dem durchschnittlichen Niveau der Teilnehmer.</p> <p><i>Themen (Auswahl)</i> Verwendet werden vom Kursleiter didaktisierte Materialien (MP3- / MP4-Dateien)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Telenovela Jojo 1 (33 Folgen): MP4 2. Liebe und Beziehungen (1): MP4 – Popsong 3. Liebe und Beziehungen (2): MP4 – Lorient-Sketch 1 4. Liebe und Beziehungen (3): MP4 – Lorient-Sketch 2 5. Liebe und Beziehungen (4): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 1 6. Liebe und Beziehungen (5): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 2 7. Heimat und Erfahrung von Fremde (1): MP3/4 – Interview 8. Heimat und Erfahrung von Fremde (2): MP3/4 – Interview 9. Deutsche Kultur: MP3 – Radio-Interview 10. Japaner in Deutschland: MP4 – Fernsehbericht 11. Urlaub in Deutschland: MP3/MP4 – Fernsehbericht/Interviews 12. Deutsche Geschichte: Wiedervereinigung: MP4 – kritischer Popsong 13. Weihnachten in Deutschland (1): MP4 – Fernsehbericht 14. Weihnachten in Deutschland (2): MP4 – Lorient-Sketch 15. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (1) 16. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (2) 17. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (3) <p><i>Niveau</i> Das Niveau der vom Kursleiter zu den Materialien erstellten Aufgaben umfasst die Stufen A2 bis C1. Die Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas / Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung, Schütteltext etc.) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen: Fragen zum Vokabular, Lückentext, Diktat etc.).</p> <p><i>Arbeitsformen</i> Themenvorbereitung durch Diskussion in Plenum Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Zwischentest I 5. Thema 3 6. Thema 4 7. Thema 5 8. Zwischentest II 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Zwischentest III 13. Thema 9 14. Thema 10 15. Zwischentest IV 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Primäres Ziel des Kurses ist die Verbesserung des Hörverständnisses.</p> <p>Das inhaltliche Thema des Kurses in diesem Semester ist die Geschichte der Weimarer Republik 1918 bis 1933. Ihre Geschichte wird anhand Radiodokumentationen (bzw. Teilen dieser) dargestellt. Vorkenntnisse zur Geschichte der Weimarer Republik sind nicht erforderlich, aber hilfreich.</p> <p>Interesse an der Zielsetzung des Unterrichts und die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Mitarbeit werden gefordert.</p> <p>Es wird empfohlen, sich die Dateien der Hörtexte auch als mp3 vom Uni-Computer auf USB-Stick herunterzuladen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung: Ablauf und Inhalt des Kurses 2. Erster Weltkrieg 3. Die Revolution 1918/19 4. Friedrich Ebert 5. Versailler Vertrag 1919 6. Matthias Erzberger 7. Walther Rathenau 8. Hyperinflation 1923 9. Hitlerputsch 1923 10. Weimarer Republik 1924-1930 11. Paul von Hindenburg 12. Heinrich Brüning 13. Franz von Papen 14. Kurt von Schleicher 15. Rückblick auf das und Evaluation des Semesters 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Unterrichtseinheiten sollen durch Hausaufgaben wiederholt bzw. vorbereitet werden.		
テキスト、参考文献	Materialien für den Unterricht werden als Kopien im Kurs verteilt.		
評価方法	Kurze Tests (80%), aktive Mitarbeit im Unterricht inkl. Hausaufgaben (20%)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Primäres Ziel des Kurses ist die Verbesserung des Hörverständnisses.</p> <p>Das inhaltliche Thema des Kurses in diesem Semester ist die nationalsozialistische Diktatur und der deutsche Widerstand. Die Diktatur und der Widerstand werden anhand Radiodokumentationen (bzw. Teilen dieser) dargestellt. Vorkenntnisse zur Geschichte Deutschland von 1933 bis 1945 sind nicht erforderlich, aber hilfreich.</p> <p>Interesse an der Zielsetzung des Unterrichts und die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Mitarbeit werden gefordert.</p> <p>Es wird empfohlen, sich die Dateien der Hörtexte auch als mp3 vom Uni-Computer auf USB-Stick herunterzuladen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung: Ablauf und Inhalt des Kurses 2. Nationalsozialistische „Machtergreifung“ 3. Zur Biographie Adolf Hitlers bis 1933 4. Bücherverbrennung 5. Ausschaltung politischer Gegner 6. Reichspogromnacht 1938 7. Heinrich Himmler 8. Instrumente des Terrors (SA, SS, ...) 9. Konzentrationslager Theresienstadt 10. Ludwig Beck 11. Georg Elser 12. Geschwister Scholl 13. Stauffenberg 14. Kriegsende und Kapitulation 15. Rückblick auf das und Evaluation des Semesters 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Unterrichtseinheiten sollen durch Hausaufgaben wiederholt bzw. vorbereitet werden.		
テキスト、参考文献	Materialien für den Unterricht werden als Kopien im Kurs verteilt.		
評価方法	Kurze Tests (80%), aktive Mitarbeit im Unterricht inkl. Hausaufgaben (20%)		

09年度以降	中世ドイツ語 a	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Unterricht soll in die Lage versetzen, mittelhochdeutsche Texte lesen und übersetzen zu können.</p> <p>Neben der systematischen Beschreibung des Mittelhochdeutschen (Erwerb solider Grammatikkenntnisse) wird die historische Stellung des Mittelhochdeutschen innerhalb der Geschichte der deutschen Sprache besonders berücksichtigt, speziell die semantische Entwicklung, die Bedeutungsdifferenz von Mittelhochdeutsch und Gegenwartssprache, die syntaktischen und morphologischen Unterschiede sowie Genitivkonstruktionen, Negation, Formen der Verben etc.).</p>		<p>Die Texte und Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3. Ritterlich-höfische Welt 4. Wolfram von Eschenbach, Parzival 5. Hartmann von Aue, Iwein 6. Hartmann von Aue, Erech 7. Bäuerliche Welt 8. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 9. Wittenwiler, Der Ring 10. Heldenepik 11. Nibelungenlied 1 12. Nibelungenlied 2 13. Nibelungenlied 3 14. Nibelungenlied 4 15. Wiederholung 	
到達目標	中世ドイツ語圏の文化の基礎、中世ドイツ語の基本文法を理解し、基本的な文章を読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung, eventuell Übersetzung ins Japanische (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test		

09年度以降	中世ドイツ語 b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aus der Zeit des 12. bis 14. Jahrhunderts, der ersten Blütezeit der deutschsprachigen Literatur, sind es viele interessante, komische, humorvolle und berührende Texte erhalten, die uns Einblick geben in das Denken und Leben und die Träume der mittelalterlichen Menschen.</p> <p>Solche Texte im Original zu lesen ist reizvoll und gar nicht so schwierig. Grammatik und Rechtschreibung waren nicht so kompliziert und geregelt wie im heutigen Deutsch.</p>		<p>Die Texte und Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hartmann von Aue, Iwein 1 2. Hartmann von Aue, Iwein 2 3. Hartmann von Aue, Iwein 3 4. Hartmann von Aue, Iwein 4 5. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 1 6. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 2 7. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 3 8. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 4 9. Wolfram von Eschenbach, Parzival 1 10. Wolfram von Eschenbach, Parzival 2 11. Wolfram von Eschenbach, Parzival 3 12. Wolfram von Eschenbach, Parzival 4 13. Wolfram von Eschenbach, Parzival 5 14. Wolfram von Eschenbach, Parzival 6 15. Wiederholung 	
到達目標	中世ドイツ語圏の文化の基礎、中世ドイツ語の基本文法を理解し、基本的な文章を読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung, eventuell Übersetzung ins Japanische (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test		

09年度以降	ビジネスドイツ語 a	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gut im Geschäft</p> <p>Ziel dieses Unterrichts ist es, die Studenten auf verschiedene Geschäftssituationen vorzubereiten - von der Korrespondenz bis zur Konferenz, von dem Vortrag bis zum Vorstellungsgespräch.</p> <p>Wortschatz und Übungen sind aktuell, themenbezogen und praxisnah, und werden durch Rollenspiele, Mini-Diskussionen und Multimedia-Beiträge ergänzt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Kontaktaufnahme: E-Mail 3. Kontaktaufnahme: Smalltalk 4. Kontaktaufnahme: Telefon 5. Arbeitsplatz: Büro 6. Arbeitsplatz: Computer 7. Arbeitsplatz: Bewerbungen 8. Werbung/Marketing 9. Werbung in Japan 10. Werbung in Deutschland 11. Produktpräsentation 12. Statistiken 13. Standort 14. Finanzwelt 15. Evaluation 	
到達目標	ビジネスの場面で使われるドイツ語を理解し、かつ応用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：テキストの指示された部分の予習（単語調べ、翻訳、内容理解等） 授業後：授業の復習および宿題/課題		
テキスト、参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt.		
評価方法	授業への積極的な参加と作文によって評価します		

09年度以降	ビジネスドイツ語 b	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gut im Geschäft II</p> <p>Ziel dieses Unterrichts ist es, die Studenten auf verschiedene Geschäftssituationen vorzubereiten - von der Korrespondenz bis zur Konferenz, von dem Vortrag bis zum Vorstellungsgespräch.</p> <p>Wortschatz und Übungen sind aktuell, themenbezogen und praxisnah, und werden durch Rollenspiele, Mini-Diskussionen und Multimedia-Beiträge ergänzt.</p> <p>Themenschwerpunkt ist die Vorbereitung und Durchführung einer eigenen Präsentation zu einem Wirtschaftsthema.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Deutsche Wirtschaft 3. Japanische Wirtschaft 4. Ländervergleich Wirtschaft D/JAP 5. Firmenbesuch 6. Geschäftsreise 7. Konferenzen/Seminare 8. Interkulturelle Kommunikation 1 9. Interkulturelle Kommunikation 2 10. Interkulturelle Kompetenz 11. Präsentation: Software 12. Präsentation: Vorbereitung 13. Studenten-Präsentationen 14. Studenten-Präsentationen 15. Evaluation 	
到達目標	ビジネスの場面で使われるドイツ語を理解し、かつ応用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：テキストの指示された部分の予習（単語調べ、翻訳、内容理解等） 授業後：授業の復習および宿題/課題		
テキスト、参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt.		
評価方法	授業への積極的な参加と作文によって評価します		

09年度以降	上級ドイツ語特殊演習	担当者	V. シュタンツェル (客員教授)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aktuelle Fragen der Stellung Europas in der Welt Das Verständnis der Situation, in der Europa sich heute zwischen Weltmächten und neuen globalen Herausforderungen befindet, entsteht durch einen genauen Blick auf konkrete Fragestellungen. Solche werden wir analysieren, um am Ende des Semesters in der Lage zu sein „Europa heute“ zu verstehen und zu erklären.</p> <p>Reader mit kurzen Texten von Adolf Muschg: Vergessen wir Europa? Hans-Dietrich Genscher: Europa in einer neuen Weltordnung, Hans-Ulrich Wehler: Konflikte zu Beginn des 21. Jahrhunderts, Joschka Fischer: Scheitert Europa? Angela Merkel: Rede vom 27. Februar 2014 in London, Bruno Kreisky: Zwischen den Zeiten</p>		<p><2016年度 秋学期> 詳細については初回授業時に説明します。</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を実践的に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	レポートあるいはプレゼンテーション 50%、授業への参加度 50%。		

09年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春・秋学期の両方を履修することも可能です。</p> <p>Academic Reading/Listening Strategiesで培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目的とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞・雑誌・オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようにします。授業は全て英語で実施し、ライティングの方法が中心です。ドイツ語圏について各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー(1000-2000語)を書き、最終授業で発表します。春学期は、「環境問題」をテーマとしますが、文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修者はTOEIC 500点を目安とする。 German Studies in English IまたはAcademic Writing I, IIを履修していることが望ましい。 リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。 		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction Reading academic articles Library database guidance Choosing and narrowing a topic Outline and Thesis statement Writing an Introduction Peer editing session Summary, paraphrase, citation Writing Body sections Peer editing session Tutorials Writing a Conclusion Presentation skills Final presentations Research paper submission & Self-evaluation 	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次より総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	図書館、インターネットおよびアンケートなどによるリサーチ。各週の課題は授業内の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	教科書：使用しない。教材はクラスで配布する。 参考文献：Schreurs, Miranda A. (2003). <i>Environmental politics in Japan, Germany, and the United States</i> . Cambridge.		
評価方法	授業参加 20% 課題 10% 期末発表 30% リサーチペーパー40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

09年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春・秋学期の両方を履修することも可能です。</p> <p>Academic Reading/Listening Strategiesで培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目的とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞・雑誌・オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようにします。授業は全て英語で実施し、ライティングの方法が中心です。ドイツ語圏について各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー(1000-2000語)を書き、最終授業で発表します。秋学期は、「映画」をテーマとしますが、文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修者はTOEIC 500点を目安とする。 German Studies in English IまたはAcademic Writing I, IIを履修していることが望ましい。 リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。 		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction Reading academic articles Library database guidance Choosing and narrowing a topic Outline and Thesis statement Writing an Introduction Peer editing session Summary, paraphrase, citation Writing Body sections Peer editing session Tutorials Writing a Conclusion Presentation skills Final presentations Research paper submission & Self-evaluation 	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次より総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	図書館、インターネットおよびアンケートなどによるリサーチ。各週の課題は授業内の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	教科書：使用しない。教材はクラスで配布する。 参考文献：Hake, Sabine. (2008). <i>German National Cinema, 2nd edition</i> . New York: Routledge.		
評価方法	授業参加 20% 課題 10% 期末発表 30% リサーチペーパー40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

09年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ	担当者	黒子 葉子 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) これからみなさんがドイツ語学科で専門的に学ぶための基礎を習得します。また、自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究するために必要となる知的技術、批判的思考力の獲得を目指します。</p> <p>(重点項目) 1) ドイツ語学科の学生として必要不可欠な、ドイツ語圏に関する基礎知識を習得する。 2) 「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して履修することにより、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野やテーマ選択の手掛かりをつかむ。 3) 文献の検索方法、論文の一般的な形式、構造、読み方を学び、レポート作成についての基本的知識と技術を習得する。</p>		<p>毎回、異なる担当者が、それぞれの専門分野の視点から、ドイツ語圏に関する基礎知識を講義します。また、論文の読み方やレポートの書き方、自分のテーマに関連する文献、新聞記事、雑誌記事の検索方法を学びます。</p> <p>第1回の授業で、春学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、評価方法などを説明します。必修授業ですので、第1回から出席をとります。</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせすることがありますので、毎回必ず確認してください。</p>	
到達目標	ドイツ語圏に関する必要最低限の知識と、大学で学んでいく上で必要な技能を習得し、入門的なドイツ語圏の研究分析ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業後にはしっかりと復習し、知識を定着させてください。		
テキスト、参考文献	原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布します。		
評価方法	毎回の講義内容についての「授業レポート」に基づいて評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	黒子 葉子 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) これからみなさんがドイツ語学科で専門的に学ぶための基礎を習得します。また、自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究するために必要となる知的技術、批判的思考力の獲得を目指します。</p> <p>(重点項目) 1) 特定のテーマについて様々なアプローチから学ぶことによって、ドイツ語圏への関心を高め、ドイツ語やドイツ語圏について学ぶ意義を確認する。 2) 「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して履修することにより、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野やテーマ選択の手掛かりをつかむ。</p>		<p>秋学期は大きくふたつのパートに分かれています。ひとつ目のパートでは、共通テーマを設定し、そのテーマに毎回異なる担当教員がそれぞれの視点から迫っていきます。</p> <p>ふたつ目のパートでは、上級生、卒業生、外部講師による講演を通じて、ドイツ語学科での学習が将来どのように生きてくるかを学びます。</p> <p>第1回の授業で、秋学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、評価方法などを説明します。必修授業ですので、第1回から出席をとります。</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせすることがありますので、毎回必ず確認してください。</p>	
到達目標	ドイツ語圏に関する必要最低限の知識と、大学で学んでいく上で必要な技能を習得し、入門的なドイツ語圏の研究分析ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業後にはしっかりと復習し、知識を定着させてください。		
テキスト、参考文献	原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布します。		
評価方法	毎回の講義内容についての「授業レポート」に基づいて評価します。		

09年度以降	基礎演習Ⅰ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」で修得した、ドイツ語圏に関する基礎知識をベースに、2年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3年次以降の専門演習に向けた準備を目標にします。</p> <p>「知のスキル」とは、具体的には以下のとおりです。</p> <p>① テキストを正確に理解する力 ② 論理的に思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成）</p> <p>春学期は、共通テキストの輪読をもとに討論し、テキストのテーマに基づきレポートを2度、提出してもらいます。</p> <p>* なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ」、および「基礎演習ⅠまたはⅡ」を履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマⅠ：テキスト輪読とディスカッション① 3. 同② 4. 同③ 5. 同④、中間レポート課題提示 6. 同⑤ 7. 同⑥ 8. テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション①、中間レポート提出 9. 同② 10. 同③ 11. 中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 12. テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション④ 13. 同⑤ 14. 同⑥ 15. 秋学期の準備（グループ分け、テーマ決定等） <p>* さらに詳しい授業計画は、第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
到達目標	文献の内容要約や、自分の考えをグループおよび個人で口頭で発表し、さらにレポートとしてまとめ提出できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各クラス教員によって指定されたテキストを事前に精読し、積極的にディスカッションに参加してください。授業後には、各回のプレゼンテーションで指摘された点を復習し、学んだことを自分の発表に反映して行ってください。		
テキスト、参考文献	各担当教員による指示。		
評価方法	授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。		

09年度以降	基礎演習Ⅱ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、「グループ発表」と「個人発表」を行い、適宜ディスカッションやディベートなども取り入れながら、「知のスキル」を高めることを目的とします。</p> <p>前半は、教員と学生が相談の上で決めた「ドイツ語圏に係るテーマ」について、4から5名ひとくみのグループごとに調査し発表します。後半は、グループ発表で扱ったテーマを、各個人がさらに深めるような形で、「個人発表」を行います。</p> <p>* 「グループ発表」「個人発表」の順序は、クラスの状況に応じて変更する可能性もあります。3年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。</p> <p>また、グループ発表、個人発表をまとめる形での中間、期末のレポートを2回提出してもらいます。</p> <p>* なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ」、および「基礎演習ⅠまたはⅡ」を履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、春学期末レポート返却・講評 2. グループ発表① 3. 同② 4. 同③、中間レポート課題提示 5. 同④ 6. 個人発表① 7. 同② 8. 同③、中間レポート提出 9. 同④ 10. 同⑤ 11. 同⑥ 12. 同⑦、中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 13. 同⑧ 14. 同⑨ 15. 同⑩、まとめ <p>* さらに詳しい授業計画は第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
到達目標	文献の内容要約や、自分の考えをグループおよび個人で口頭で発表し、さらにレポートとしてまとめ提出できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各クラス教員によって指定されたテキストを事前に精読し、積極的にディスカッションに参加してください。授業後には、各回のプレゼンテーションで指摘された点を復習し、学んだことを自分の発表に反映して行ってください。		
テキスト、参考文献	各担当教員による指示。		
評価方法	授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。		

09年度以降	通訳特殊演習	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では将来、日独語の通訳者や国際会議や催しなどを企画運営するコンgres・オーガナイザーなどで働くことを希望している学生を対象に、通訳者に求められる語学力の習得方法、キャリアプランの立て方、基礎的な通訳スキルなどを紹介しながら練習していきます。</p> <p>通訳に必要な言葉の運用能力は短期間で習得することはできません。キャリアプランを土台にして、中期・長期のドイツ語学習計画を作成し、粘り強く練習を続けていかなければなりません。それぞれの学習段階の到達目標や、そこに至る練習方法についても紹介します。</p> <p>通訳者の仕事は高い職業意識と責任感を要求されるものです。明確な目標意識と積極的な勉学の姿勢を持った学生を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進度計画と到達目標の紹介 2. 通訳者の仕事と求められる語学力 3. 通訳スキルとは何か 4. 毎日の練習メニュー 5. 記憶力トレーニング (1) 日本語 6. 記憶力トレーニング (2) ドイツ語 7. 内容理解力の強化(1) - サマライズ 8. 内容理解力の強化(2) - パラフレーズ 9. 反応能力の改善と強化 10. 逐次通訳練習 - 日本語からドイツ語へ (1) 11. 逐次通訳練習 - 日本語からドイツ語へ (2) 12. 逐次通訳練習 - ドイツ語から日本語へ (1) 13. 逐次通訳練習 - ドイツ語から日本語へ (2) 14. ドイツ語運用力の改善に必要な項目 15. 春学期のまとめと到達目標の確認 	
到達目標	ドイツ語通訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には使用する材料の下読みと内容の確認、事後には練習メニューの消化が必要です。		
テキスト、参考文献	テキストは主にプリント類を授業で配布します。必要に応じて参考文献リストを挙げます。		
評価方法	授業への貢献度(40%)、課題の達成度(40%)、学習目標の達成度(20%)などを考慮して判断します。		

09年度以降	通訳特殊演習	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同様に、この授業は将来、日独通訳者など日本とドイツ語圏の間の広義のリンガサービスに就くことを考えている学生を対象に、関連する情報を提供していきます。春学期からの継続履修もあり得るので、通訳者の職業紹介的な情報は必要最小限度にして、語学力の強化と通訳する上で求められる背景知識の習得方法に力点を置いて授業を進めていきます。</p> <p>授業を通して、ドイツ語を使う職業に就くための意識改革と日々の練習を重ねていくことの大切さを自覚できるようにします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進度計画と到達目標の紹介 2. キャリアデザインと学習計画 3. 自分の語学力を分析する 4. 通訳とは - 日本語から日本語へ訳す 5. 要約練習 - 日本語からドイツ語へ (1) 6. 要約練習 - 日本語からドイツ語へ (2) 7. 要約練習 - ドイツ語から日本語へ (1) 8. 要約練習 - ドイツ語から日本語へ (2) 9. パラフレーズ練習 - 日本語 10. パラフレーズ練習 - ドイツ語 11. 逐次練習 - 日本語からドイツ語へ (1) 12. 逐次練習 - 日本語からドイツ語へ (2) 13. 逐次練習 - ドイツ語から日本語へ (1) 14. 逐次練習 - ドイツ語から日本語へ (2) 15. 秋学期のまとめと到達目標の確認 	
到達目標	ドイツ語通訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には使用する材料の下読みと内容の確認、事後には練習メニューの消化が必要です。		
テキスト、参考文献	テキストは主にプリント類を授業で配布します。必要に応じて参考文献リストを挙げます。		
評価方法	授業への貢献度(40%)、課題の達成度(40%)、学習目標の達成度(20%)などを考慮して判断します。		

09年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳は、中学・高校の英文を訳すこととは違い、文法的にテキストが分かったという「アリバイ証明」ではありません。また、言葉の表面だけを日本語に置き換えて、それで良しとすることでもありません。正確に原文が伝えようとする内容を読み取り、それを完成度の高い日本語で「言い直す」作業です。</p> <p>ですから、毎週ドイツ語のテキスト（12～20行程度）を前もって配り、その訳を授業の前日夕方までにメールで提出してもらいます。私の方では段落ごとに皆さんの訳を並べ直し、授業ではそれをプロジェクターでスクリーンに映し出し、問題点をコメントします。これを一学期続けると、きちんと理解できる日本語に訳し出すには、どうすればいいかが分かってくると思います。</p> <p>3回以上、無断で訳を提出しなかった学生は途中で放棄したものと見なします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 例を用いて、授業の概要と進め方を説明 2. 内容を知っているテキストを訳す（1） 3. 内容を知っているテキストを訳す（2） 4. 内容を知っているテキストを訳す（3） 5. 身近なテーマの訳（1） 6. 身近なテーマの訳（2） 7. 身近なテーマの訳（3） 8. 新聞記事を訳す（1） 9. 新聞記事を訳す（2） 10. 新聞記事を訳す（3） 11. 国際的なテーマ（1） 12. 国際的なテーマ（2） 13. ドイツの生活に関するテーマ（1） 14. ドイツの生活に関するテーマ（2） 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語翻訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	上記のように、必ず前日までに訳をメールで送ってください。		
テキスト、参考文献	課題を毎週メールで参加者に送付します。		
評価方法	提出した翻訳に基づいて評価します。試験やレポートは課しません。		

09年度以降	インターンシップ特殊演習	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Ziel des Unterrichts ist zu verstehen, was es heißt ein Firmenpraktikum in Deutschland zu machen und sich darauf vorzubereiten. Dazu sind Hintergrundwissen über Deutschland, die Gesellschaft, deutsche Firmen oder andere Praktikumsstellen nötig. Wir üben Gespräche mit Kollegen und Chefs, Telefongespräche, E-Mails und Geschäftsbriefe schreiben, mit deutschen Computern umzugehen, besonders auch Wirtschafts-Deutsch und andere Anforderungen.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Team-Arbeit wird verlangt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung, Unterrichtsplan besprechen 2. Was ist eigentlich ein Praktikum? 3. Lebenslauf 4. Bewerbungs-, Motivation-Schreiben 5. Selbstvorstellung, Homestay 6. Hintergrund-Wissen: über Deutschland 7. Gesellschaft 8. Gesellschaft 9. Firmen, andere Praktikumsstellen 10. Leben in Deutschland 11. Kontakt mit Kollegen, Chefs 12. Verhalten in der Praktikumsstelle 13. Wirtschaftsdeutsch 14. Wirtschaftsdeutsch 15. Zusammenfassung 	
到達目標	ドイツ語圏のインターンシップに必要な知識等を習得するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語圏での働き方や自己の職能・適性等を発見できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	レポートあるいはプレゼンテーション 50%、授業への参加度 50%。		

09年度以降	留学準備特殊演習	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の大学で学ぶにはどのような準備が必要でしょうか。またドイツ語力はどの程度必要とされるのでしょうか。また、住居はどうしたら見つけられるか。</p> <p>そんな具体的なことから、留学で何を学ぶか、何が変わるかなど、ドイツ語圏への長期留学を目指している皆さんを対象に、ドイツ語で話す、聴く、読む、書くことを通して、その意義、心構え、事前準備、留学先の町や大学での生活等について、演習形式で実践的に学びます。</p> <p>また、できればドイツ語圏から獨協に留学している皆さんのお話も聞く機会を設けたいと思います。</p> <p>さらに、留學生活で必ず尋ねられるのは日本のこと、日本の社会や文化についてです。いろいろな面から質問に答えることができるよう、知識とドイツ語力を深めておきましょう。</p> <p>皆さんの積極的な参加を楽しみにしています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツで何を、どう学ぶか。 2. 発表準備（ブレインストーミング） 3. テーマ別発表（ドイツ語・日本語） 4. テーマ別発表（ドイツ語・日本語） 5. テーマ別発表（ドイツ語・日本語） 6. テーマ別発表（ドイツ語・日本語） 7. Studieren in Deutschland 8. ドイツの大学と学生生活 9. ドイツの住まい 10. ドイツ諸事情 11. ドイツで困ったら 12. ドイツからの留学生はどうしてる？ 13. 日本を知らない私（1）日本事情 14. 日本を知らない私（2）日本文化 15. ドイツ留学総まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の留學生活に必要な知識等を習得するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語圏大学への長期留學に必要な要件を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、何が期待されているのかを、種々の参考文献に当たって調べる。事後学習には授業で質問を受け、問題とされた箇所についてさらに検討を加え、報告することが望まれます。		
テキスト、参考文献	犬養道子『ラインの河辺』中公文庫 1973 築島謙三『「日本人論」の中の日本人（上・下）』講談社学術文庫 1449 講談社 2000年 阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ドイツ的とは何か』 他		
評価方法	授業参加度 25%、口頭発表 25%、レポート 50%。また、5回以上欠席の場合は履修中止とみなします。		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Tandem Dokkyo-Halle)</p> <p>In diesem Kurs trainieren Sie das selbstständige Lernen im <i>Tandem</i>-System. Ziel ist, Hören und Sprechen in der Kommunikation mit deutschen Studierenden zu verbessern. (SPRACHLICHES LERNEN).</p> <p>Dazu arbeiten wir zusammen mit Studierenden der Universität Halle. Alle Teilnehmer bekommen eine(n) Partner(in) in Halle. Sie treffen sich einmal in der Woche auf <i>Skype</i>, um – auf Deutsch und Japanisch – eine Aufgabe zu einem aktuellen Thema zu bearbeiten. Das Ergebnis präsentieren Sie in unserem Kurs.</p> <p>Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie:</p> <ul style="list-style-type: none"> - ein Sprachniveau von mindestens A2.2 haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner zu skypen. <p>この授業の定員は10人前後です。第一回目の授業で(4月11日)履修選抜を行いますので、絶対参加して下さい。</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. <i>Videokonferenz</i> 3. Skype-Sitzung 4. Bericht aus den Tandems: Ihre Partner 5. <i>Videokonferenz</i> 6. Bericht aus den Tandems: Ihr Thema 7. Skype-Sitzung 8. Bericht aus den Tandems: Ihre Zusammenarbeit 9. <i>Videokonferenz</i> 10. Präsentationen 1 11. Präsentationen 2 12. Präsentationen 3 13. <i>Videokonferenz</i> 14. Präsentationen 4 15. Kursfazit, Zukunftspläne 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmenden führen wöchentlich einen Skype-Chat mit ihrem Partner/ihrer Partnerin durch, den sie vorher gut planen. Sie bereiten einen Bericht über den Chat für den Unterricht vor.		
テキスト、参考文献	Textmaterial wird im Unterricht verteilt bzw. von den Teilnehmenden selbst recherchiert.		
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht und in den Tandems, die Beiträge auf dem Blog sowie die Präsentation.		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Fachkurs Dokkyo-Halle)</p> <p>Dieser Kurs ist ein <i>Fachkurs</i>, der gemeinsam mit der Japanologie der Universität Halle veranstaltet wird. Sie beschäftigen sich vergleichend mit gesellschaftlichen Fragen in Deutschland und Japan. Dabei lernen Sie, mit deutschen Studierenden zusammen an einem kleinen <i>Forschungsprojekt</i> zu arbeiten und das Ergebnis zu präsentieren. (FACHLICHES LERNEN)</p> <p>Alle Teilnehmer bekommen eine(n) Partner(in) in Halle. Sie treffen sich einmal in der Woche auf <i>Skype</i>, um eine Fragestellung zu entwickeln, eine Studie durchzuführen und eine Präsentation der Ergebnisse zu erstellen.</p> <p>Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie:</p> <ul style="list-style-type: none"> - ein Sprachniveau von mindestens B1 haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner zu skypen. <p>この授業の定員は10人前後です。第一回目の授業で(9月26日)履修選抜を行いますので、絶対参加して下さい。</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Einstieg ins Kursthema 3. <i>Videokonferenz</i> 4. Entwicklung einer Fragestellung 5. <i>Videokonferenz</i> 6. Entwicklung des Forschungsdesigns (1) 7. Entwicklung des Forschungsdesigns (2) 8. Entwicklung des Forschungsdesigns (3) 9. <i>Videokonferenz</i> 10. Pilotstudie (1) 11. Pilotstudie (2) 12. Auswertung (1) 13. Auswertung (2) 14. <i>Videokonferenz</i> 15. Kursfazit, Zukunftspläne 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmenden führen wöchentlich einen Skype-Chat mit ihrem Partner/ihrer Partnerin durch, für den sie selbstständig Informationen recherchieren. Sie bereiten einen Bericht darüber vor.		
テキスト、参考文献	Textmaterial wird im Unterricht verteilt bzw. von den Teilnehmenden selbst recherchiert.		
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht und die Zusammenarbeit mit den Partnern in Halle, die Beiträge auf der Kurs-Plattform sowie die Präsentation.		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語教育を中心に、外国語教育について「学ぶ側」と「教える側」の両方を視野に入れて、効果的な外国語学習について考える。外国語教育における「学習ストラテジー」を全体のテーマとし、各種の練習法を自覚的に体験しながら、その意味を考えていく。</p> <p>よくある教育法の概要を知るだけでなく、参加者の学習経験を振り返りながら、外国語学習の問題を考え、それに関してレポートをしたり、意見交換をしてもらう。また、たんに初級段階での学習過程だけでなく、たとえば翻訳者や通訳者がプロになるために行う練習法なども体験してもらい、そうした練習法がドイツ語教育にどう役立つかも検討していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目的と課題 2. 自分が学んできた英語・ドイツ語教育を振り返る 3. 現代の日本社会におけるドイツ語の位置 4. 外国語の目的と目標設定 5. 主なドイツ語学習法 6. 聞き取りの練習（1） 7. 聞き取りの練習（2） 8. 訳すことの意味（1） 9. 訳すことの意味（2） 10. テキスト構成を理解する（1） 11. テキスト構成を理解する（2） 12. テキスト構成を理解する（3） 13. 理解と背景知識（1） 14. 理解と背景知識（2） 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	参加者には、これまで自分が受けてきた外国語教育を振り返り、どのような学習法があるかを考えるため、ときおり簡単なレポートを課す。		
テキスト、参考文献	各回、必要に応じて指示する。		
評価方法	授業のための作業、準備、レポート、課題への取り組みなどを総合的に評価する。		

09年度以降	ドイツ語概論 a	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。</p> <p>講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るといったような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、まずは言語についての一般的な問題を取り上げる。言語学概論とだぶる部分も出てくるとは思うが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ことばの不思議-導入と年間計画 ことばの不思議 (1) ことばの不思議 (2) ことばの不思議 (3) ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (1) ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (2) それってドイツ語-ドイツ語の方言 文法のお話 (1)-品詞ってなに 文法のお話 (2)-木を見て森を見ず 文法のお話 (3)-パンドラの箱 辞書は大きなおもちゃ箱 言語というブラックホール 言語のたのしみ まとめ まとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索		
テキスト、参考文献	適時講義で指示。		
評価方法	試験あるいはレポートと授業中の課題。		

09年度以降	ドイツ語概論 b	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。</p> <p>講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るといったような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 言語は怪人二十面相 言語学の歴史 音の世界-音声学・音韻論 形にこだわって-形態論 文の組み立てについて-統語論 意味って何 (1)-意味論 意味って何 (2)-意味論 言語は生き物 (1)-実用論 言語は生き物 (2)-実用論 言語と社会-社会言語学 言語と心-言語心理学あるいは認知 言語研究への道 言語研究への道 まとめ まとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索		
テキスト、参考文献	適時講義で指示。		
評価方法	試験あるいはレポートと授業中の課題。		

09年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 a	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> いわゆるゲーテ時代のさまざまな人間観について吟味し、できるだけ現代の人間観、人間が抱える諸問題などと関連づけながら考察することを目的とします。</p> <p><講義概要> イマヌエル・カントのエッセイ『啓蒙とは何か?』を読んで当時の人間観について概観した後に、同時代の他の文学作品などから人間に関する描写、考察、分析をしている箇所を拾い出して読み、考察して行きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カント『啓蒙とは何か?』を読む 3. カント『啓蒙とは何か?』を読む/ 「啓蒙」によって得られるもの、失われるもの 4. 「啓蒙」によって得られるもの、失われるもの 5. ゲーテ『若きヴェルターの悩み』を読む 6. 「ヴェルター的悩み」とは? 7. シラー『招霊妖術師』を読む 8. 「啓蒙」の時代とオカルト・ブーム 9. ゲーテ『ファウスト』を読む 10. 人間を「調合」?する 11. 『ファウスト』第二部、最終場面について 12. 『魔笛』を見る 13. 『魔笛』を読む 14. クニッゲ『人間交際術』を読む 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の文学・思想に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ文学史の本（例えば、手塚富雄・神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波文庫別冊）で、ゲーテ時代、およびその前後の時代の文学・時代の状況について概観しておくといいでしょう。後は、授業の復習！		
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じてコピーで配布します。 参考文献：必要に応じて指示します。		
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20%）と、学期末の筆記試験（80%）により評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 b	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> ドイツ語で書かれた代表的な文学作品を、いわゆるジャンルごとについていくつか取り上げ、ジャンルとしての特徴などを検討しながら、楽しむ（深読みする?）ことを目的とします。</p> <p><講義概要> 右記の通り、ドイツ語で書かれたメルヒェン、詩、小説、ドラマの各ジャンルから代表作品を選び、内容を概観した上で、いろいろな視点から解釈（つまり、深読み）して行きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. メルヒェン（1） 3. メルヒェン（2） 4. メルヒェン（3） 5. ドイツの詩（1） 6. ドイツの詩（2） 7. ドイツの詩（3） 8. ドイツの詩（4） 9. ドイツの小説（1） 10. ドイツの小説（2） 11. ドイツの小説（3） 12. ドイツのドラマ（1） 13. ドイツのドラマ（2） 14. ドイツのドラマ（3） 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の文学・思想に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ文学史の本（例えば、手塚富雄・神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波文庫別冊）で、ドイツ文学の歴史を概観しておくといいでしょう。後は、授業の復習！		
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じてコピーで配布します。 参考文献：必要に応じて指示します。		
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20%）と、学期末の筆記試験（80%）により評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の言語 a	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、これまで一通りドイツ語文法を学んできた皆さんが、より深くことばの世界を知り、調査、研究するために、基礎となる概念を解説します。</p> <p>春学期は、語や文がどのような仕組みで成り立っているのかという疑問から出発して、具体例を見ながら、ドイツ語の文法的特徴を一緒に考えていきたいと思ひます。また、ドイツ語の歴史や、地域的なヴァリエーションについても概観します。</p> <p>授業では、ドイツ語の例示を中心としますが、必要に応じて他言語との比較も行ひます。</p> <p>講義の内容や順番は、受講者の関心等に応じて、多少変更する可能性もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツ語の歴史 3. ドイツ語の地域的ヴァリエーション 4. 言語学の対象と各分野 5. 形態論1 形態論の対象 6. 形態論2 形態素 7. 形態論3 語形変化 8. 形態論4 語形成 9. 形態論5 語形成 10. 統語論1 統語論の対象 11. 統語論2 統語構造 12. 統語論3 構成素 13. 統語論4 語順 14. 統語論5 格 15. 春学期のまとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の講義内容をよく復習し、疑問点があれば質問してください。		
テキスト、参考文献	授業内でレジюмеと資料プリントを配布します。		
評価方法	毎回の「授業レポート」(50%)と、最終回に実施する筆記試験(50%)に基づいて評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の言語 b	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期には、主に語や文の内部構造を観察しましたが、秋学期には、語や文の示す意味や、実際の運用の仕方、コミュニケーション上の意図などを分析します。</p> <p>春学期の講義内容を理解していることを前提にお話ししますが、秋学期からの履修も歓迎します。</p> <p>秋学期も、多くの例を見ながらみなさんに考えてもらひ、実際に分析してもらひ形を進めていきます。それによつて、今まで意識することのなかつた「ことばの機能」を発見することが、この講義の目標です。</p> <p>授業では、ドイツ語の例示を中心としますが、必要に応じて他言語との比較も行ひます。</p> <p>講義の内容や順番は、受講者の関心等に応じて、多少変更する可能性もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 春学期の復習 3. ドイツ語の文字 4. 文法的性と格標示に関する言語間の比較 5. 意味論1 意味論の対象 6. 意味論2 意味関係 7. 意味論3 意味素性 8. 意味論4 プロトタイプ 9. 意味論5 普遍主義と相対主義 10. 意味論6 述語と項 11. 語用論1 語用論の対象 12. 語用論2 発話行為 13. 語用論3 発話行為 14. 語用論4 ポライトネス 15. 秋学期のまとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の講義内容をよく復習し、疑問点があれば質問してください。		
テキスト、参考文献	授業内でレジюмеと資料プリントを配布します。		
評価方法	毎回の「授業レポート」(50%)と、最終回に実施する筆記試験(50%)に基づいて評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の文学 a	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーテの『ファウスト』第I部を原文で読む1 (火2) 「ゲーテの『ファウスト』を知らずしてドイツ語を学んだと言うなかれ」とはある高名なドイツ文学者の名言だ。たしかに、ゲーテ (Johann Wolfgang Goethe, 1749–1832) の『ファウスト』 („Faust“) は、ドイツ語を学ぶ者が一度はそのドイツ語原文を覗いておくべき作品だ。というのも、それはドイツ語のさまざまな要素がたっぷり詰まった宝庫なのだ。そのドイツ語の醍醐味を味わうためにも、原文のドイツ語について文法的分析もふくめて、その言語世界を読み解こう。そうすれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語を読み解く楽しさも分かるだろう。</p> <p>そのためにも、最初の数週間で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続いて『ファウスト』第I部から「アウエルバッハの酒場」(今はDresdenの観光名所)の場面をドイツ語原文でゆっくりと丁寧に読む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章ドイツ語読解のための文法 1 2. 文章ドイツ語読解のための文法 2 3. 文章ドイツ語読解のための文法 3 4. 文章ドイツ語読解のための文法 4 5. Auerbachs Keller 1 6. Auerbachs Keller 2 7. Auerbachs Keller 3 8. Auerbachs Keller 4 9. Auerbachs Keller 5 10. Auerbachs Keller 6 11. Auerbachs Keller 7 12. Auerbachs Keller 8 13. Auerbachs Keller 9 14. Auerbachs Keller 10 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】 毎回講読する箇所の精読。 【事後学習】 毎回の授業の翌日 24:00 までに復習のリアクションメールを担当教員に送信する。		
テキスト、参考文献	【テキスト】 プリントを配付する。 【参考文献】 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版 (白水社) 2003 (¥1,600); 羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版 (白水社) 2003 (¥1,600)		
評価方法	毎回送信のリアクションメールで評価 (50%), それに 2 回の小テストの成績 (30%) と文法習得用宿題 (20%) を合わせて総合的に評価する。なお、リアクションメール提出が 10 回未満は不合格となる。		

09年度以降	ドイツ語圏の文学 b	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーテの『ファウスト』第I部を原文で読む2 (火2) 「ゲーテの『ファウスト』を知らずしてドイツ語を学んだと言うなかれ」とはある高名なドイツ文学者の名言だ。たしかに、ゲーテ (Johann Wolfgang Goethe, 1749–1832) の『ファウスト』 („Faust“) は、ドイツ語を学ぶ者が一度はそのドイツ語原文を覗いておくべき作品だ。というのも、それはドイツ語のさまざまな要素がたっぷり詰まった宝庫なのだ。そのドイツ語の醍醐味を味わうためにも、原文のドイツ語について文法的分析もふくめて、その言語世界を読み解こう。そうすれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語を読み解く楽しさも分かるだろう。</p> <p>そのためにも、最初の数週間で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続いて『ファウスト』第1部から「魔女の廚」(「くりや」とは「台所」のこと)の場面をドイツ語原文でゆっくりと丁寧に読む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章ドイツ語読解のための文法 1 2. 文章ドイツ語読解のための文法 2 3. 文章ドイツ語読解のための文法 3 4. 文章ドイツ語読解のための文法 4 5. Hechsenküche 1 6. Hechsenküche 2 7. Hechsenküche 3 8. Hechsenküche 4 9. Hechsenküche 5 10. Hechsenküche 6 11. Hechsenküche 7 12. Hechsenküche 8 13. Hechsenküche 9 14. Hechsenküche 10 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】 毎回講読する箇所の精読。 【事後学習】 毎回の授業の翌日 24:00 までに復習のリアクションメールを担当教員に送信する。		
テキスト、参考文献	【テキスト】 プリントを配付する。 【参考文献】 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版 (白水社) 2003 (¥1,600); 羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版 (白水社) 2003 (¥1,600)		
評価方法	毎回送信のリアクションメールで評価 (50%), それに 2 回の小テストの成績 (30%) と文法習得用宿題 (20%) を合わせて総合的に評価する。なお、リアクションメール提出が 10 回未満は不合格となる。		

09年度以降	ドイツ語圏の思想 a	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。</p> <p>具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。</p> <p>またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講時代を追っていくのにじっくり急がないつもりですが、しかし今学期もせめてカントまでは触れます。ドイツ語学科以外の学生の受講も歓迎する（ドイツ語の知識は前提にしない）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 古典について 3. 古典について 4. キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント 5. ルネッサンス 6. デカルトの思想 7. カントの思想(1) 8. カントの思想(2) 9. カントの思想(3) 10. カントの思想(4) 11. ドイツ観念論(1) 12. ドイツ観念論(2) 13. ドイツ観念論(3) 14. ドイツ観念論の問題点 15. 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏の文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後に18世紀ドイツ啓蒙までの思想文化の概略を把握する。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。		

09年度以降	ドイツ語圏の思想 b	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主にドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していく。春学期の講義の続きではありますが、別個に受講しても問題はない。</p> <p>具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれる。</p> <p>テーマはドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してほしい。ドイツ語学科以外の学生も歓迎する（ドイツ語の知識は前提にしない）。</p> <p>時代を追っていくのに急がながい、今学期もハイデガーやベンヤミンの思想に触れられたらいい。現代思想ゆえの過激な展開になる。現代的な関心がある学生も歓迎する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. ロマン派 3. ヘーゲルとマルクス 4. 若いマルクスと『資本論』のマルクス 5. 『資本論』と宗教批判 6. マルクス主義と現代思想(1) 7. マルクス主義と現代思想(2) 8. ニーチェ(1) 9. ニーチェ(2) 10. ニーチェ(3) 11. ハイデガー(1) 12. ハイデガー(2) 13. ハイデガー(3) 14. 現代の思想 15. 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏の文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後には19世紀以降の思想の概略を把握している。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen Texte, an denen wir linguistische Formen und Funktionen verstehen können, besonders soziolinguistische Daten.</p> <p>In diesem Semester lesen wir dazu Romane von Hanns-Josef Ortheil, zuerst „Der Stift und das Papier“ (Text 1). Dies ist eine Erzählung, wie er selbst als Kind auf ungewöhnliche Weise das Schreiben lernt. Dieser Text ist sehr einfach.</p> <p>An einem weiteren Roman „Die große Liebe“ (Text 2) kann man sehr schön soziolinguistische Sprachbeispiele in Gesprächen und Erzählstrukturen aufzeigen.</p> <p>Wir werden versuchen, die soziolinguistisch interessanten Textpassagen zu besprechen und Beispiele zu suchen, die wir ganz einfach linguistisch analysieren und interpretieren.</p> <p>Wichtig sind Motivation, aktives Arbeiten und Lust auf Teamarbeit.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung des Semesters 2. Einführung in den Text 1 3. Kapitel 1 4. Fortsetzung Kapitel 1 5. Fortsetzung Kapitel 1 6. Kapitel 2 7. Fortsetzung Kapitel 2 8. Fortsetzung Kapitel 2 9. Kapitel 3 10. Fortsetzung Kapitel 3 11. Fortsetzung Kapitel 3 12. Zusammenfassung 13. Besprechung Text 2 14. Lektüre Text 2 15. Zusammenfassung des Semesters 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	テスト 50%、授業への参加度 50%.		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ <u>思想</u> ） a	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs gibt einen Überblick über das Werk verschiedener Philosophen und die Zeit, in der sie gelebt haben. Insbesondere werden wir uns mit Fragen des menschlichen <i>Seins</i>, der Ethik und Moral sowie der Religion wie z.B.: "Gibt es einen Gott?" oder "Gibt es Gut und Böse?" beschäftigen.</p> <p>Gemeinsam lesen wir kurze und mittellange Texte und sprechen im Anschluss daran über das Gelesene, diskutieren bzw. denken gemeinsam darüber nach, wie es uns heutzutage noch eine Hilfe sein kann. Insgesamt steht neben der Lektüre vor allem das gemeinsame Sprechen über die Texte im Mittelpunkt.</p> <p>Über das Semester verteilt wird es verschiedene kleinere Hausaufgaben wie z.B. das Vorbereiten von Texten für den Unterricht oder auch Rechercheaufgaben geben.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientierungssitzung 2. Was ist Philosophie? 3. Gottfried Wilhelm Leibniz und seine Zeit (1) 4. Gottfried Wilhelm Leibniz und seine Zeit (2) 5. Gottfried Wilhelm Leibniz und seine Zeit (3) 6. Immanuel Kant: Aufklärung und Wendepunkt (1) 7. Immanuel Kant: Aufklärung und Wendepunkt (2) 8. Immanuel Kant: Aufklärung und Wendepunkt (3) 9. Hegel und der deutsche Idealismus (1) 10. Hegel und der deutsche Idealismus (2) 11. Hegel und der deutsche Idealismus (3) 12. Die Welt Ludwig Feuerbachs (1) 13. Die Welt Ludwig Feuerbachs (2) 14. Die Welt Ludwig Feuerbachs (3) 15. Abschlussitzung 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die im Unterricht gelesenen Texte sind zu Hause samt Vokabular nachzubereiten – in Einzelfällen sind auch Texte vorzubereiten. Ferner werden vereinzelt Fragen zu den Texten als Hausaufgabe zu lösen sein, die in der darauffolgenden Stunde besprochen werden.		
テキスト、参考文献	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	Aktive Mitarbeit UND eine Präsentation (Gruppenpräsentation möglich) ODER mehrere kleinere schriftl. Hausaufgaben ODER eine größere schriftl. Hausarbeit		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) a	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit Sprache – aus der Perspektive verschiedener Fragen, z. B.: Was ist der Zusammenhang zwischen Sprache und Denken? Denken Menschen, die unterschiedliche Sprachen sprechen, anders? Wie lernen wir unsere Muttersprache? Und wie lernen wir Fremdsprachen? Warum verschwinden Sprachen? Und kann man sie retten? Wie sprechen die Menschen in den verschiedenen Regionen und gesellschaftlichen Gruppen im deutschsprachigen Raum? Zu diesen Fragen lernen Sie Antworten kennen. Gleichzeitig lernen Sie, Hauptaussagen und Standpunkte in deutschsprachigen Texten zu Sprache zu verstehen, darüber zu berichten und zu diskutieren. Wir lesen in diesem Kurs kurze und mittellange Texte in Paaren/Teams. Oft werden wir die Texte aufteilen und uns berichten, was wir gelesen haben, so dass es auch viel Gelegenheit zum Sprechen gibt.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Frühkindlicher Spracherwerb (1) 3. Frühkindlicher Spracherwerb (2) 4. Frühkindlicher Spracherwerb (3) 5. Frühkindlicher Spracherwerb (4) 6. Fremdsprachenlernen (1) 7. Fremdsprachenlernen (2) 8. Fremdsprachenlernen (3) 9. Fremdsprachenlernen (4) 10. Sprache und Denken (1) 11. Sprache und Denken (2) 12. Sprache und Denken (3) 13. Sprache und Denken (4) 14. Sprache und Denken (5) 15. Abschlusstest, Kursfazit 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Jede Stunde gibt es eine Hausaufgabe: Sie bereiten eine Mini-Präsentation eines Textes vor, schreiben Wortschatz heraus und/oder lernen Wortschatz zum aktuellen Thema.		
テキスト、参考文献	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	Aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, Minitests, Abschlusstest.		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit Sprache – aus der Perspektive verschiedener Fragen, z. B.: Was ist der Zusammenhang zwischen Sprache und Denken? Denken Menschen, die unterschiedliche Sprachen sprechen, anders? Wie lernen wir unsere Muttersprache? Und wie lernen wir Fremdsprachen? Warum verschwinden Sprachen? Und kann man sie retten? Wie sprechen die Menschen in den verschiedenen Regionen und gesellschaftlichen Gruppen im deutschsprachigen Raum? Zu diesen Fragen lernen Sie Antworten kennen. Gleichzeitig lernen Sie, Hauptaussagen und Standpunkte in deutschsprachigen Texten zu Sprache zu verstehen, darüber zu berichten und zu diskutieren. Wir lesen in diesem Kurs kurze und mittellange Texte in Paaren/Teams. Oft werden wir die Texte aufteilen und uns berichten, was wir gelesen haben, so dass es auch viel Gelegenheit zum Sprechen gibt.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Sprachenvielfalt (1) 3. Sprachenvielfalt (2) 4. Sprachenvielfalt (3) 5. Mehrsprachigkeit (1) 6. Mehrsprachigkeit (2) 7. Mehrsprachigkeit (3) 8. Mehrsprachigkeit (4) 9. Mehrsprachigkeit (5) 10. Regional- und Minderheitensprachen (1) 11. Regional- und Minderheitensprachen (2) 12. Regional- und Minderheitensprachen (3) 13. Regional- und Minderheitensprachen (4) 14. Regional- und Minderheitensprachen (5) 15. Abschlusstest, Kursfazit 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Jede Stunde gibt es eine Hausaufgabe: Sie bereiten eine Mini-Präsentation eines Textes vor, schreiben Wortschatz heraus und/oder lernen Wortschatz zum aktuellen Thema.		
テキスト、参考文献	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	Aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, Minitests, Abschlusstest.		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ <u>思想</u> ） a（火3）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（思想）「存在」とは何か？（火3） 西洋哲学は、「存在するのは何か？」という問いで始まるといわれる。私たちは日常的に「机がある」「山がある」「私がいる」という。こうした個々のものは、あるときこの世に現れたのであり、いつかは消滅する。それらの生成と消滅の根源となる存在は何か？ これは、20世紀前半のドイツ哲学を代表したヤスパース（Karl Jaspers, 1883-1969）の思索の根本問題だ。この思想家が1953年に著した„Einführung in die Philosophie“（『哲学入門』）の第3章„Das Umgreifende“（「包括するもの」）を精読して、「存在」について考えよう。文法的にも論理的にも精確な分析と論旨の把握に重点を置いて精読すれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。そのために、最初の数週間で文章ドイツ語読解のために開発された高橋文法を習得する。また、ドイツ語自体の理解を妨げる訳読はしない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章ドイツ語読解のための文法 1 2. 文章ドイツ語読解のための文法 2 3. 文章ドイツ語読解のための文法 3 4. 文章ドイツ語読解のための文法 4 5. 存在への問い 1 6. 存在への問い 2 7. 存在への問いに対する多様な答え 1 8. 存在への問いに対する多様な答え 2 9. 主体と客体との分裂 1 10. 主体と客体との分裂 2 11. 主体と客体との分裂 3 12. 包括するもの 1 13. 包括するもの 2 14. 包括するもの 3 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】 毎回講読する箇所の精読。 【事後学習】 毎回の授業の翌日 24:00 までに復習のリアクションメールを担当教員に送信する。		
テキスト、参考文献	【テキスト】 プリントを配付する。【参考文献】 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003（¥1,600）；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版（白水社）2003（¥1,600）		
評価方法	毎回送信のリアクションメールで評価（50%）、それに2回の小テストの成績（30%）と文法習得用宿題（20%）を合わせて総合的に評価する。なお、リアクションメール提出が10回未満は不合格となる。		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ <u>思想</u> ） b（火3）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（思想）「世界」の存在を考える（火3） 私たちは「現世」という「世界」に生きている。私たちがこの「世界」で遭遇するものや出来事を「現実」という。その現実の世界について確かな知を提供するのが科学だ。こう考える私たちの「科学的世界像」は現実ではないとの指摘は20世紀後半以来、有力になった。この疑問に精神病理学を専門とする科学者にして20世紀前半のドイツ哲学を代表したヤスパース（Karl Jaspers, 1883-1969）はどう答えるのか？ この思想家が1953年に著した„Einführung in die Philosophie“（『哲学入門』）の第7章„Die Welt“（「世界」）を精読して、探ってみよう。文法的にも論理的にも精確な分析と論旨の把握に重点を置いて精読すれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。最初の数週間で文章ドイツ語読解のために開発された高橋文法を習得する。ドイツ語自体の理解を妨げる訳読はしない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章ドイツ語読解のための文法 1 2. 文章ドイツ語読解のための文法 2 3. 文章ドイツ語読解のための文法 3 4. 文章ドイツ語読解のための文法 4 5. 「現実」とは何か 1 6. 「現実」とは何か 2 7. 「現実」についての科学的知 8. 「現実」と世界像 9. 既成の世界像を否定する科学 1 10. 既成の世界像を否定する科学 2 11. 既成の世界像を否定する科学 3 12. 解釈としての世界像 1 13. 解釈としての世界像 2 14. 解釈としての世界像 3 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】 毎回講読する箇所の精読。 【事後学習】 毎回の授業の翌日 24:00 までに復習のリアクションメールを担当教員に送信する。		
テキスト、参考文献	【テキスト】 プリントを配付する。【参考文献】 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003（¥1,600）；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版（白水社）2003（¥1,600）		
評価方法	毎回送信のリアクションメールで評価（50%）、それに2回の小テストの成績（30%）と文法習得用宿題（20%）を合わせて総合的に評価する。なお、リアクションメール提出が10回未満は不合格となる。		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） a（水2）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（文学）近代ドイツの名詩を読む（水2）</p> <p>ドイツ語の詩には、ドイツ語の特徴が凝集しているから「ドイツ詩を読まずして、ドイツ語を習ったというべからず」と心得るべきだ。その独特のリズムや母音と子音の響きから、具象的なイメージに抽象的な概念、それらをつなぐさまざまな比喩的表現や修辞、文法的構造が合わさって、詩はすばらしい言語の世界なのだ。原文のドイツ語の文法的分析もふくめて、その言語世界を読み解こう。そうすれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語を読み解く楽しさも分かるだろう。</p> <p>まずは、最初の数週間で文章ドイツ語読解のために開発された高橋文法を習得する。次にドイツ近代詩の黄金時代（18世紀後半から19世紀初頭）を代表する大詩人ゲーテ（Johann Wolfgang Goethe, 1749-1832）とヘルダーリン（Friedrich Hölderlin, 1770-1843）の作品をいくつか読めば、「ドイツ語を習った」と言えるようになるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章ドイツ語読解のための文法 1 2. 文章ドイツ語読解のための文法 2 3. 文章ドイツ語読解のための文法 3 4. 文章ドイツ語読解のための文法 4 5. Goethe 1 6. Goethe 2 7. Goethe 3 8. Goethe 4 9. Goethe 5 10. Hölderlin 1 11. Hölderlin 2 12. Hölderlin 3 13. Hölderlin 4 14. Hölderlin 5 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】 毎回講読する箇所の精読。 【事後学習】 毎回の授業の翌日 24:00 までに復習のリアクションメールを担当教員に送信する。		
テキスト、参考文献	【テキスト】 プリントを配付する。【参考文献】 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003（¥1,600）；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版（白水社）2003（¥1,600）		
評価方法	毎回送信のリアクションメールで評価（50%）、それに2回の小テストの成績（30%）と文法習得用宿題（20%）を合わせて総合的に評価する。なお、リアクションメール提出が10回未満は不合格となる。		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） b（水2）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（文学）『枕草子』のドイツ語訳を読む（水2）</p> <p>日本最初の随筆文学とされる『枕草子』は、日本文学の古典中の古典だ。平安中期に成立したこの作品には、日常生活や四季の自然を観察し、草木鳥虫や歌枕を記した「ものづくし」、宮廷社会を振り返った回想など、ドイツ語にはない事物や心情、ものの見方、感じ方、考え方が名文で綴られている。それらはドイツ語の世界でどのように理解され、どのように表されるのだろうか？ この点に着目して、Helmut Bode 版の„Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon“（1975）から昨年度とは異なる名場面を読み、日本語の原文とも比較対照しよう。日本語とドイツ語との間に必然的に生じる意味のずれに気づくためにも、訳読はしない。「学習用ドイツ語」ではない本物のドイツ語を文法的にも意味的にも精確に分析することで、ドイツ語そのものの理解を目指す。最初の数週間で文章ドイツ語読解のために開発された高橋文法を習得してから、読解に入る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章ドイツ語読解のための文法 1 2. 文章ドイツ語読解のための文法 2 3. 文章ドイツ語読解のための文法 3 4. 文章ドイツ語読解のための文法 4 5. März 1 6. März 2 7. März 3 8. Vogel 1 9. Vogel 2 10. Ärgerliche Dinge 1 11. Ärgerliche Dinge 2 12. Ärgerliche Dinge 3 13. Ärgerliche Dinge 4 14. Ärgerliche Dinge 5 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】 毎回講読する箇所の精読。 【事後学習】 毎回の授業の翌日 24:00 までに復習のリアクションメールを担当教員に送信する。		
テキスト、参考文献	【テキスト】 プリントを配付する。【参考文献】 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003（¥1,600）；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版（白水社）2003（¥1,600）		
評価方法	毎回送信のリアクションメールで評価（50%）、それに2回の小テストの成績（30%）と文法習得用宿題（20%）を合わせて総合的に評価する。なお、リアクションメール提出が10回未満は不合格となる。		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) a	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、ドイツ語の基礎を習得した学生を対象に Kolumne, Nachricht, Kommentar ,Glosseなどのジャーナリスティックなテキストの特徴の分析を通してテキストタイプに応じた読解技術を紹介しします。</p> <p>それぞれのタイプの特徴を備えたテキストを講読しながら、テーマの扱い方、テキストの構造、文体などを分析していきます。練習を通してドイツ語のテキストへのアプローチ方法を改善し、より深く理解できるようになることを目指します。</p> <p>課題テキストを数名のグループで分析し、結果を発表するグループワークを中心に授業を進めていく予定です。責任を持って課題をやる、意欲のある学生の参加を求めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方と課題について 2. テキストの特徴(1)－ニュース 3. テキストの特徴(2)－コラム 4. テキストの特徴(3)－コメント 5. テキストの特徴(4)－寸評 6. 課題の発表 (1) 7. 課題へのコメント (1) 8. 課題の発表 (2) 9. 課題へのコメント(2) 10. 課題の発表 (3) 11. 課題へのコメント (3) 12. 課題の発表 (4) 13. 課題へのコメント (4) 14. 分析結果の活用法 15. 春学期のまとめと目標達成の評価 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の準備として課題テキストを読み、語彙などの下調べをしておく。授業後は情報を活用できるように整理する。		
テキスト、参考文献	教材はプリントで配布します。参考文献は授業の中で紹介していきます。		
評価方法	課題発表による授業への参加(50%)と目標達成(25%)、学期末時点でのドイツ語力(25%)で評価します。		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は春学期に続いて、主にジャーナリスティックなテキストタイプの講読と分析を行います。代表的なタイプの講読を通して、タイプごとの文体的特徴を理解し、より深い解釈へつなげられるようにします。</p> <p>秋学期もグループワークを中心に授業を進めていくので、責任を持って授業に参加する学生を希望します。取り上げるテキストのテーマは春学期とは異なるので、継続的に履修して、読解技術の定着を図ることも可能です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方と課題について 2. テキストの特徴(1)－ニュース 3. テキストの特徴(2)－コラム 4. テキストの特徴(3)－コメント 5. テキストの特徴(4)－寸評 6. 課題の発表 (1) 7. 課題へのコメント (1) 8. 課題の発表 (2) 9. 課題へのコメント(2) 10. 課題の発表 (3) 11. 課題へのコメント (3) 12. 課題の発表 (4) 13. 課題へのコメント (4) 14. 分析結果の活用法 15. 秋学期のまとめと目標達成の評価 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の準備として課題テキストを読み、語彙などの下調べをしておく。授業後は情報を活用できるように整理する。		
テキスト、参考文献	教材はプリントで配布します。参考文献は授業の中で紹介していきます。		
評価方法	課題発表による授業への参加(50%)と目標達成(25%)、学期末時点でのドイツ語力(25%)で評価します。		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） a	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日独で作品を発表している多和田葉子さん(1960-)。『雪の練習生』(2011)で64回野間文芸賞を受けた際、「この小説は、そのままドイツ語にするのは不可能」と語っていましたが、ご本人による翻訳で読みます。</p> <p>その力業の痕を辿ることで、日本語とドイツ語の差が浮き彫りになります。読解力を涵養し、双方の表現力を高める機会になればと思います。</p> <p>今学期は、第1章「祖母の退化論」を扱います。</p> <p>省略と追加、能動態と受動態、接続詞、副文の主文化、擬音・擬態語、受動態と能動態、語法の助動詞、間接話法と直接話法など、文法的な面に注目することになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Das erste Kapitel : Evolutionstheorie der Großmutter (I) 3. wie oben (II) 4. wie oben (III) 5. wie oben (IV) 6. wie oben (V) 7. wie oben (VI) 8. wie oben (VII) 9. wie oben (VIII) 10. wie oben (IX) 11. wie oben (X) 12. wie oben (XI) 13. wie oben (XII) 14. wie oben (XIII) 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	原作を通読し、ドイツ語訳の指定箇所を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	Yoko TAWADA: "Etüden im Schnee" (konkursbuch) 2014 (コピーを配布) 多和田葉子『雪の練習生』(新潮文庫)		
評価方法	定期試験 50% 平常点 30% レポート 20%		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） b	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Franz Kafkaの"Die Verwandlung"(1915)を、多和田葉子さんの訳を参考にしながら読みます。「ドイツ語でカフカを読むのは本当に楽しい。しかしそれを日本語にどう訳すのかと考えた途端に、楽しみは苦しみに変わる」とは、ご本人の弁。苦心の翻訳を通して、読解力を涵養し、ドイツ語のみならず、日本語の表現力を磨く機会にしてもらえればと思います。</p> <p>春学期同様、文法的な面に注目します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Die Verwandlung (I) 3. wie oben (II) 4. wie oben (III) 5. wie oben (IV) 6. wie oben (V) 7. wie oben (VI) 8. wie oben (VII) 9. wie oben (VIII) 10. wie oben (IX) 11. wie oben (X) 12. wie oben (XI) 13. wie oben (XII) 14. wie oben (XIII) 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	多和田訳を通読し、原作の指定箇所は事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	Franz KAFKA: "Die Verwandlung" (コピーを配布) 集英社文庫ヘリテージシリーズ第1巻『カフカ』(多和田葉子編)		
評価方法	定期試験 50% 平常点 30% レポート 20%		

09年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 a	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p>講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン派時代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ルネサンス・宗教改革期① 3 同② 4 同③ 5 三十年戦争・バロック期① 6 同 ② 7 同 ③ 8 啓蒙主義時代① 9 同② 10 同③ 11 ロマン派時代① 12 同② 13 同③ 14 グリムのメルヒェン 15 まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の芸術・文化に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じ、その都度指示する。		
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%。詳細は授業中に指示する。		

09年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 b	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p>講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 秋学期は、19世紀後半から現代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 19世紀後半① 3 同② 4 世紀転換期① 5 同② 6 モダニズム① 7 同② 8 ヴァイマル文化① 9 同② 10 ナチズムと芸術① 11 同② 12 同③ 13 現代へ：新たな芸術の展開① 14 同② 15 まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の芸術・文化に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じ、その都度指示する。		
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%。詳細は授業中に指示する。		

09年度以降	ドイツ語圏の美術 a	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏で制作された芸術を大きな西洋美術史の流れの中に位置づけて理解するのが、本講義の目的である。</p> <p>春学期は1000年に亘る西欧中世の美術を扱い、中でも彫刻作品に焦点をあてて、その芸術のプリンシプルを明らかにする。</p> <p>西欧の彫刻芸術は古代末期から15世紀までの間にどのように展開したのか。古代美術は中世美術にどのような影響を与え、キリスト教美術において彫刻作品がどのように受容されて復活してゆくのかを明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. キリスト教と彫刻 3. 初期キリスト教時代の彫刻を取り巻く状況 4. 古代末期彫刻の変貌 5. 中世への古代末期彫刻の遺産① 6. 中世への古代末期彫刻の遺産② 7. 中世への古代末期彫刻の遺産③ 8. ロマネスクのモニュメンタル彫刻① 9. ロマネスクのモニュメンタル彫刻② 10. ゴシックのモニュメンタル彫刻① 11. ゴシックのモニュメンタル彫刻② 12. 後期ゴシック彫刻と祭壇画 13. クラウス・スリュートル① 14. クラウス・スリュートル② 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の美術に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に配布する参考文献の資料に事前に目を通すことが求められることがある。また授業で課す課題の提出を求めることがある。		
テキスト、参考文献	越宏一『ヨーロッパ美術史講義 中世彫刻の世界』 岩波セミナーブックス 2009年		
評価方法	学期末に行う筆記試験に基づき評価を行う。		

09年度以降	ドイツ語圏の美術 b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏で制作された芸術を大きな西洋美術史の流れの中に位置づけて理解するのが、本講義の目的である。</p> <p>秋学期は15世紀から16世紀にかけてドイツで活躍した画家・版画家であるアルブレヒト・デューラー(1471-1528年)とルーカス・クラナハ(父)(1472-1553年)に焦点をあてる。両者の芸術を比較することで、ドイツ・ルネサンスの絵画芸術の特質について掘り下げて考察する。はじめに各作家の全体像を大きく把握した後に、主題別に両者の作品を比較してゆくことで、を通じて両者の異なる造形原理ならびに成立背景について明らかにしてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. アルブレヒト・デューラーの芸術① 3. アルブレヒト・デューラーの芸術② 4. アルブレヒト・デューラーの芸術③ 5. ルーカス・クラナハの芸術① 6. ルーカス・クラナハの芸術② 7. ルーカス・クラナハの芸術③ 8. 『アダムとイブ』① 9. 『アダムとイブ』② 10. 『肖像画』① 11. 『肖像画』② 12. 『メランコリー』 13. 『非キリスト教主題』① 14. 『非キリスト教主題』② 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の美術に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に配布する参考文献の資料に事前に目を通すことが求められることがある。また授業で課す課題の提出を求めることがある。		
テキスト、参考文献	適宜授業中に紹介する。		
評価方法	学期末に行う筆記試験に基づき評価を行う。		

09年度以降	ドイツ語圏の音楽 a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。（音楽理論の予備知識は特になくても大丈夫です。）</p> <p>春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品をとりあげます。普段耳にする機会の少ない作品もあるかも知れませんが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。</p> <p>◇注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16 世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17 世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J. S. バッハの生涯と器楽作品 8. J. S. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽 10. テレマンと前古典派の音楽 11. J. ハイドンの音楽 12. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品 13. W. A. モーツァルトの声楽作品 14. 授業内試験 15. まとめ <p>*変更する場合もあります</p>	
到達目標	ドイツ語圏の音楽史を概観し、ドイツ語圏の音楽に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	ドイツ語圏の音楽 b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。</p> <p>秋学期には、18 世紀終わり頃から現在までに書かれた音楽を、主に「作曲家とその作品」という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等についても理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。</p> <p>◇注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ベートーヴェン（1） 2. ベートーヴェン（2） 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン 5. シューマン 6. リスト 7. ヴァーグナーとブラームス 8. 19 世紀終わりのドイツ語圏の音楽 9. 20 世紀のドイツ語圏の音楽 10. ドイツ語圏の国歌 11. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 12. ドイツ語圏の民謡、ポップス 13. 授業内試験 14. 復習 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の音楽史を概観し、ドイツ語圏の音楽に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	ドイツ語圏の演劇 a	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の演劇というと、日本でその舞台を見る機会はほとんどなく、DVDの類も数少ないのが現状です。こうした理由から、舞台と重なり合うところの多い映画を取り上げて、その構成、演技などを取り上げながら、「劇的なもの」あるいは「ストーリー性」に関して、実際の映像を見ながら考えていこうと思います。</p> <p>春学期には、映画の出現からトーキーの誕生までを歴史的に追うために、6～8本程度の短めの映画を見ていきます。大事なことは、それを見て考えることです。見たあとで積極的に発言してください。また、数本見るたびにレポートを出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の概要と進め方 2. 映画の誕生 — ムービーとは？ 3. 劇的な性格（ストーリー性）の獲得 4. 初期の映画の特徴（1） 5. 初期の映画の特徴（2） 6. 初期の映画の特徴（3） 7. 初期の映画の特徴（1） 8. 初期の映画の特徴（2） 9. 初期の映画の特徴（3） 10. 初期の映画の特徴（4） 11. トーキー登場 12. トーキー作品（1） 13. トーキー作品（2） 14. トーキー作品（3） 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の演劇に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前もって課題を与え、交代で授業の冒頭で短く報告してもらう。		
テキスト、参考文献	その都度、指示する		
評価方法	授業冒頭での「宿題」の発表、および学期中に提出してもらう2～3回のレポートで評価する		

09年度以降	ドイツ語圏の演劇 b	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ趣旨で実施するが、対象分野を変え、近年のドイツ映画を取り上げる。映画は、意図してるかどうかにかかわらず、その社会の多くの側面を映像として切り取っている。映画を通して見えてくる、ある社会の日常、社会意識、文化が示される点に注意を払いたい。また、映画はそれ自身を対象として、実験的な性格を持つことも可能であるし、構成上の実験をする場合もある。さほど目に立たなくとも、どのような課題を自分に課し、どのように課題に答えていくかにも目を向けたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 — 映画はなにを見せてくれるか 2. 戦後映画のはじまり（1） 3. 戦後映画のはじまり（2） 4. 戦後映画のはじまり（3） 5. 新たな動き（1） 6. 新たな動き（2） 7. 新たな動き（3） 8. 中間まとめ 9. 現代の映画（1—1） 10. 現代の映画（1—2） 11. 現代の映画（2—1） 12. 現代の映画（2—2） 13. 現代の映画（3—1） 14. 現代の映画（3—2） 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の演劇に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前もって課題を与え、交代で授業の冒頭で短く報告してもらう。		
テキスト、参考文献	その都度、指示する		
評価方法	授業冒頭での「宿題」の発表、および学期中に提出してもらう2～3回のレポートで評価する		

09年度以降	ドイツ語圏のメディア文化 a	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><国家ブランディング競争の時代> 近年、国家の「ブランディング」競争がますます激しさを増している—そんな点にみなさんは注目したことがあるでしょうか？ この講義では、さまざまな国際紛争や外交問題の背景に“国家をブランディングする”という視点と競争があるということ考察していきます。 今日、グローバル化により国家間の境目が低くなったかのように見える一方で、それぞれの国家のブランディング戦略とアイデンティティ形成は、ヒト・モノ・情報の移動が加速化、グローバル化するにつれ、ますます先鋭化・緻密化されています。各国の用いる手法・政策にはそれぞれに特徴がありますが、その手法の違いには、各国の政治文化や文化へのまなざしが反映されています。ニュースや国際イベントを1つの「メディア」としてとらえ、近隣国の事例を参照しつつ、ドイツを中心に考察していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. 国際社会における戦後「ドイツ」の位置づけ 3. 戦後ドイツにおける文化と政治① 4. 戦後ドイツにおける文化と政治② 5. パブリックディプロマシーの時代① 6. パブリックディプロマシーの時代② 7. ドイツの対外文化政策① 8. ドイツの対外文化政策② 9. フランスの対外文化政策① 10. フランスの対外文化政策② 11. 英国の対外文化政策① 12. 日本の国際交流① 13. 日本の国際交流② 14. 講義のまとめ 15. 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏のメディア文化に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に関連する参考文献や新聞記事などを読み、授業で理解を深めてください。授業後には、授業資料などで復習をし、学習したことを定着させ、自らテーマについて考えを深めてください。		
テキスト、参考文献	伊藤 裕夫・藤井 慎太郎（編）『芸術と環境—劇場制度・国際交流・文化政策』論創社、2012年		
評価方法	学期末の試験（80％）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20％）も評価対象となります。		

09年度以降	ドイツ語圏のメディア文化 b	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><映画を通してドイツ社会を「読む」> この講義では、映画を通してドイツ語圏の歴史的事象を分析することを目的とします。歴史を扱った映画作品は、<歴史>そのものではないし、芸術家の<想像力>のみの賜物でもありません。制作された時代の<制度>=思想、経済、政策の枠組みの中で作り出されるものです。それゆえに、作品の背景を知ることが、その作品を生み出したドイツの社会を読み解くひとつの手がかりとなります。 講義でとりあげる作品には、比較的良好に知られたドイツの歴史的事象や社会事情が描かれています。映画作品をメインに考察しつつも、文献資料などで情報を補っていくので、作品に描かれている美学化された「歴史」や「現代社会」を“疑って”みてください。作品を楽しみつつも、映像メディアを通してドイツ社会を「読む」ための方法を考えていきましょう。 ※ゼミの専攻では春・秋学期にこの講義を履修済みかどうかも考慮の対象になります。 ※春学期・秋学期ともに、受講者の関心によって、内容や順番を変更する可能性もあります。 ※両学期ともに、ドイツ語圏の歴史に関する事前知識は必要としません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. イメージの政治 3. 文化の政治性① 4. 文化の政治性② 5. 好ましいナチス？ ① 6. 好ましいナチス？ ② 7. “娯楽”化し、消費される負の歴史遺産 8. 学生運動からテロへ 9. 監視国家—東西ドイツの心の壁① 10. 監視国家—東西ドイツの心の壁② 11. 現代ドイツにおける多文化共生 12. 近代国家としてのドイツの成立と「文化国家ドイツ」の歪み① 13. 近代国家としてのドイツの成立と「文化国家ドイツ」の歪み② 14. 講義のまとめ 15. 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏のメディア文化に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に関連する文献を読み、授業で理解を深める準備をしてください。授業後には配布資料で復習をし、学習したことを定着させ、自らテーマについて考えを深めてください。		
テキスト、参考文献	授業時にプリントを配布します。		
評価方法	学期末の試験（80％）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20％）も評価対象となります。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Auf Anregung mehrerer StudentInnen möchte ich in diesem Unterricht Texte aus der Bibel, d.h. aus dem Alten Testament lesen.</p> <p>Kenntnisse der wichtigsten Episoden und Geschichten der Bibel sind unabdingbare Voraussetzung zum Verständnis zahlloser Werke der europäischen Kultur, auf dem Gebiet der Bildenden Kunst, der Musik, der Literatur.</p> <p>Die Texte werden in Absprache mit den TeilnehmerInnen festgelegt. Eine mögliche Auswahl ist:</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Genesis, Erschaffung der Welt 2. Adam und Eva 3. Kain und Abel 4. Noah 5. Noah 6. Der Turmbau zu Babel 7. Lot 8. Abrahams Opfer 9. Josef und seine Brüder 10. Josef und seine Brüder 11. Moses 12. Moses 13. Die ägyptischen Plagen 14. Auszug aus Ägypten 15. Jona 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitende Lektüre der Texte, schriftliche Zusammenfassungen, Recherche typischer Kunstwerke, Musikstücke etc. zu einzelnen Bibeltexten. (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Vorbereitung, Aufgaben, Tests		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Wintersemester wird die Lektüre der Bibel mit Texten aus dem Neuen Testament fortgesetzt.</p> <p>Die Texte werden in Absprache mit den TeilnehmerInnen festgelegt. Eine mögliche Auswahl ist:</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Verkündigung 2. Geburt von Jesus 3. Die Sterndeuter aus dem Morgenland 4. Flucht nach Ägypten 5. Taufe im Jordan 6. Die ersten Jünger 7. Bergpredigt 8. Hochzeit in Kana 9. Gleichnisse 10. Wunderbare Brotvermehrung 11. Einzug in Jerusalem 12. Verrat 13. Ölberg 14. Tod am Kreuz 15. Auferstehung 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitende Lektüre der Texte, schriftliche Zusammenfassungen, Recherche typischer Kunstwerke, Musikstücke etc. zu einzelnen Bibeltexten. (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Vorbereitung, Aufgaben, Tests		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の絵画作品に関する最新の文献を読みながら、ドイツ語を学ぶと同時に、ドイツ語圏の文化・芸術について深く知ることを目的とする。</p> <p>テキストはドイツ・ルネサンスを代表するルーカス・クラナハ（父）の作品カタログ（2015年）を用いることで、ドイツ語で絵画作品の解説を読みこなす訓練を行う。ドイツ語のテキストを読む練習と同時に、一つの絵画作品について深く知ることができるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 訳出と文法説明。作品解説。 3. 訳出と文法説明。作品解説。 4. 訳出と文法説明。作品解説。 5. 訳出と文法説明。作品解説。 6. 訳出と文法説明。作品解説。 7. 訳出と文法説明。作品解説。 8. 訳出と文法説明。作品解説。 9. 訳出と文法説明。作品解説。 10. 訳出と文法説明。作品解説。 11. 訳出と文法説明。作品解説。 12. 訳出と文法説明。作品解説。 13. 訳出と文法説明。作品解説。 14. 訳出と文法説明。作品解説。 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。また授業中に指示された課題を解いて、提出することを求めることがある。		
テキスト、参考文献	Anne-Marie Bonnet, Daniel Görres: <i>Lucas Cranach d. Ä. Maler der deutschen Renaissance</i> Schirmer/Mosel, 2015		
評価方法	学期末の筆記試験ならびに平常点に基づき評価を行う。評価の内訳・割合は初回の授業で説明する。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的①ドイツ語のテキストを「読む」ということの意味を考える。 ②ドイツの「音楽」「民謡」「美術」について、日本と比較しつつ考察する。 ③言語的表現法に習熟する。</p> <p>講義概要： ドイツ語圏の音楽、美術などの芸術一般について、その成立から展開、そして現代までの歴史を概観することは決して簡単ではありません。しかし、基礎知識として、流れを捉えておくことは、ドイツ語圏の社会や歴史を学んでいく上でも重要な要素です。 このテキスト研究では、ドイツ語圏の芸術・文化を、専門としての視点からではなく、入門、つまり素人の目で追っていきたいと考えています。その際に重要なのは、日本の芸術・文化へも目を向けることです。 授業では皆さんに担当部分を割り当て、発表形式で進めていきます。その上で毎回ポイントとなる項目だけでなく、関連項目についても調べた上で発表をしていただきます。またインターネットなども大いに活用してほしいと考えています。積極的な学生諸君の参加を望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「テキスト研究」とは何か。授業内容、進め方について。担当分担。 2. Musik 3. Musik 4. Musik 5. Musik 6. das deutsche Volkslied 7. das deutsche Volkslied 8. Kunst I. Mittelalter 9. Kunst I. Mittelalter 10. Kunst II. Neuzeit 11. Kunst II. Neuzeit 12. Kunst II. Neuzeit 13. Kunst III. Moderne 14. Kunst III. Moderne 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Heinz Fischer:Deutsche Kultur -Eine Einführung- VI. Musik, das deutsche Volkslied, Kunst (高辻知義 (編)『ドイツの音楽と美術』同学社 1983年)		
テキスト、参考文献	指定されたテキストを事前に精読して、疑問点をまとめ、また関連項目については十分な下調べを行ってください。授業後には、テキストの内容を復習し、何を学んだかまとめてください。		
評価方法	毎回の授業参加度 20%、定例で行う小テスト 20%、秋学期末総合テスト 60%。授業は全出席を基本とし、3回を超す欠席があった場合は、指定された課題について口頭発表を課します。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>2016年度は、L.v. ベートーヴェン（1770～1827）に焦点をあて、生涯と作品などに関する文章を読んでいきたいと思ひます。また、文の内容に関連した音楽 CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。</p> <p>◇注意事項：毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。文献には音楽の専門用語等が出てくる場合もあります。予め了解しておいてください。ドイツ語の書籍やHPから生の文章をとり出してきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって授業に積極的に参加することのできる学生の受講を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ベートーヴェンについて *初回の授業で分担等を決めたいと思ひますので、受講予定者は必ず出席してください。（やむをえず欠席する場合は、メール連絡を。） 2. ベートーヴェンの生涯と作品（1） 3. ベートーヴェンの生涯と作品（2） 4. ベートーヴェンの生涯と作品（3） 5. ベートーヴェンの生涯と作品（4） 6. ベートーヴェンの生涯と作品（5） 7. ベートーヴェンの生涯と作品（6） 8. ベートーヴェンの生涯と作品（7） 9. ベートーヴェンの生涯と作品（8） 10. 現代におけるベートーヴェン（1） 11. 現代におけるベートーヴェン（2） 12. 現代におけるベートーヴェン（3） 13. 現代におけるベートーヴェン（4） 14. 授業内試験 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の予習・復習やテキストの内容に関する調査		
テキスト、参考文献	テキストはコピーで配布します。辞書は小学館の『独和大辞典』を用いてください。		
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a（水3）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代ドイツのバロック庭園文化（水3） 豪華なバロック宮殿に不可欠なのが左右対称で幾何学的構図を特徴とするバロック庭園，別名フランス式庭園だ。ザクセン選帝侯のアウグスト強王（August der Starke, 1670-1733）は，フランスの太陽王ルイ14世（1638～1715）のヴェルサイユ宮殿に比肩する規模の宮殿と庭園をもってその権勢を誇示しようと，ドレーズデンにツヴィンガー宮殿を計画した。その図版も用いてバロック庭園を説明するドイツ語を Marie Luise Cotheinの„Geschichte der Gartenkunst“（1926）で学ぼう。文章ドイツ語の文法構造と意味を精確に把握するためにも，最初の数週間で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続くテキスト読解にあたっては，日本語とドイツ語における意味のずれに着目するので，そのずれを隠蔽する訳読はしない。そうすれば，「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章ドイツ語読解のための文法 1 2. 文章ドイツ語読解のための文法 2 3. 文章ドイツ語読解のための文法 3 4. 文章ドイツ語読解のための文法 4 5. アウグスト強王とバロック様式の庭園 1 6. アウグスト強王とバロック様式の庭園 2 7. アウグスト強王とバロック様式の庭園 3 8. アウグスト強王とバロック様式の庭園 4 9. ツヴィンガー宮殿の庭園 1 10. ツヴィンガー宮殿の庭園 2 11. ツヴィンガー宮殿の庭園 3 12. ツヴィンガー宮殿の庭園 4 13. ドレーズデンの日本宮殿 1 14. ドレーズデンの日本宮殿 2 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】 毎回講読する箇所の精読。 【事後学習】 毎回の授業の翌日 24:00 までに復習のリアクションメールを担当教員に送信する。		
テキスト、参考文献	【テキスト】 プリントを配付する。【参考文献】 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003（¥1,600）；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版（白水社）2003（¥1,600）		
評価方法	毎回送信のリアクションメールで評価（50%），それに2回の小テストの成績（30%）と文法習得用宿題（20%）を合わせて総合的に評価する。なお，リアクションメール提出が10回未満は不合格となる。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b（水3）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本庭園を語るドイツ語（水3） 私たちが，ドイツ語で日本について発信し，私たち自身について語るとき，ドイツ語母語者の語る内容には含まれないことを語らざるをえない。日本にはドイツにはない文化的事象や文化現象があるからだ。 そこで，ドイツの日本美術史家 Sschaarschmidt-Richter の „Gartenkunst in Japan“（『日本の庭園芸術』）を読んで，日本の伝統文化を説明するドイツ語を学ぶ。庭園の写真や図版は，われわれがドイツ語を理解する助けになる。 このテキストは叙述的文章だから，文章ドイツ語の文法構造と意味の把握に力を入れ，日本語とドイツ語における意味のずれに着目する。この意味のずれを覆い隠して原語の理解を妨げる訳読はしない。そうすれば，「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。最初の数週間で文章ドイツ語読解のための高橋文法を習得する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章ドイツ語読解のための文法 1 2. 文章ドイツ語読解のための文法 2 3. 文章ドイツ語読解のための文法 3 4. 文章ドイツ語読解のための文法 4 5. 大徳寺孤篷庵（だいとくじこほうあん）の庭園 1 6. 大徳寺孤篷庵（だいとくじこほうあん）の庭園 2 7. 大徳寺孤篷庵（だいとくじこほうあん）の庭園 3 8. 大徳寺孤篷庵（だいとくじこほうあん）の庭園 2 9. 大徳寺孤篷庵（だいとくじこほうあん）の庭園 3 10. 竜安寺石庭 1 11. 竜安寺石庭 2 12. 竜安寺石庭 3 13. 竜安寺石庭 4 14. 竜安寺石庭 5 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】 毎回講読する箇所の精読。 【事後学習】 毎回の授業の翌日 24:00 までに復習のリアクションメールを担当教員に送信する。		
テキスト、参考文献	【テキスト】 プリントを配付する。【参考文献】 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003（¥1,600）；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版（白水社）2003（¥1,600）		
評価方法	毎回送信のリアクションメールで評価（50%），それに2回の小テストの成績（30%）と文法習得用宿題（20%）を合わせて総合的に評価する。なお，リアクションメール提出が10回未満は不合格となる。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ニーチェ（1844-1900）の処女作『悲劇の誕生』（Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik 1872）のなかからいくつかの章を厳選し、それらの原典講読を通じて、ヨーロッパの芸術・文化の底流の一端に触れるのと同時に、ドイツ語の読解力が飛躍的に向上することを目的とする。</p> <p>古代ギリシアにおける「アポロ的なもの」と「ディオニュソス的なもの」という同書の中心概念を把握しつつ、この両極性の対立的協同の最大の果実ともいべきギリシア悲劇の誕生と死について、また彼の芸術観について個別の関連作品の解説やビデオ鑑賞などを織り交ぜながら考察して行きたい。</p>		<p>1回目 ガイダンス及び概説 2回目～15回目 『悲劇の誕生』の原典講読（厳選する章は未定、ビデオ鑑賞を含む）</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に予定の部分を辞書だけでなく、翻訳書も手掛かりにして、なるべく自分なりの言葉で訳しておいて下さい。事後に再度精読して下さい。		
テキスト、参考文献	原典講読に必要な部分のみプリント配布する。 副読本として：ニーチェ著・秋山英夫訳『悲劇の誕生』（岩波文庫、1966年）		
評価方法	期末試験（辞書持込可、60%）を基に平常点（40%）を加味して総合的に評価する。平常点も平素の授業態度と学習への取組度を基に総合的に評価する。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続いて、ニーチェの『悲劇の誕生』のなかからいくつかの章を厳選し、それらの原典講読を通じて、ヨーロッパの芸術・文化の源流の一端に触れるのと同時に、ドイツ語の読解力が更に飛躍的に向上することを目的とする。</p> <p>春学期に得られた内容の理解に基づいて「美的現象としてなら我々は依然として生存に耐えることができる」という彼のいわゆる「芸術家の形而上学」について、要するに実人生にとっての芸術・文化の意義について、悲劇の誕生と死と再生という本書の主題に添って個別の関連作品の解説やビデオ鑑賞などを織り交ぜながら考察して行きたい。</p>		<p>1回目 ガイダンス及び概説 2回目～15回目 『悲劇の誕生』の原典講読（厳選する章は未定、ビデオ鑑賞を含む）</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に予定の部分を辞書だけでなく、翻訳書も手掛かりにして、なるべく自分なりの言葉で訳しておいて下さい。事後に再度精読して下さい。		
テキスト、参考文献	原典講読に必要な部分のみプリント配布する。 副読本として：ニーチェ著・秋山英夫訳『悲劇の誕生』（岩波文庫、1966年）		
評価方法	期末試験（辞書持込可、60%）を基に平常点（40%）を加味して総合的に評価する。平常点も平素の授業態度と学習への取組度を基に総合的に評価する。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) ドイツ語によるオペレッタ（軽歌劇又は喜歌劇）の作品をビジュアル的に鑑賞する。</p> <p>2) 教材の『作曲家と作品』を通して芸術の理解を深める。</p> <p>3) 教材を通してさらなるドイツ語の構文解析を習得する。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツ語によるオペレッタを作曲家別に扱う。作品の一部を映像にて紹介する。教材の『作曲家と作品』を精読する。受講生による研究発表（15分程度）も実施の予定。</p> <p>尚、オペレッタの知識は問わないが、音楽を愛好する積極的な受講生の参加を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. フランツ・レハール『ロシアの皇太子』 I 3. フランツ・レハール『ロシアの皇太子』 II 4. ヨハン・シュトラウス二世『ジプシー男爵』 I 5. ヨハン・シュトラウス二世『ジプシー男爵』 II 6. リヒャルト・ホイベルガー『オペラ舞踏会』 I 7. リヒャルト・ホイベルガー『オペラ舞踏会』 II 8. ジャック・オッフエンバック『美しきヘレナ』 I 9. ジャック・オッフエンバック『美しきヘレナ』 II 10. エメリッヒ・カールマン『サーカスの女王』 I 11. エメリッヒ・カールマン『サーカスの女王』 II 12. 研究発表 I 13. 研究発表 II 14. オペレッタ鑑賞 15. オペレッタ鑑賞と講義のまとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材の指定された箇所を予習しておくこと。また授業後はノート整理等の復習を必ず行うこと。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントで配布。参考文献は随時紹介の予定。		
評価方法	期末試験 60%、個人発表 20%、授業への参加度 20%		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) ドイツ語によるオペレッタ（軽歌劇又は喜歌劇）の作品をビジュアル的に鑑賞する。</p> <p>2) 教材の『作曲家と作品』を通して芸術の理解を深める。</p> <p>3) 教材を通してさらなるドイツ語の構文解析を習得する。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツ語によるオペレッタを作曲家別に扱う。作品の一部を映像にて紹介する。教材の『作曲家と作品』を精読する。受講生による研究発表（15分程度）も実施の予定。</p> <p>尚、オペレッタの知識は問わないが、音楽を愛好する積極的な受講生の参加を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. フランツ・レハール『ジュディッタ』 I 3. フランツ・レハール『ジュディッタ』 II 4. フランツ・レハール『ジプシーの恋』 I 5. フランツ・レハール『ジプシーの恋』 II 6. ヨハン・シュトラウス二世『ヴェネツィアの一夜』 I 7. ヨハン・シュトラウス二世『ヴェネツィアの一夜』 II 8. レオ・ファル『ドルの女王』 I 9. レオ・ファル『ドルの女王』 II 10. フランツ・レハール『パガニーニ』 I 11. フランツ・レハール『パガニーニ』 II 12. 研究発表 I 13. 研究発表 II 14. オペレッタ鑑賞 15. オペレッタ鑑賞と講義のまとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材の指定された箇所を予習しておくこと。また授業後はノート整理等の復習を必ず行うこと。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントで配布。参考文献は随時紹介の予定。		
評価方法	期末試験 60%、個人発表 20%、授業への参加度 20%		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、大きく分けて2つあります。</p> <p>第1に、ドイツ語で世界の名画（ダ・ヴィンチ「モナリザ」、北斎「神奈川沖波裏」、クリムト「接吻」など）に関する子ども向けの記述を理解し、ドイツ語の読解能力を向上させること。</p> <p>第2に、絵画を読み解く力の最初歩を身につけること。</p> <p>授業では、テキストを読むと同時に、画家や作品などについて、簡単な発表をしてもらいます（日本語かドイツ語）。</p> <p>発表を準備する都合上、第1回の授業には必ず参加してください。参加できない場合には、必ず前もって矢羽々までメールをください（Mail: tyahaba@dokkyo.ac.jp）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（授業の概要、評価などの説明、分担） 2. 絵画を読むために 1 3. 絵画を読むために 2 4. ボッティチェリ「春」 5. 同上 6. ダ・ヴィンチ「モナ・リザ」 7. 同上 8. 北斎「神奈川沖波裏」 9. 同上 10. クリムト「接吻」 11. 同上 12. カンディンスキー「黄・赤・青」 13. 同上 14. まとめ 15. 期末試験 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱うテキストをていねいに読んでおくこと。発表担当の場合にはしっかり準備すること。		
テキスト、参考文献	Rosie Dickins: Kunst – Die berühmtesten Gemälde der Welt: Kunstwerke entdecken und verstehen. Würzburg (Arena) 2010. (コピー配布) 参考文献については、授業時に指示します。		
評価方法	授業への参加度（コメントシート、発表など）=50%、期末試験=50%。 詳細については、第1回の授業時に指示します。		

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 現代のドイツ語圏における現代社会の実情と文化に関する基礎的な知識を養い、この地域に対する関心を深めることを目的としています。</p> <p><講義概要> 政治・経済だけではなく、様々な角度からドイツ、そしてオーストリア、スイスを概観し、時事問題、現代事情への理解を深めていきます。</p> <p>また現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。</p> <p>講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ドイツ語圏の基本情報 3 ドイツの地形と自然 4 オーストリア、スイスの地形と自然 5 ドイツの政党/政治体制 6 ライフスタイル 7 オーストリア、スイスの政党/政治体制 8 EUや世界との関係 9 食文化① 10 ドイツ語圏の経済/産業 11 メディア/権利 12 食文化② 13 戦後史①旧西ドイツ 14 戦後史②旧東ドイツ 15 まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の現代社会に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。		
テキスト、参考文献	資料は適宜プリントを配布します。参考文献は必要に応じて指示します。		
評価方法	学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。 詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。		

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 春学期に学んだことをベースに、ドイツにおける現代事情に関する知識をさらに深めることを目的としています。</p> <p><講義概要> 春学期とは異なった角度から現代事情を考察し、理解を深めます。</p> <p>また春学期に引き続き、現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。</p> <p>講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ドイツ戦後の歴史① ベルリンの壁崩壊まで 3 ドイツ戦後の歴史② ドイツ統一と統一後 4 若者① 教育制度 5 若者② 6 家族① 女性 7 家族② 家族形態 8 雇用と労働 9 社会福祉 10 宗教 11 ドイツのクリスマス 12 移民問題① 13 移民問題② 14 まとめ 15 まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の現代社会に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。		
テキスト、参考文献	資料は適宜プリントを配布します。参考文献は必要に応じて指示します。		
評価方法	学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。 詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。		

09年度以降	ドイツ語圏歴史概論 a	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 ハプスブルク君主国は中世から第一次世界大戦の終わりまでヨーロッパに存在した国家である。ここでは便宜上「ハプスブルク君主国」と呼んでいるが、実は19世紀になるまで正式な国家名称は存在することもなく、とらえどころのないあいまいな国家であった。その支配領域も中核となったオーストリア諸邦に加え、現在のチェコ、スロヴァキア、ハンガリー、スロヴェニア、クロアチア等々、多岐にわたり、言語構成も民族構成も多様であった。春学期は、ドイツ語圏の歴史過程に大きな影響を与えていたハプスブルク君主国を中心に、神聖ローマ帝国解体までのドイツ語圏の歴史について扱う。</p>		<p>第1回 授業ガイダンス、 第2回 総論「ハプスブルク君主国の特色」 第3回 婚姻政策による拡大 第4回 オーストリア家、世界帝国への道 第5回 宗教改革、宗派化の時代 第6回 三十年戦争 第7回 ヴェストファーレン体制 第8回 第二次ウィーン包囲とその記憶 第9回 国事詔書と継承戦争 第10回 マリア・テレジア 第11回 ヨーゼフ2世の啓蒙改革 第12回 ヨーゼフ主義 第13回 ナポレオン戦争と神聖ローマ帝国解体 第14回 まとめ 第15回 まとめ</p>	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：講義で扱う時代の歴史について、高校で使用した世界史の教科書を読んでおいてください。 事後：指定された参考文献について自分の関心に応じて読んでください。		
テキスト、参考文献	講義中に適宜指示する。		
評価方法	平常授業での課題（50%）、期末レポート（50%）、詳しくは授業ガイダンスで説明する。		

09年度以降	ドイツ語圏歴史概論 b	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 春学期に引き続き、秋学期では19世紀以降のドイツ語圏の歴史について扱っていく。本講義には二つの軸がある。ハプスブルク君主国の解体過程とドイツ国民（帝国）の形成過程である。多様な民族構成を持っていた近代のハプスブルク君主国について学ぶことは、移民の背景を持つ人々が増加傾向にある現代のドイツ語圏の社会を考える上でも、あるいは我々自身の社会を考えていく上でも非常に重要なことである。 また、それまでバラバラの領邦国家に分散していたドイツ国民がいかにして誕生したのか、いかにしてドイツ国民というアイデンティティを生み出したのかについても考えていく。 理解を深めるため、春学期と継続して履修することが好ましい。</p>		<p>第1回 授業ガイダンス 第2回 19世紀までのドイツ語圏の歴史概観 第3回 ウィーン体制 第4回 1848年革命（I） 第5回 1848年革命（II） 第6回 ドイツ国民とは何か 第7回 ドイツ帝国の誕生 第8回 ドイツ帝国誕生の裏側：その時、ハプスブルクは 第9回 第一次世界大戦（I） 第10回 第一次世界大戦（II） 第11回 ワイマル共和国 第12回 ポスト・ハプスブルクの時代 第13回 ナチズムの時代 第14回 まとめ 第15回 まとめ</p>	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：講義で扱う時代の歴史について、高校で使用した世界史の教科書を読んでおいてください。 事後：指定された参考文献について自分の関心に応じて読んでください。		
テキスト、参考文献	講義中に適宜指示する。		
評価方法	平常授業での課題（50%）、期末レポート（50%）、詳しくは授業ガイダンスで説明する。		

09年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の概要</p> <p>一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat（社会国家）という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。</p> <p>春学期は、EU最大の経済大国であるドイツを対象を絞り、その政治の仕組みを概観します。その上で、現代ドイツが抱えている問題と課題を考えます。</p> <p>授業では、ドイツの政治・経済・社会の基本的仕組みを押さえます。最後に東ドイツ問題、EUとの関係にも触れます。日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——講義の概要 2. 憲法 3. 政治システム（1）連邦制、立法機関 4. 統治システム（2）行政機関、司法機関 5. 統治システム（3）中央銀行 6. 政党（1） 7. 政党（2） 8. 選挙制度 9. 直接民主主義—市民運動 10. マスメディア—出版・報道の自由 11. 経済システム 社会的市場経済 12. EUとドイツ（1） 13. EUとドイツ（2） 14. 東ドイツ 15. 授業内テスト 	
到達目標	ドイツ語圏の政治・経済に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
テキスト、参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治 統一後の20年』ミネルヴァ書房、2014年。		
評価方法	学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。毎回コメントペーパーを提出してもらう。		

09年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 b	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の概要</p> <p>一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat（社会国家）という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。</p> <p>秋学期は、社会国家の根幹をなしている社会政策・労働政策に目を向け、これを個別領域ごとに具体的に取り上げて検討していきます。日本を含めた国際比較を意識しながら問題の背景や展望について考えていきます。</p> <p>授業の内容</p> <p>（職業）教育分野、雇用分野、失業や貧困、ワークライフバランスなどを取り上げます。日本でも大きな問題になっているテーマですので、参加者には時事問題にアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——講義の概要 2. 教育制度（1）教育制度全般 3. 教育制度（2）職業教育 4. 教育制度（3）高等教育 5. 教育制度（4）教育予算と機会均等 6. 雇用システムと労使関係（1）導入 日本の状況 7. 雇用システムと労使関係（2）労働協約自治 8. 雇用システムと労使関係（3）共同決定 9. 教育制度と雇用制度の関係 日独比較 10. 労働市場（1）労働市場の特徴 11. 労働市場（2）近年の変化——ハルツ改革 12. ワークライフバランス（1） 13. ワークライフバランス（2） 14. 社会国家の歴史と現状 15. 授業内テスト 	
到達目標	ドイツ語圏の政治・経済に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
テキスト、参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治 統一後の20年』ミネルヴァ書房、2014年。		
評価方法	学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。毎回コメントペーパーを提出してもらう。		

09年度以降	ドイツ語圏の歴史 a	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。</p> <p>春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦までを主要な対象時期に設定し、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、映像資料を使用し、解りやすい解説を心がける。授業は講義形式で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間授業計画、評価方法、参考文献等についての説明 2. 歴史とは何か：主要な歴史方法論 3. 記憶をめぐる論争(1)：ベルリンの記念碑論争 4. 記憶をめぐる論争(2)：ウィーンの記念碑論争 5. 記憶をめぐる論争(3)：映画『ショア』について 6. ハプスブルク帝国史(1)：マリア・テレジア以前 7. ハプスブルク帝国史(2)：マリア・テレジアの時代 8. 19世紀史(1)：ナポレオンとドイツ、オーストリア 9. 19世紀史(2)：1848年革命 10. 19世紀史(3)：若きヒトラーと世紀末ウィーン 11. 現代の開幕(1)：ドイツ統一と世界帝国への夢 12. 現代の開幕(2)：第一次世界大戦の原因 13. 現代の開幕(3)：第一次世界大戦の経過と帰結 14. 現代の開幕(4)：映像で見る第一次世界大戦 15. 講義のまとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。授業後は指示された関連文献を読みすすめ授業テーマについての理解を深めること。必要に応じて受講生には小レポートの提出が求められる。		
テキスト、参考文献	テキスト：石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社 2007年 増谷英樹／古田善文『図説オーストリアの歴史』河出書房新社 2011年 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%		

09年度以降	ドイツ語圏の歴史 b	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標は、ドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の現代史（第一次世界大戦以降）を受講生にわかりやすく解説することである。受講生は 20 世紀および 21 世紀にこの地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。</p> <p>秋学期は、(1)ドイツ革命とワイマール共和国、(2)ヒトラーの独裁体制、(3)第二次世界大戦、(4)戦後のドイツ連邦共和国の歩み、を主要なテーマとして、ドイツ語圏の激動の現代史を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、映像資料を使用し、解りやすい解説を心がける。授業は講義形式で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ革命 2. ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 3. ファシズムの誕生(1)：イタリアのファシズム運動 4. ファシズムの誕生(2)：ドイツのナチス運動 5. 危機の 30 年代 (1)：民主政治システムの崩壊 6. 危機の 30 年代 (2)：戦間期の国際政治 7. ナチス関連の映像資料紹介と解説 8. 受容と抵抗(1)：ナチスによる民衆統轄 9. 受容と抵抗(2)：抵抗の諸相 10. 第二次世界大戦(1)：大戦の経過と帰結 11. 第二次世界大戦(2)：大戦の経過と帰結 12. 連合国によるドイツ占領改革 13. 東西ドイツの成立から「ベルリンの壁」建設 14. 「新東方外交」からドイツ統一まで 15. 21 世紀のドイツ：「赤＝緑」政権からメルケル政権へ 	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。授業後は指示された関連文献を読みすすめ授業テーマについての理解を深めること。必要に応じて受講生には小レポートの提出が求められる。		
テキスト、参考文献	テキスト：石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社 2007年 増谷英樹／古田善文『図説オーストリアの歴史』河出書房新社 2011年 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%		

09年度以降	ドイツ語圏の地域・環境問題 a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。</p> <p><講義概要> ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。 春学期は主に、身近な問題である廃棄物・リサイクルを通じて環境問題への理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 環境問題・環境政策の概要 3. ドイツ語圏の地理的特徴 4. ドイツ環境行政の歴史としくみ 5. 各主体（緑の党・企業・NGO・市民など）の役割 6. 廃棄物・リサイクル（1） 7. 廃棄物・リサイクル（2） 緑のマーク 8. 廃棄物・リサイクル（3） デポジット 9. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（1） 10. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（2） 11. 自然保護・河川/ 水域における環境問題 12. 食と環境（有機農業） 13. エコマーク 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の地域・環境問題に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。		
テキスト、参考文献	資料は適宜プリントを配布します。参考文献は必要に応じて指示します。		
評価方法	学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。 詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。		

09年度以降	ドイツ語圏の地域・環境問題 b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。</p> <p><講義概要> ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。 秋学期は主に地球規模の環境問題について取り上げ、環境問題と他の社会問題とのつながりについて考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 旧東ドイツの環境問題 3. 南北問題 4. 地球環境問題とは（1）森林伐採、酸性雨、 5. 地球環境問題とは（2）（オゾン層、気候変動問題） 6. 国際交渉と日本の役割（京都議定書等） 7. 気候変動問題 8. エネルギー問題 9. 原子力政策 10. 再生可能エネルギー(1) 11. 再生可能エネルギー(2) 12. 大気汚染・交通政策 13. 環境教育 14. 環境意識 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の地域・環境問題に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。		
テキスト、参考文献	資料は適宜プリントを配布します。参考文献は必要に応じて指示します。		
評価方法	学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。 詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。		

09年度以降	ドイツ語圏と EU a	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ地域論</p> <p>本講義では、ドイツ語圏と EU について、ドイツ・ヨーロッパがどのように統合されていったのかを歴史的な背景から考察します。</p> <p>春学期では、ヨーロッパ統合にとって、二つの世界大戦と「ドイツ」をめぐる問題、そして冷戦が決定的な役割を果たしたことに留意し、歴史的な側面を重点的に論じます。この中でも、ヨーロッパ統合の始まりから現在の EU に至るまで、中心的役割を果たしているドイツの歴史に絞りを、ヨーロッパ統合とドイツの関係を見ていきます。特に 19 世紀末の世界のグローバル化から、二つの世界大戦と冷戦を経て、現在のヨーロッパ統合の形が出来あがるまでを、基本的に時系列を追う形で考えていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 導入—現在の EU とドイツ（政治・経済的の制度概説） 2. ドイツ帝国と世界の一体化 3. ドイツ帝国と第一次世界大戦 4. ヴァイマル共和国とヨーロッパ 5. ナチズムの台頭と第二次世界大戦 6. 占領時代のドイツと冷戦 7. 西ドイツ国家の誕生と西欧統合の始まり 8. アーデナウアーと西欧結合路線の推進 9. 西ドイツの「長い 60 年代」と 西欧社会 10. ブラントの東方外交とヨーロッパの緊張緩和 11. 70 年代の西ドイツと統合の地理的拡大 12. 80 年代の西ドイツと経済統合の深化 13. 冷戦終結と 1989 年の東欧革命 14. 東西ドイツの統一 15. EC から EU へ 	
到達目標	「ドイツ語圏と EU」に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に文紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	期末テスト 85%、授業への参加度 15%		

09年度以降	ドイツ語圏と EU b	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ヨーロッパ地域論</p> <p>本講義では、ドイツ語圏と EU について、ドイツ・ドイツ語圏諸国と EU は現在どのような特徴を備えているのか、また、現在どのような課題を抱えているのかをテーマに分けて考察します。</p> <p>第三回目までの講義では、ドイツ・オーストリア・スイスが EU の中に占める位置・役割について概説します。4-6 回では、現在のヨーロッパにおける、広い意味での文化的統合（＝「ソフト」な統合）を扱います。7-9 回では、ヨーロッパ・ドイツ語圏における「市民権」の歴史と、現在の教育政策を通じて、「EU 市民権」について考えます。10-12 回では、EU の拡大とそれに伴う危機について考察します。13-15 回では、現在の EU が直面している「危機」について、欧州憲法条約の失敗、通貨危機、「反ヨーロッパ」と言われる政治運動と難民問題を通じて見ていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに基づいた授業ガイダンス ー現在の EU とドイツ（政治・経済的の制度概説） 2. EU 中のドイツー①ドイツの「大国化」 3. EU 中のドイツー②オーストリア・スイスと EU 4. ドイツ・ヨーロッパの「ソフト」な統合ー①教育 5. ドイツ・ヨーロッパの「ソフト」な統合ー②記憶 6. ドイツ・ヨーロッパの「ソフト」な統合ー③科学技術 7. 市民権をめぐる問題ー①「市民権」の系譜 8. 市民権をめぐる問題ー②多重市民権と EU 市民権 9. 市民権をめぐる問題ー③ドイツの移民国化 10. EU の東方拡大ー①東ドイツ問題 11. EU の東方拡大ー②東ヨーロッパ諸国の加盟 12. EU の東方拡大ー③EU とトルコ 13. 現在の EU の「危機」ー①「統合」の終焉？ 14. 現在の EU の「危機」ー②ユーロ危機 15. 現在の EU の「危機」ー③「反ヨーロッパ意識」の台頭と難民問題 	
到達目標	「ドイツ語圏と EU」に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に文紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	期末テスト 85%、授業への参加度 15%		

09年度以降	ドイツ語圏現代社会・歴史特殊講義	担当者	V. シュタンツェル (客員教授)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Die Einigung Europas in Geschichte und Gegenwart Europa, wie wir es heute kennen, ist das Ergebnis einer langen Entwicklung nicht nur politischer Auseinandersetzungen, sondern auch im Denken der Europäer. Wir beginnen deshalb mit einem Blick weit zurück und werden im Lauf des Semesters schließlich beim heutigen Begriff „Europa“ und seiner geistigen wie politischen Bedeutung anlangen.</p> <p>Reader mit kurzen Texten von Malte Bachem: Karl der Große – Heiliger und Urahn, J.W. Goethe: Wilhelm Meisters Wanderjahre I,7, Rolf Hosfeld: Heinrich Heine. Die Erfindung des europäischen Intellektuellen, Gunter Hofmann: Willy Brandt und die europäische Revolution, Helmut Kohl: Aus Sorge um Europa, Jürgen Habermas: Zur Verfassung Europas, usw.</p>		<p><2016年度 秋学期> 詳細については初回授業時に説明します。</p>	
到達目標	ドイツ語圏の現代社会・歴史に関する高度専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	レポートあるいはプレゼンテーション 50%、授業への参加度 50%。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist das Arbeiten mit Texten und damit der Verbesserung des Leseverstehens. Dabei verwenden wir Lesetexte aus dem Bereich Moderne Gesellschaft und Soziologie im historischen Kontext.</p> <p>Wir lernen verschiedene Techniken kennen, die man beim Lesen verwenden kann, und erproben diese Techniken an konkreten Texten aus den oben genannten Bereichen.</p> <p>Zur Unterstützung des Leseverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Hören einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt. Das besprechen wir zu Beginn des Kurses.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Besprechung der Kursinhalte 2. Übung 1 + evtl. Fortsetzung von 1. 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben oder Vorbereitung außerhalb des Unterrichts in verschiedenem Umfang, abhängig vom jeweils behandelten Stoff.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein Test aus dem Bereich Leseverstehen.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Leseverstehens auf dem Gebiet Moderne Gesellschaft und Soziologie im geschichtlichen Kontext.</p> <p>Je nach Bedarf werden bereits erlernte Lesetechniken vertieft bzw. neue hinzugenommen.</p> <p>Ziel ist es, das Leseverstehen der Studierenden so zu festigen, dass sie in der Lage sind, das Gelernte unabhängig von der Unterrichtssituation selbständig auf Texte eigener Wahl anzuwenden.</p> <p>Zur Unterstützung des Leseverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Hören einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt. Das besprechen wir zu Beginn des Kurses.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Besprechung der Kursinhalte 2. Übung 1 + evtl. Fortsetzung von 1. Übung 2 3. Übung 3 4. Übung 4 5. Übung 5 6. Übung 6 7. Übung 7 8. Übung 8 9. Übung 9 10. Übung 10 11. Übung 11 12. Übung 12 13. Übung 13 14. Übung 14 15. Übung 15 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben oder Vorbereitung außerhalb des Unterrichts in verschiedenem Umfang, abhängig vom jeweils behandelten Stoff.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein Test aus dem Bereich Leseverstehen.		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・歴史） b	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Deutsche Literatur , wir lesen und sprechen über die Texte - auf Deutsch. In dieser Klasse wollen wir auch diskutieren, und kleine Interviews machen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellen und Sprichwörter, Buch S.1 2. Mozarts Brief, S.2 3. Rilkes Brief, S.4 4. Der Froschkönig, S. 6 5. Heidi, S. 10 6. Rilke, S.14 7. Goethe, S.18 8. Aphorismen, S.22 9. Krabat, S.24 10. Kafka, S.28 11. Celan, S.32 12. Weizsäcker, S.34 13. Süskind, S.38 14. Th. Mann, S.42 15. Referate 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Deutsche Texte verstehen lernen, ohne ins Japanische zu übersetzen		
テキスト、参考文献	LESEBUCH DEUTSCH, Asahi Verlag		
評価方法	Mitarbeit, Referate, schriftliche Hausaufgaben		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） a	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Unterricht werden wir schwierige, dicht geschriebene Texte über Wissenschaftsgeschichte lesen. Natürlich kann nur ein sehr kleiner Teil eines äusserst umfangreichen Gebiets vorgestellt werden. Ausgehend von den wissenschaftlichen Neuerungen im 17. Jahrhundert in Europa werden wir Blicke auf Naturgesetze, Eigentümlichkeiten der Wissenschaft, das Weltall, die Welt der Teilchen, sowie auf Evolution und Genetik werfen.</p> <p>Das von den Naturwissenschaften vermittelte Wissen sollte dem Menschen helfen, sich ein Bild von der Welt erschliessen zu können. Was ist das für ein Planet, auf dem wir leben, „was hält die Welt im Inneren zusammen?“, wie verhalten wir uns als Lebewesen, die evolutionären Prozessen unterworfen sind?.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Einführung und Erklärung des Semesterablaufs 2 Wiege der modernen Wissenschaften im 17. Jh. I 3 Wiege der modernen Wissenschaften im 17.Jh II 4 Eigentümlichkeiten der Wissenschaften im 20.Jh 5 Neue Werte in der Wissenschaft 6 Naturgesetze 7 Makrokosmos : wir werfen einen Blick ins Weltall 8 Mikrokosmos : wir werfen einen Blick auf Atome 9 Wie wird Leben definiert ? 10 Wie hat sich das Leben auf der Erde entwickelt? 11 Biologische Evolution 12 Wie wird aus einem Affen ein Mensch? 13 Moderne Genetik 14 Was sind wissenschaftliche Revolutionen? 15 Zusammenfassung 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Studierende sollten sich mit Werken aus dem naturwissenschaftlichen Bereich (populärwissenschaftlich geschrieben) vertraut machen.		
テキスト、参考文献	Kopien werden verteilt		
評価方法	50% Mitarbeit im Unterricht 50% Semesterendtest		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） b	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Unterricht werden wir schwierige, dicht geschriebene Texte über Wissenschaftsgeschichte lesen. Das von den Naturwissenschaften vermittelte Wissen sollte dem Menschen helfen, sich ein Bild von der Welt erschliessen zu können. Was ist das für ein Planet, auf dem wir leben, „was hält die Welt im Inneren zusammen?“, wie verhalten wir uns als Lebewesen, die evolutionären Prozessen unterworfen sind?.</p> <p>Ausgehend von den Texten, die wir im Sommersemester gelesen haben, werden wir uns mit spezifischen Aspekten der Wissenschaftsgeschichte auseinandersetzen. Insbesondere werden einzelne Persönlichkeiten und ihre Beiträge zur Wissenschaft genauer unter die Lupe genommen.</p> <p>Voraussetzung für die Teilnahme an diesem Unterricht ist, dass man sich bereits im Sommersemester mit dem Thema vertraut gemacht hat.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Einführung und Erklärung des Semesterablaufs 2 Text I 3 Text I 4 Text I 5 Text I 6 Text II 7 Text II 8 Text II 9 Text III 10 Text III 11 Text III 12 Text IV 13 Text IV 14 Text IV 15 Zusammenfassung 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Studierende sollten Biographien über Wissenschaftler aus dem 19. und 20. Jahrhundert lesen.		
テキスト、参考文献	Kopien werden verteilt		
評価方法	50% Mitarbeit im Unterricht 50% Semesterendtest		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Zunächst werden Strukturmerkmale von Texten sowie das für Textanalysen erforderliche Fachvokabular erarbeitet. Mithilfe dieses theoretischen Rüstzeugs sollen dann diverse Texte (einzeln, in Gruppen und im Plenum) gelesen werden, die sich auf aktuelle gesellschaftliche Themen und Debatten (Flüchtlingsproblematik, Energiewende, Medienkrise, Hochschulstudium u.ä.) in den deutschsprachigen Ländern beziehen. Bei den Themen wird auf die jeweils aktuelle Lage Rücksicht zu nehmen sein, so dass kurzfristige Änderungen möglich sind. Themenvorschläge von Seiten der Teilnehmer sind jedoch jederzeit willkommen und werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Ziel ist es, die Texte sowohl sprachlich als auch inhaltlich zu analysieren und die Lesekompetenz der Teilnehmer zu fördern. Unter anderem soll dabei das Fachvokabular der Teilnehmer erweitert werden. Außerdem sind Übungen vorgesehen, die dem Prüfungsteil „Lesen“ der TestDAF-Prüfung entsprechen.</p> <p>Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kurs- und Themenvorstellung 2. Strukturmerkmale von Texten 3. Textanalyse I 4. Textanalyse II 5. Thema 1/1 6. Thema 1/2 7. Thema 2/1 8. Thema 2/2 9. TestDAF Prüfungsteil Lesen (1) 10. TestDAF Prüfungsteil Lesen (2) 11. Thema 4/1 12. Thema 4/2 13. Thema 5/1 14. Thema 5/2 15. Zusammenfassung 	
到達目標	<p>専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>Die Texte werden in der Regel im Unterricht gelesen und sind bisweilen zu Hause vorzubereiten. Im Unterricht unerledigte Aufgaben sind eventuell als Hausaufgabe zu beenden. Dies sollte sich jeweils in einem Rahmen zwischen 15 und 30 Minuten bewegen..</p>		
テキスト、参考文献	<p>Die Texte werden digital übermittelt oder als Kopien ausgeteilt.</p>		
評価方法	<p>Die Note setzt sich zusammen aus der Mitarbeit im Unterricht und einem Test, der dem Prüfungsteil „Lesen“ der TestDAF-Prüfung entspricht. Sofern die Anzahl der Teilnehmer es zulässt, sind auch Präsentationen der Teilnehmer möglich.</p>		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Zunächst werden Strukturmerkmale von Texten sowie das für Textanalysen erforderliche Fachvokabular erarbeitet. Mithilfe dieses theoretischen Rüstzeugs sollen dann diverse Texte (einzeln, in Gruppen und im Plenum) gelesen werden, die sich auf aktuelle gesellschaftliche Themen und Debatten (Flüchtlingsproblematik, Energiewende, Medienkrise, Hochschulstudium u.ä.) in den deutschsprachigen Ländern beziehen. Da bei den Themen auf die jeweils aktuelle Lage Rücksicht zu nehmen ist, werden andere Texte als im Sommersemester zur Auswahl stehen. Kurzfristige Änderungen sind möglich. Themenvorschläge von Seiten der Teilnehmer sind jederzeit willkommen und werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Ziel ist es, die Texte sowohl sprachlich als auch inhaltlich zu analysieren und die Lesekompetenz der Teilnehmer zu fördern. Unter anderem soll dabei das Fachvokabular der Teilnehmer erweitert werden. Außerdem sind Übungen vorgesehen, die dem Prüfungsteil „Lesen“ der TestDAF-Prüfung entsprechen.</p> <p>Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kurs- und Themenvorstellung 2. Strukturmerkmale von Texten 3. Textanalyse I 4. Textanalyse II 5. Thema 1/1 6. Thema 1/2 7. Thema 2/1 8. Thema 2/2 9. TestDAF Prüfungsteil Lesen (1) 10. TestDAF Prüfungsteil Lesen (2) 11. Thema 4/1 12. Thema 4/2 13. Thema 5/1 14. Thema 5/2 15. Zusammenfassung 	
到達目標	<p>専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。</p>		
事前・事後学修の内容	<p>Die Texte werden in der Regel im Unterricht gelesen und sind bisweilen zu Hause vorzubereiten. Im Unterricht unerledigte Aufgaben sind eventuell als Hausaufgabe zu beenden. Dies sollte sich jeweils</p>		
テキスト、参考文献	<p>Die Texte werden digital übermittelt oder als Kopien ausgeteilt.</p>		
評価方法	<p>Die Note setzt sich zusammen aus der Mitarbeit im Unterricht und einem Test, der dem Prüfungsteil „Lesen“ der TestDAF-Prüfung entspricht. Sofern die Anzahl der Teilnehmer es zulässt, sind auch Präsentationen der Teilnehmer möglich.</p>		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) a	担当者	秋山 大輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das deutsche Europa, oder das europäische Deutschland</p> <p>金に目が眩むという言葉をご存知でしょう。とかく人がまさかの坂で足を滑らせ奈落に転げ落ちるとき、そこには何らかの形で金の存在があります。時代を問わず、また洋の東西を問わず、人の心を揺さぶるものは、畢竟、金なのではなからうか、そのように感じずにはられません。哀しい哉、私たちは金が物を言う世の中で暮らしています。まさに地獄の沙汰も金次第であるというような現代社会は、きっとこれからも変わらないでしょう。</p> <p>そこでこの文脈でヨーロッパとその周辺の地域に目を遣ります。どうしてEUおよびその周辺は今あのようなことになっているのか、これからどうなっていくのか、巷で言われているように、ヨーロッパはこのままドイツ化して行くのか、あるいはドイツはあくまでもヨーロッパの中の一つの国でいられるのか、まとまった分量のドイツ語で書かれた文章の読み方を徹底的に指導することは言うまでもなく、そのようなことをより深く考える契機にすることが担当者の狙いどころです。春学期はまずそもそもドイツとは何かをしっかりと考えることに取り組みます。</p> <p>(以下を秋学期の欄に記します。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講座の概要と評価方法の説明・テキストの配布 2. Mann, Thomas: Ansprache vor Hamburger Studenten 3. 同上 4. 同上 5. Mann, Thomas: Deutschland und die Deutschen 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. Strauss, Botho: Anschwellender Bocksgesang 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 春学期のまとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	別記(講義目的、講義概要)を参照してください。		
テキスト、参考文献	Beck, Ulrich: Das deutsche Europa. Berlin 2012. Enzensberger, Hans Magnus: Immer das Geld! Berlin 2015. ほか ※プリントを配布しますので、これらの書籍を購入する必要はありません。		
評価方法	学年末試験(20%) 平常点(80%) ※出席することはごく当たり前のことであり、平常点の評価の対象に含みません。配点の意図などの詳細を初回に説明します。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) b	担当者	秋山 大輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das deutsche Europa, oder das europäische Deutschland</p> <p>秋学期の内容は春学期のそれを引き継いで、主題のテキストに取り組みます(Beck, Ulrich: Das deutsche Europa)。秋学期のみの履修ももちろん歓迎します。</p> <p>ドイツ語基礎(文法)を一通り学習していることを履修の前提とします。しかし2016年4月の時点でのその習熟の度合いはまったく問いません。ただ予習を比較的多くしなければなりません。そして復習をそれより多くしなければなりません。またその努力が必ずしも報われるとは限りません。しかしそうした中でも熱心に課題に取り組み、継続して努力する学生の履修を心よりお待ちしております。</p> <p>[付記] 一方的な教授に終始せず、テキストの内容について討論する機会があるのはもちろんのこと、場合によっては研究発表などのペアワーク・グループワークの機会も設けます。原則として学期末試験・学年末試験を実施しますが、本講座の性格からして、それらと相性がよいと思えず、課題の取り組み方やその出来などの平常点をきわめて重視します。学習の成果を最大限にするために、遅刻や欠席をより少なくするように努めてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講座の概要と評価方法の説明・テキストの配布 2. I. Wie die Euro-Krise Europa zerreit- und verbindet 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. II. Europas neue Koordinaten der Macht: Wie es zum deutschen Europa kommt 8. 同上 9. 同上 10. III. Ein Gesellschaftsvertrag fr Europa 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 秋学期のまとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	別記(講義目的、講義概要)を参照してください。		
テキスト、参考文献	Beck, Ulrich: Das deutsche Europa. Berlin 2012. Enzensberger, Hans Magnus: Immer das Geld! Berlin 2015. ほか ※プリントを配布しますので、これらの書籍を購入する必要はありません。		
評価方法	学年末試験(20%) 平常点(80%) ※出席することはごく当たり前のことであり、平常点の評価の対象に含みません。配点の意図などの詳細を初回に説明します。		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・歴史） a	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第二次大戦後のドイツは、日本とは異なり、占領から分断国家への道を歩みました。この授業では、その分断によって生まれ、ドイツの統一によって消えた国である東ドイツ（ドイツ民主共和国, DDR）の歴史を、比較的簡単に、短い文章ごとに区切られたテキスト Ilko-Sacha Kowalczyk, <i>Die wichtigsten Fragen DDR</i>, München:Beck, 2009. を使って学んでゆきます。</p> <p>前半は語彙を増やし、文法事項を確認するため、輪読形式を採用し、精読を目指します。後半では、どうやって「ざっと内容を把握するか」の練習を行いたいと思います。受講人数にもよりますが、担当を決めて内容をまとめ、5-10分程度での発表も予定しています。</p> <p>参加者の関心によっては、部分的に同シリーズの西ドイツ版、Edgar Wolfrum, <i>Die wichtigsten Fragen Bundesrepublik Deutschland</i> München:Beck, 2009. も使用します。（こちらについては、適時コピーを配ります）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. テキストの精読（1） 3. テキストの精読（2） 4. テキストの精読（3） 5. テキストの精読（4） 6. テキストの精読（5） 7. テキストの精読（6） 8. テキストの精読（7） 9. テキストの精読（8） 10. 担当範囲の訳読と発表（1） 11. 担当範囲の訳読と発表（2） 12. 担当範囲の訳読と発表（3） 13. 担当範囲の訳読と発表（4） 14. 担当範囲の訳読と発表（5） 15. 授業内試験 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定範囲を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	Ilko-Sacha Kowalczyk, <i>Die wichtigsten Fragen DDR</i> , Beck, 2009.		
評価方法	訳読や発表を通じた授業への参加度（40%）、授業内試験（60%）をもとに総合的に判断する。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、環境問題を中心とした現代社会事情についてのテキストを読みます。</p> <p>春学期は「水」をテーマにします。 「水」と聞いて何を思い浮かべますか？飲料水、プールの水、河川や海、色々とありますね。私たちの生活に水はかかせません。「水」を通して、様々な環境や社会問題を読み解いていきます。 テーマに変更がある場合は、授業でアナウンスします。 テキストを「読む」だけでは意味がありません。 そこで何が問題とされ、読み手に何を伝えようとしているのかを「読み解く」ために、テキスト内容についての発表や議論も合わせて行ないます。</p> <p>発表や議論も行いますので、授業に積極的に参加する学生を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. テキスト翻訳＋内容理解＋再翻訳 3. テキスト翻訳＋内容理解＋再翻訳 4. テキスト翻訳＋内容理解＋再翻訳 5. テキスト講読＋解説＋議論 6. テキスト講読＋解説＋議論 7. テキスト講読＋解説＋議論 8. テキスト講読＋解説＋議論 9. テキスト講読＋解説＋議論 10. テキスト講読＋解説＋議論 11. テキスト講読＋解説＋議論 12. テキスト講読＋解説＋議論 13. テキスト講読＋解説＋議論 14. テキスト講読＋解説＋議論 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：指定されたテキストの予習、発表等の準備 授業後：授業で話し合った内容について自習		
テキスト、参考文献	適宜配布する		
評価方法	授業への参加度、発表、提出物、小テスト、学期末テストで総合的に判断する		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、環境問題を中心とした現代社会事情についてのテキストを読みます。</p> <p>秋学期のテーマは、「気候変動」を予定しています。 人間活動がどのように気候変動に影響を与えているのか、気候変動が、私たちの生活にどのような影響を与えるのかテキストを読みながら考えていきます。 テーマに変更がある場合は、授業でアナウンスします。</p> <p>テキストを「読む」だけでは意味がありません。 そこで何が問題とされ、読み手に何を伝えようとしているのかを「読み解く」ために、テキスト内容についての発表や議論も合わせて行ないます。</p> <p>発表や議論も行いますので、授業に積極的に参加する学生を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. テキスト翻訳＋内容理解＋再翻訳 3. テキスト翻訳＋内容理解＋再翻訳 4. テキスト翻訳＋内容理解＋再翻訳 5. テキスト講読＋解説＋議論 6. テキスト講読＋解説＋議論 7. テキスト講読＋解説＋議論 8. テキスト講読＋解説＋議論 9. テキスト講読＋解説＋議論 10. テキスト講読＋解説＋議論 11. テキスト講読＋解説＋議論 12. テキスト講読＋解説＋議論 13. テキスト講読＋解説＋議論 14. テキスト講読＋解説＋議論 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：指定されたテキストの予習、発表等の準備 授業後：授業で話し合った内容について自習		
テキスト、参考文献	適宜配布する		
評価方法	授業への参加度、発表、提出物、小テスト、学期末テストで総合的に判断する		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） a	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語で書かれたテキストを文法知識を確認しつつ、さらにまた文法知識と語彙を増やす目的で読んでいく。ドイツ語テキストの精読、および日本語に正確に訳す能力をつける。</p> <p>テキストは注のついた読本を用いる。各自が自宅で予習し訳出できるようにしておく。分からないところは授業中に質問できるようにしておく。ドイツ語のテキストを読むことを通して、曖昧で安易な理解を斥け、論理的な思考力を養う。</p> <p>内容はドイツの一般的な通史であるから、難解なものではない。きちんと背景を説明するので、ドイツ語の読解力を伸ばしたい学生は履修する甲斐があるはずだ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の紹介 担当者決定 2. 訳出と文法説明、議論 3. 訳出と文法説明、議論 4. 訳出と文法説明、議論 5. 訳出と文法説明、議論 6. 訳出と文法説明、議論 7. 訳出と文法説明、議論 8. 訳出と文法説明、議論 9. 訳出と文法説明、議論 10. 訳出と文法説明、議論 11. 訳出と文法説明、議論 12. 訳出と文法説明、議論 13. 訳出と文法説明、議論 14. まとめ 15. 授業内試験 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	すでにドイツ語の基礎知識以上を習得した学生が中級段階のテキストを読みこなせるようになる。		
テキスト、参考文献	Zettel, Erich(久保編) : Deutschland in Geschichte und Gegenwart (郁文堂)		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。評価の内訳・割合は初回の授業で説明する。		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） b	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語で書かれたテキストを文法知識を確認しつつ、さらにまた文法知識と語彙を増やす目的で読んでいく。ドイツ語テキストの精読、および日本語に正確に訳す能力をつける。</p> <p>テキストは注のついた読本を用いる。各自が自宅で予習し訳出できるようにしておく。分からないところは授業中に質問できるようにしておく。ドイツ語のテキストを読むことを通して、曖昧で安易な理解を斥け、論理的な思考力を養う。</p> <p>内容はドイツの一般的な通史であるから、難解なものではない。きちんと背景を説明するので、ドイツ語の読解力を伸ばしたい学生は履修する甲斐があるはずだ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の紹介 担当者決定 2. 訳出と文法説明、議論 3. 訳出と文法説明、議論 4. 訳出と文法説明、議論 5. 訳出と文法説明、議論 6. 訳出と文法説明、議論 7. 訳出と文法説明、議論 8. 訳出と文法説明、議論 9. 訳出と文法説明、議論 10. 訳出と文法説明、議論 11. 訳出と文法説明、議論 12. 訳出と文法説明、議論 13. 訳出と文法説明、議論 14. まとめ 15. 授業内試験 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	すでにドイツ語の基礎知識以上を習得した学生が中級段階のテキストを読みこなせるようになる。		
テキスト、参考文献	Zettel, Erich(久保編) : Deutschland in Geschichte und Gegenwart (郁文堂)		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。評価の内訳・割合は初回の授業で説明する。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	中川 純子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、インターネットで配信される報道テキストを素材に、記事を読むことを通じて報道・報告のドイツ語を学びます。さらに読むだけでなく、ラジオニュースなどを聞き、伝える側の視点に立って効果的な伝達についても考えます。相手に情報を伝えるには内容の把握はもちろんのこと、どう伝えたいのかという判断も重要になります。発音面では単語レベルでの正確さと明瞭さはもちろんのこと、ポーズ、イントネーション、アクセント、声の大小や読む速度なども大きな役割を果たします。ドイツ語母語話者の発音を聞くだけでなく、皆さんも実際に声を出し、聞き手への印象などを共に検討していきます。同じテキストが読み方によって全く違う印象を与える事を自らの発音で体験し、伝え手の立場から改めてニュースを見直してみてください。授業では自己評価・他者評価を行うほか、ワークシートを作成します。授業で学んだ事を生かし、ニューストピックを音読するという発表会を中間時と最終回の2回行います。		1. イントロダクション 2～7. テキストの読解と音読 8. 中間発表 9～13. テキストの読解と音読 14. まとめと復習 15. 最終発表	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。発音については、その日の授業で扱ったことを意識し、短時間でいいので日々発音トレーニングを行ってください。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントにて授業内で配布します。		
評価方法	中間発表と最終発表の録音およびワークシート 80%、共同作業への参加度 20%		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	中川 純子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、社会トピックを扱ったテキストの読解と音読に取り組みます。授業はグループ単位での共同作業を中心に行います。		1. イントロダクション 2～7. テキストの読解と音読 8. 中間発表 9～13. テキストの読解と音読 14. まとめと復習 15. 最終発表	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期に同じ		
テキスト、参考文献	春学期に同じ		
評価方法	春学期に同じ		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) a	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主題は「アーレントに学ぶ、全体主義＝虚無勢力との戦い、或いは無との対峙」。ハイデガーの遺稿『黒いノート』が熱い話題のさ中、アーレントの『アイヒマン裁判』に根源悪に対する態度決定（「悪人は凡庸で有る」）を理解し、両者の距離を測ることから始める。全体主義＝虚無勢力との戦いについては、反ユダヤ主義的傾向の有無を含め、最後は「無との対峙」にならざるを得ない。「活動的生」のベクトル（＝働く方向と大きさを持つ政治力学）を検証し、「哲学と政治の不和」を解明する。春学期は、テキストにアーレントの『全体主義の起源』（1955）を取り上げ、素読し分節化する。「洞窟の譬喩」を手掛かりに、西田哲学・久松の東洋的無の思想を参照することは避けられない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、主題説明とビデオ鑑賞 2. アイヒマン裁判の波紋と課題 3. Antisemitismus (1) 4. Antisemitismus (2) 5. Antisemitismus (3) 6. Imperialismus (1) 7. Imperialismus (2) 8. Totale Herrschaft (1) 9. Totale Herrschaft (2) 10. Übergangsüberlegung 11. Heidegger und Arendt 12. 個人発表 13. グループ発表（1） 14. グループ発表（2） 15. 春学期の総括 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『全体主義の起源』のドイツ語原書の他に、ハイデガーの『形而上学とは何か』に目を通しておくこと。		
テキスト、参考文献	Hanna Arendt, „Elemente und Ursprünge totaler Herrschaft“. Piper Verlag, 2015.		
評価方法	レポート提出。個人またはグループ学習による研究発表をこれに加える。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) b	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>年間の主題「アーレントに学ぶ、全体主義＝虚無勢力との戦い、或いは無との対話」。秋学期は、アーレントの著『活動的生』（1958, 1967）を通読し分節化する。春学期で扱った『全体主義の起源』（1955）を前提に、これをハイデガーの『形而上学とは何か』と読み合わせることで、疑惑の真相に迫る。一年を通じて「存在と無」（「なぜ存在であって無ではないのか」、ライブニッツ）に対して関心の共有点と態度決定の違い、アーレントにとってなぜ哲学でなく政治論なのか、そこから東西世界で異なる思索と行為、言語行為で際立つアプローチの違い、行為を貫く良心の異なる仕様をグループ学習で比較検討する。（活動的生の言語活動に注目すると、言語ゲームに参加する複数の人の「良心」が、日常世界の倫理的課題となる。関心ある人は、私のダルマ研究またヴィトゲンシュタイン諸論考を比較参照すること。）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、主題説明とインタビュー録画視聴 2. 啓蒙主義とユダヤ人問題、概説 3. Die menschliche Bedingtheit (1) 4. Die menschliche Bedingtheit (2) 5. Der Raum des Öffentlichen und des Privaten 6. Die Arbeit (1) 7. Die Arbeit (2) 8. Das Herstellen 9. Das Handeln 10. Die Vita Activa und die Neuzeit (1) 11. Die Vita Activa und die Neuzeit (2) 12. 個人発表 13. グループ発表（1） 14. グループ発表（2） 15. 秋学期の総括 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『活動的生』のドイツ語原書の他に、森一郎訳で大意を把握しておくのが賢明。		
テキスト、参考文献	Hanna Arendt, „Vita Activa oder Vom tätigen Leben“. Piper Verlag 2002.		
評価方法	レポート提出。個人またはグループ学習による研究発表をこれに加える。		

09年度以降	テキスト特殊研究（現代社会・歴史）	担当者	V. シュタンツェル （客員教授）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Deutschsprachiger literarischer Humor in der Nachfolge Tucholskys</p> <p>Der politische Humor Deutschlands, wie er durch Namen wie Ludwig Thoma, Simplicissimus, Kurt Tucholsky und Erich Kästner gekennzeichnet ist, hat sich im Lauf der Jahrzehnte nach dem Weltkrieg an die gesellschaftlichen Veränderungen Deutschlands angepasst und seinen Charakter gewandelt. Durch ihn als Brille lässt sich auch Deutschland heute besser – und unterhaltsamer – verstehen. Das wollen wir versuchen – um zum Semesterende selbstständig über solche Texte, Bilder und Aufzeichnungen lachen zu können.</p> <p>Reader mit kurzen Texten und Zeichnungen von Dieter Hildebrandt: Was bleibt mir übrig, Hans Traxler: Die Wahrheit über Hänsel und Gretel, Wolfgang Neuss: Gesammelte Werke, usw.</p>		<p><2016年度 秋学期></p> <p>詳細については初回授業時に説明します。</p>	
到達目標	高度専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	レポートあるいはプレゼンテーション 50%、授業への参加度 50%。		

交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ フランス映画『未来の食卓』 15. 講義のまとめと試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	(参考文献) トーマス・ライソン著、北野収訳『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。		
評価方法	期末試験（100%）。		

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説をする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） 5. JALとANAの登場と成長 6. LCC（低コスト航空会社） 7. アライアンス 8. 航空産業の課題について（ディスカッション） 9. 航空政策とJALの破綻と復活 10. オープンスカイと規制緩和 11. 航空安全 12. 航空機製造ビジネス 13. 航空産業の特性と航空運賃 14. 空港 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習（事前の予習無しでは理解が難しい内容も含まれている）		
テキスト、参考文献	テキスト（教科書）：『最新・航空事業論』（2013年2月、日本評論社）		
評価方法	受講姿勢、講義参画：50% 最終試験：50%		

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 1章 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3章 5. 教育・学び・文化 4章、5章 6. ジェンダーとフェミニズム 6章 2 7. 宗教と社会開発 NGO 7章 2 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 7章 3 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8章 2 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 8章 3 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。 ※DUO等で各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境 6、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 7、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 8、パッケージツアー③：商品企画における「知識」 9、空間の管理とテーマ化 10、テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、感情労働 12、テーマ化された空間に暮らす 13、テーマ化された空間の将来 14、観光化する社会と「ツーリズムの終焉」？ 15、まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。</p> <p>ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①:メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②:宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①:ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④:ニューヨーク・タイムズの19世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20世紀とメディア①:国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20世紀とメディア②:ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③:湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②:ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③:トランスナショナル・メディアと わたしたち 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（戦争の記憶と表象—オーストラリアと日本）</p> <p>授業の導入部分では、4月25日のANZAC DAYを概観する。オーストラリアの義勇兵が、第1次世界大戦のはじめ、トルコのガリポリで上陸作戦を開始した記念日だが、昨今は、愛国心の過度の表出を懸念する向きもある。</p> <p>http://www.awm.gov.au/commemoration/anzac/anzac-tradition/</p> <p>その後の授業では、検討の対象を日本に移し、「特攻」を賛美するかのような近年の風潮や、兵隊たちと性行為を強要させられていた女性たちの「強制連行」がなかったと主張する政府やメディアの戦略を考える。沖縄での強制集団死や、朝鮮人、中国人強制連行・労働を含め、戦争が日本でどのように記憶され、文化的に表象されてきたかを問題にし、受講生と共にディスカッションしていく。映画『ホテル』や、井上ひさしの戯曲『きらめく星座』なども題材として取り上げる予定。</p> <p>土日などを利用して、靖国神社「遊就館」や「わたしの戦争と平和資料館」など、学外の施設を見学してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ANZAC 3. ANZAC 4. ANZAC(ディスカッション) 5. ANZAC(まとめ) 6. 「慰安婦」(導入) 7. 「慰安婦」(1) 8. 「慰安婦」(2) 9. 「沖縄・集団死」(1) 10. 「沖縄・集団死」(2) 11. 「強制連行・労働」(1) 12. 「強制連行・労働」(2) 13. 戦争の記憶と映画・演劇 14. 戦争の記憶と映画・演劇 15. まとめのディスカッション 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。		
テキスト、参考文献	参考文献として、Norma Field, <u><i>In the Realm of a Dying Emperor</i></u> (1993)を挙げておく。日本語訳で読むことも可能（共に本学図書館所蔵）。その他、英文のものを含め、新聞・雑誌記事などを使う。詳しくは初回の授業で説明する。		
評価方法	学期末のレポートと、学期中に複数回提出してもらう短いレポート、毎週書き込んでもらうクラスのフェイスブックを評価の対象とする。十分な予習・復習をした上で、授業に積極的に参加することが、単位取得の条件となる。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがそれを受け入れる社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっており、それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。</p> <p>本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。</p> <p>具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思います。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌 1 4. グローバリゼーションの民族誌 2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急Ⅰ』 7. 表象の政治学—情報資本主義と観光 8. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光—「神々の島」パリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム—タイの事例 13. エスニック・ツーリズム—タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションについて① 3. イベント・コンベンションについて② 4. 国際博覧会 5. 東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. オリンピックの歴史・意義・役割について 10. ビジネスの視点からのオリンピック① 11. ビジネスの視点からのオリンピック② 12. プレゼンテーション：「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 13. " ② 14. " ③ 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め、より多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造（1） 3. ツーリズムの基本構造（2） 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディア情報を確認し、ツーリズムに関する情報を事前に確認しておくこと		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70％ 最終試験：30％		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 在日コリアンを例に 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	参考文献は適宜授業中に示す。		
評価方法	期末試験（85%）、学期中宿題としてレポート課題が1回ある（15%）。		

13年度以降 09～12年度	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。地域や町が発展することとはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろの捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 地域の発展を理解するための視座（教科書1章） 3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2章） 4. 生ゴミリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3章） 5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4章） 6. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 7. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグラン（10章） 8. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7章） 10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11章） 12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8章） 15. まとめ、試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイドンス 2、ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3、おみやげとスーベニア 4、観光みやげの近代 5、「民芸品」をめぐるまなざし 6、観光みやげと真正性 7、観光みやげのギフト性 8、観光みやげの儀礼的倒錯性 9、観光みやげと「ものがたり」 10、旅するマトリョーシカ① 11、旅するマトリョーシカ② 12、おみやげが媒介する文化 13、民芸品としてのアジア雑貨 14、アジア雑貨が創る旅 15、まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆に SNS へアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいがい、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アー&ラースン、2011=2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。そのためこの講義では、国際的な研究成果を日本の社会文脈に導入し、出席者とともに「自撮り（Selfie）」や「絶景」など、トランスナショナルな社会現象を考え、写真と映画を主な題材として「観る」ということを歴史社会学の方法で考察します。</p> <p>より具体的な講義の目的は、写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、「撮る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探ることで、近代社会におけるイメージとイメージネーションの諸問題を考えることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：観光写真と写真観光 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：戦後日本の写真産業と家族写真 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：トランスナショナル・イメージとツーリズム（天皇のイメージ） 8. 「観る」の政治学①：「動く画」の発明（映画の誕生） 9. 「観る」の政治学②：映画の技法 10. 「観る」の政治学③：ディズニー映画と domestication 11. 「観る」の政治学④：映画の「まなざし」とロードムービー 12. 「観る」とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 「観る」とツーリズム②：「自撮り」を考える 14. 「観る」とツーリズム③：SNSと「観る」ことの変容 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテル・旅館ビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動向等を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション+ディスカッション」では、各産業への提案を各自パワーポイントを使って行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 3. 旅行産業の現状と課題① 4. 旅行産業の現状と課題② 5. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① 6. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② 7. リゾートホテル・ビジネス 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空産業の最近の動向① 10. 航空産業の最近の動向② 11. プレゼンテーション① 12. プレゼンテーション② 13. プレゼンテーション③ 14. プレゼンテーション④ 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%		

13年度以降 09～12年度	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」のシンボルになり、あるいは「観光くにつくり（観光立国）」の理念にもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域アイデンティティの創造などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。</p> <p>ここでは担当者が研究している Guam、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. Guamから考える①：かつてGuamは日本の島だった 3. Guamから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. Guamから考える③：「日本人の楽園」と基地の島 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の観光と真正性 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討します。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。</p> <p>本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民や少数民族、都市のスラムといった「第四世界的状況」を取り上げることが多くなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 趣旨説明 オルタナティブ・ツーリズムの背景 ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 貧困の商品化—スラム・ツーリズムの事例 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略 環境主義の商品化—エコリゾート 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 先住民とアート—北米インディアン事例 先住民とミュージアム—アイヌの事例 エコツーリズムと先住民 1 エコツーリズムと先住民 2 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

外国語学部共通科目シラバス

09年度以降	総合講座「自由とは何か」	担当者	阿部 明日香 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代に生きる私たちは、「自由な個人」なのでしょうか。ひとりひとりが自分の意思に基づいて考え行動しているのか、それとも、おかれた環境や文化に依存し、その規範を内面化することで自己決定をさせられているのでしょうか。あるいはもっと直接的に権力や制度などによって規制あるいは監視され、個人の自由が制限される場合もあります。本講座では、自由と自由を規制するもの（自己規制を含む）のせめぎ合いについて、時代を問わずさまざまな学問分野（政治、法律、思想、社会、文化、文学、言語、芸術、宗教など）から論じていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 4/13 イントロダクション 2. 4/20 憲法（学）における「自由」の意味について（右崎正博） 3. 4/27 学部主催講演会に振替 4. 5/11 自由と紛争：人間の安全保障における自由を考える（石川幸子） 5. 5/18 北朝鮮における「不自由」と「自由」（金子芳樹） 6. 5/25 環境分野から見た自由（岡村りら） 7. 6/1 経済的自由と政治的自由の相克—なぜドイツでは「自由主義」が弱いのか（大重光太郎） 8. 6/8 自由とメディアの関係史（山口誠） 9. 6/15 ドレフュス事件とゾラ：『私は告発する』（福田美雪） 10. 6/22 自由、それを失う可能性（中島万紀子） 11. 6/29 アメリカを百万分の一インチ変えた詩、アレン・ギンズバーグの「吠える」("Howl")にみる解放のヴィジョン（原成吉） 12. 7/6 帰属と自由（上野直子） 13. 7/13 「自由とは何か」を再考する—ルソーとラカンの場合（若森榮樹） 14. 7/20 フランスのテロ事件をめぐって（仮）（西谷修） 15. まとめ 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指示された参考文献に目を通す。講義のノートを復習する。		
テキスト、参考文献	担当講師から指示されます。		
評価方法	毎回のコメントペーパー。学期末試験。		

09年度以降	総合講座「神話はいかにしてつくられるか」	担当者	廣田 愛理 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>神話とは一般にはまず「特定の民族・共同体に関わる世界の起源とその意味を説明する物語」を指しますが、20世紀以降その用法は拡大し「現代社会の特定の集団において普遍と信じられている物語」を表す言葉としても用いられています。また「日本の安全神話」といったように、根拠なく事実だと思われている事象を指す用法も一般化してきました。そこで本講座では「特定の集団を広く支配し、考え方や行動を規定する原理となり得るもの」として、神話について時代を問わずさまざまな学問分野（政治、法律、思想、社会、文化、文学、言語、芸術、宗教など）から論じていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 9/28 イントロダクション 2. 10/5 ヒーローのつくりかた—イタリア統一運動における絵画・挿絵・テキストの戦略—（尾崎有紀子） 3. 10/12 レーニ・リーフェンシュタール—美と神話と政治のはざままで—（山本淳） 4. 10/19 東ドイツの国民と国家の「神話」—自己解放と抵抗（伊豆田俊輔） 5. 10/26 アフリカをめぐる神話と国際情勢（佐野康子） 6. 11/2 コロニアリズムという神話（須永和博） 7. 11/9 「女らしさの神話」のいま（片山亜紀） 8. 11/16 男性ヌードの神話（青山愛香） 9. 11/30 「常識」を疑う（川村肇） 10. 12/7 日常生活における神話（平田周） 11. 12/14 The Universal Story: Themes and Motifs in Myths & Folktales（本橋エレン） 12. 12/21 メディアパラノイア 共振する暗殺者たち（工藤達也） 13. 1/11 儀式殺人告発の神話（佐藤唯行） 14. 1/18 まとめ1 15. まとめ2 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指示された参考文献に目を通す。講義のノートを復習する。		
テキスト、参考文献	担当講師から指示されます。		
評価方法	毎回のコメントペーパー。学期末試験。		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋音楽史（1） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 日本人と西洋音楽 3. 古代ギリシャ・ローマの音楽、グレゴリオ聖歌 4. ヨーロッパの中世の音楽 5. ルネサンス音楽（1） フランドルを中心に 6. ルネサンス音楽（2） イギリス・スペインを中心に 7. ルネサンス音楽（3） イタリアを中心に 8. バロック音楽（1） イタリアを中心に 9. バロック音楽（2） フランスを中心に 10. バロック音楽（3） リュリとラモーを中心に 11. バロック音楽（4） イギリスを中心に 12. バロック音楽（5） ヴィヴァルディとペルゴレージ 13. バロック音楽（6） ドイツを中心に 14. 授業内試験 15. まとめ 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋音楽史（2） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を前提として話しますので、なるべく春学期から受講してください。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがあります。予め了解しておいて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典派の音楽（1） ハイドン 2. 古典派の音楽（2） モーツァルト 3. 古典派の音楽（3） ベートーヴェン 4. 19世紀の音楽（1） ヴェーバー、シューベルト、シューマン 5. 19世紀の音楽（2） ヴィルトゥオーソの時代 6. 19世紀の音楽（3） フランスを中心に 7. 19世紀の音楽（4） ロシアを中心に 8. 19世紀の音楽（5） 北欧と東欧を中心に 9. 19世紀の音楽（6） スペインを中心に 10. 19～20世紀の音楽（1） チェコ、ロシアを中心に 11. 19～20世紀の音楽（2） フランスを中心に 12. 19～20世紀の音楽（3） イタリアを中心に 13. 19～20世紀の音楽（4） イギリス、アメリカを中心に 14. まとめ 15. 授業内試験 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用方法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、受講者数や学習状況によって変更することがある</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、受講者数や学習状況によって変更することがある</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	情報科学各論（言語情報処理1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【初回授業は5月12日です。学期中に補講を行います】</p> <p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>言語情報処理 Ia では、「言語情報とは何か?」、「コーパス（＝言語データ）とは何か?」、「言語情報処理とは何か?」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】第1章「コーパス言語学への招待」 2. 第2章「コーパスとは何か」 3. 第3章「さまざまなコーパス」 4. 第5章「コーパス検索の技術」 5. 第6章「コーパス頻度の処理」 6. 第7章「コーパスと語彙」(1) 7. 第7章「コーパスと語彙」(2) 8. 第8章「コーパスと語法」(1) 9. 第8章「コーパスと語法」(2) 10. 第9章「コーパスと文法」(1) 11. 第9章「コーパスと文法」(2) 12. プレゼンテーション準備(1): RQを検討 13. プレゼンテーション準備(2): データ分析 14. プレゼンテーション準備(3): 資料作成 15. 発表(1) 16. 発表(2) 	
到達目標	コンピューターの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピューターを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

09年度以降	情報科学各論（言語情報処理2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容といえます。</p> <p>授業では、学習者コーパスを構築し、分析する演習が中心になります。言語情報処理 Ia を履修していなくても構いませんが、PC作業に慣れていることが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集(1) 5. 学習者データの収集(2) 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備(1): データ分析 13. プレゼンテーション準備(2): 資料作成 14. 発表(1) 15. 発表(2) 	
到達目標	コンピューターの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピューターを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「HTML初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTPの理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとイントロダクション 2. HTML と FTP の復習 (1) 3. HTML と FTP の復習 (2) 4. インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5. プログラミングの基礎知識 6. JavaScript (1) 7. JavaScript (2) 8. JavaScript (3) 9. JavaScript (4) 10. JavaScript (5) 11. CGI の利用 12. 総合課題 (1) 13. 総合課題 (2) 14. 総合課題 (3) 15. 鑑賞会 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備等を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業用 Web にて資料等を配布。参考文献等は随時紹介。		
評価方法	授業中に作成する課題 (60%) と平常点 (課題の途中経過等 40%) で総合評価する。		

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約 3. 家計の行動②－効用最大化 4. 家計の行動③－消費者余剰の概念 5. 企業の行動①－生産技術の決定 6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7. 企業の行動③－生産者余剰の概念 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得分配の決定 13. 政府の役割①－規制および補助金政策 14. 政府の役割②－租税政策 15. まとめ 	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 企業投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政政策の有効性 9. 金融政策の有効性 10. 国際収支と為替レートの決定要因 11. 開放マクロ経済下での経済政策 12. 公債発行と財政赤字 13. 経済成長の決定要因 14. 日本の公的債務と経済成長 15. まとめ 	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション・「社会心理学」講義の前に 2.社会心理学の概要 3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7.自己(1)：自分はどんな人間か 8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11.社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14.期末試験と振り返り 15.社会的影響(5)：人間の力 	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出してくること。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他(2010)．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート30%、期末試験70%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2.コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4.コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8.信頼社会と安心社会 9.社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10.社会的感情(2)：表情と感情 11.社会的感情(3)：生死を分ける感情 12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13.健康行動と社会心理学(2)：感染予防ための挑戦 14.期末試験と振り返り 15.社会心理学の未来 	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出してくること。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他(2010)．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート30%、期末試験70%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

シラバス ドイツ語学科

2016年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	